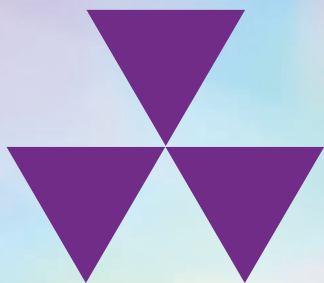


Doshisha University



同志社大学
大学案内
2024

同志社大学を知る

STEP 1 歴史・校風・雰囲気を知る

同志社の
先輩インタビュー
「多様な個が集まる場」

P10

従来の枠にとらわれずに
探り続けることが学び



常 藤原先生、お話を伺っています。同志社大学で学んでいる中で、どのような学びや経験が印象に残っていますか？

藤原先生、お話を伺っています。同志社大学で学んでいる中で、どのような学びや経験が印象に残っていますか？

一人ひとりの学生を
ちゃんと見てくれました

門井慶喜

門井先生、お話を伺っています。同志社大学で学んでいる中で、どのような学びや経験が印象に残っていますか？

創立者を知る
「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」

P16

諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ

創立者である、入道大田先生が、同志社大学に「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」という言葉を残された。この言葉は、同志社大学の教育理念の核心であり、今日まで多くの学生を育ててきた。

学長インタビュー
「『同志社』が大切にしていること」

P21

水谷優太

三浦千穂

学長先生、お話を伺っています。同志社大学が大切にしていることは何かありますか？

学長先生、お話を伺っています。同志社大学が大切にしていることは何かありますか？

4年間の流れを知る
「4 Years」

P64

4 Years 同志社大学での学び

1 オープンキャンパス
2 入学式/オリエンテーション
3 入学式/オリエンテーション
4 入学式/オリエンテーション
5 入学式/オリエンテーション
6 入学式/オリエンテーション
7 入学式/オリエンテーション
8 入学式/オリエンテーション
9 入学式/オリエンテーション
10 入学式/オリエンテーション
11 入学式/オリエンテーション

STEP 2 気になる学部・学科をチェック

P30

神学部

01 3つの神学を学ぶ
02 関心や目標に応じて
03 少人数ならではの
04 履修への不安を
05 履修への不安を

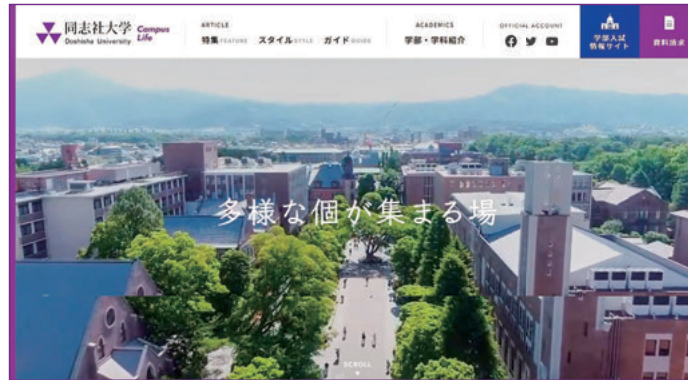
具体的な
学びを調べる
「『学び』を知る」

さらに
詳しい情報は
大学案内
webサイト
にて

大学案内webサイト Campus Life でわかること



大学案内webサイト



学部学科の詳細情報 「学部・学科紹介」



同志社大学生のリアルな声 「5問5答」



先生の研究を知る 「ようこそ、研究室へ」



キャンパス周辺情報も 「同志社大学のある町」

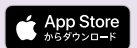


卒業生が自らを振り返る 「高校生のワタシへ」



アプリも 活用しよう!

入試情報やオープンキャンパス情報をお届けします。学部・学科比較ができるオリジナルコンテンツや、施設情報がわかるキャンパスマップも搭載。さらに、アプリから大学案内のデジタルパンフレットやwebオリジナルコンテンツもご覧いただけます。







Go, go, go in peace.

Be strong!

Mysterious Hand guide you!

— Joseph Hardy Neesima







建学の精神

良心教育

同志社大学では、「良心を手腕に運用する人物の養成」という建学の精神に基づいて「良心教育」を展開しています。その建学の精神を実現するために3つの教育理念を打ち立てています。それは、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」です。徳育の価値判断の基準をキリスト教に置き、一人ひとりの学生を大切に、束縛せず、学生が自らを律しながらも自由に行動することを尊重し、大きな視野でものごとを考えることを重視する。これらは全て、140年以上前から同志社の中で日々実践され、いつしかキャンパス全体を包む学風となりました。そして学生一人ひとりの日々の学びに深く浸透し、大学での生活をより実り多きものに行っているのです。

▼ キリスト教主義

1875年、同志社英学校開校の際、新島襄は最初の授業を祈りから始めました。この姿こそ同志社の基であり、同志社独自の学風を形成する最大の要素です。新島は、学生一人ひとりを、神がつくられた「人格」として尊重し、以来「人一人は大切なり」の精神が深く浸透しています。その結果、隣人を尊重し、他者に奉仕する「地の塩、世の光」とも言うべき人物をさまざまな分野の開拓者として送り込んできました。そうした営みは、これからも続きます。

▼ 自由主義

自立していること。自由であること。新島襄は、その価値を日本で最初に深く認識した人の一人でした。国禁を犯してまでアメリカに渡り、最も自由な場所で学んだ新島がつくった学園、それが同志社です。今出川キャンパスの中央に建つ明德館の壁面には「真理は汝を自由にする」という意味の聖書の言葉が掲げられています。誰よりも「自由」を大切と考えた新島の精神は、輝かしいリベラリズムの伝統となり、自発的に行動し自分の力を発揮できる人物を育てる豊かな土壌となっています。

▼ 国際主義

自ら世界の中心に身を置き、さまざまな経験をし、身体全体で世界を学んだ新島襄。彼は約10年に及ぶ海外生活の中で、教育の重要性に目覚めました。同志社では、創立者・新島のように、世界に目を向けて学ぶ姿勢を重視しています。異なる価値観を受け入れ、そこから幅広い「何か」を見いだせる人を育みたい—単にコミュニケーションの道具として外国語を学ぶだけでなく、多様な文化に触れて、グローバルに活躍する真の国際人の育成を目指します。

ONE PURPOSE

冒頭の「One purpose」は「一つの志」または「同志」を意味しており、100年以上の永きにわたり、同志社大学生に歌い継がれています。

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。
その学徒の精神的、肉体的に、
神のため、祖国のため、生きんという
一つの崇高な目的を。
親愛なる母校よ、同志社の学徒は、
ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。
たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
われらさまようとも、汝の教訓は、
われわれの心に永遠に生き続けることであろう。

(児玉実英 訳)

[Doshisha College Song]

Words by W.M. Vories



同志社徽章

制定年：1893(明治26)年 デザイン：湯浅半月(本名：湯浅吉郎)

古代オリエント学者で同志社神学校教授の湯浅吉郎が1893年に制作した徽章。もともと国や土を意味するアッシリア文字「ムツウ」を図案化したものですが、クローバーを思わせるこの校章は「知・徳・体」の全人格的な調和を目指す、「リベラル・アーツ教育」の真髄を象徴しています。

SCHOOL COLOR

スクール・カラーは、Purple & White(紫と白)の2色である。紫はロイヤル・パープルで、日本の古代紫と江戸紫の中間色に相当する。創立者新島襄が学んだアーモスト大学のスクール・カラーと同色である。社旗は、地を紫に、徽章を白で抜く。

この冊子の見方

各学部の紹介ページに学部・学科を詳しくご紹介する大学案内webサイト、本学webサイトと、関連情報をご紹介する電子パンフレットへのリンクを掲載しています。

- 掲載されている学生の学年は取材時、所属は入学年度による名称です。
- 掲載されている卒業生の所属部署等は取材時の情報・名称です。
- TOEFL、TOEFL iBT、TOEFL ITPおよびTOEICはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。

Contents

- 10 多様な個が集まる場
- 16 諸君ヨ、一人一人ハ大切ナリ
- 21 「同志社」が大切にしていること
- 25 同志社TOPICS——世界を知る
- 30 学部紹介
- 34 神学部
- 36 文学部
- 38 社会学部
- 40 法学部
- 42 経済学部
- 44 商学部
- 46 政策学部
- 48 グローバル地域文化学部
- 50 文化情報学部
- 52 理工学部
- 54 生命医科学部
- 56 スポーツ健康科学部
- 58 心理学部
- 60 グローバル・コミュニケーション学部
- 62 ILA(国際教育インスティテュート)紹介
- 64 4Years
- 70 留学・国際交流
- 72 奨学金制度
- 73 学生支援
- 75 未来への準備
- 80 入学試験
- 82 クラブ・サークル
- 83 研究
- 86 学生納付金
- 87 校友ネットワーク
- 88 専任教員スタッフ・研究分野一覧
- 96 同志社人の横顔
- 98 キャンパスマップ
- 99 大学公式webサイト・公式SNS / アクセスマップ



多様な 個が 集まる場

同志社大学に入学した同志社人たちは、
在学中や卒業後、社会のさまざまなフィールドで
活躍しています。

個性あふれる方々に、同志社での「学び」や
現在について語っていただきました。

Doshisha's Life
Hagio Kohei

目標を設定し、 自ら考え行動すること を 学んだ4年間

高校時代は陸上の長距離競技に夢中でした。大学でも陸上を続けようか、それとも新しいことにチャレンジしようかと迷っていたとき、「トライアスロンがオリンピック正式種目に決定」というニュースが飛び込んできました。これがきっかけで興味を持ち、大学ではトライアスロンを始めることにしました。

高校の陸上部は強豪校だったこともあり、コーチがトレーニングメニューをしっかりと決めていました。それは恵まれている部分ではあったのですが、どうしても「やらされている」面も出てきてしまう。それが、大学では一変しました。当時、同志社大学にはトライアスロン部はなく、同好会だったので、コーチはいません。トレーニングやマネジメントのすべてを学生たちで決めなければなりません。もちろん、大変なことも多かったのですが、それが楽しかった。

自分たちで目標を設定し、トレーニングメニューを決めていく。個人的にはスイムの能力を高めるため、外部のスクールに通っていたのですが、最初は私ひとりだったのが、気がつけば、どんどん同好会の仲間が増えていきました。一人ひとりが自分で考え、行動するという、いい循環が生まれてきました。もちろん、競技志向ではなく、楽しくやりたいという仲間もいましたが、それぞれの志向にあった方法で活動していました。大学も同好会である自分たちに体育会の宿所を使用させてくれるなど、サポートをしてくれました。

2年生から徐々に成果が出始めて、成績も残るようになりました。一番心に残っているのは、4年生のときに全日本学生選手権で上

位に入り、団体として出場できる権利を獲得したことです。トライアスロンは個人の競技ですが、チームとして目標を立てて、それをクリアした達成感は格別でした。

同志社大学に進学したのも「自治自立の精神」を教育理念としていることに共感を持ったからです。私はこの大学のトライアスロン同好会を通じていい仲間巡り合え、成長を実感できるいい環境に恵まれました。思い通りにならないことの解決策を一人ひとりが考えながら、仲間たちとともに乗り越えていく。そんな4年間でした。

仲間とゴールを設定して、プランを立てて実行する一連のことが、規模は違いますが今のビジネスにも直結しています。ビジネスの世界では思った通りに行かないことの方が多い。そのときにどうするか、自分で、そして仲間たちと考える力が大切です。

今の若い人たちに伝えたいのはこの主体性です。マニュアル通りにしか行動できないようだと仕事でもつまづくことが多いでしょう。「自分で考え、主体的に行動する」。同志社大学では、それをサポートする学びと環境が整っていると思います。



プーマ ジャパン代表取締役社長

萩尾孝平

1973年、福岡県生まれ。同志社大学商学部卒業。1996年、さくら銀行(現・三井住友銀行)に入行。2012年、プーマグループ入社。18年、取締役営業本部長。20年、ホールセールマーチャンダイジング本部長兼任。21年10月、代表取締役社長に就任。

従来の枠にとらわれずに、 探り続けることが学び

常識を壊す。今私をもっとも意識していることです。自分のレベルや競技の枠にこだわらず、誰も考えないような挑戦をすること。東京オリンピックの1500mで8位入賞を果たせたのも、結果ではなく挑戦に軸を置いていたからです。

オリンピック出場を目標とせず、より速くなること、自分の能力を高めることを考えて走り続けた結果、オリンピックになれました。得意種目を絞って勝負する選手が多いけれど、勝てる可能性のある種目をやめる必要はないというのが持論。可能性のある種目はいけるところまでいこうと取り組んできました。

1500mという上位進出が難しい種目で決勝まで進んでいく。それは大きな挑戦であり、実現できればきっといろんな人に驚きを与え、自分自身もワクワクできるはず。その気持ちがあったからこそ、得意の5000mで予選落ちしても1500mを楽しんで走り、最高峰の舞台で自分の未知の力を発揮することができたのだと思います。

常識を超えた発想には、同志社大学の学びが生かされていると感じています。自主自立を重んじる校風にひかれ、スポーツについて

幅広く学びたいと考えて同志社大学のスポーツ健康科学部を選びましたが、創立者・新島襄先生の「倜儻不羈」という言葉に出合ったことは大きかったです。「常軌を逸している人こそ大事にしてください」という意味で、同志社大学には、個性を受け入れてくれる大きな器があるのです。

固定観念をもたないことの重要性は、受講したどの科目でも度々出てくるメッセージでした。もう一つ学んだのは、結果よりも過程に重きを置く姿勢。この二つは、競技に取り組むスタイルに影響をあたえてくれました。従来のやり方をなぞるのではなく、新しい方法や目標を自分で考え、見つけてやっていくスタイルを確立することができました。

スポーツ健康科学部の、専門分野の一つに決まらず、スポーツ全般を学びながら興味のあることを見つけて極めていけるカリキュラムも魅力です。自ら関心をもってたどりついた専門的な学びを極めつつ、これまでの自分を超越するための考え方も身につける。そうやって、自分にしかできないアスリートのスタイルを追究し続けた4年間だったといえます。

大学では、陸上部に入らず独自の練習をしていましたが、所属をこえて、人としてのあり方の部分が尊重されているのを感じていました。学生同士も尊重し合い、居心地が良く、競技にのびのび取り組めたことも、結果につながったかもしれません。

大学に入学するまでは、強くなるための正解があって、そのノウハウを学ぶと思っていました。けれど正解はなく、自分が強くなるためにどうすればいいのか、どんな人生を送りたいのか、従来の枠にとらわれずに考えること、探り続けることが学びであると気付かされました。これからの人生に学びを落とし込んでいくことを、楽しみにしています。

Doshisha's Life
Tanaka Nozomi

陸上競技選手・New Balance所属

田中希実

1999年、兵庫県生まれ。2022年、同志社大学スポーツ健康科学部卒業。陸上女子1000m、1500m、3000mの日本記録保持者。東京2020オリンピックでは、女子1500m、5000mに出場。1500mで8位入賞を果たす。





Doshisha's Life
Kadoi Yoshinobu

作家

門井慶喜

1971年、群馬県生まれ。同志社大学文学部卒業後、大学職員として勤務し、2003年、『キッドナッパーズ』でオール讀物推理小説新人賞を受賞しデビュー。16年に日本推理作家協会賞、18年に『銀河鉄道の父』で直木賞を受賞。

作 家になる、という選択肢を示してくれたのは、同志社大学でした。本に囲まれた生活の魅力を背中で教えてくれた先生、そして素晴らしい閉架書庫のある図書館は、僕に新しい世界を見せてくれました。大学時代はあまり就職活動もせず、本ばかり読んでいましたが、いくらでも吸収できる時期に活字にふれられた経験は、かけがえのない財産になっています。

歴史も読書も好きで文学部文化学科(現・文化史学科)に進みましたが、「本を人生の中心にしてもいいんだ」と思えたのは、竹居明男先生(現・名誉教授)との出会いがきっかけです。膨大な書物が並ぶ御自宅の書庫を訪れて衝撃を受け、夢中で古本屋をめぐる本を買い集めました。具体的な職業について考え始めたのは、大学4年次生のとき。本を読むのが仕事ともいえる研究者的な生き方をしたかったのですが、自分が研究者向きではないこともわかっていました。そこで、本を「書く」発想が生まれ、作家という職業が強い選択肢になったのです。

地方から来た僕は、京都の先生にすれば失礼な学生だったかもしれません。人間関係に壁がなく、先生に対しても友達のように話しかけるものだと思っていたからです。けれど

先生方は怒ることなく、学生からの親しみをもったコミュニケーションを歓迎してくれていたように思います。一人ひとりの学生をちゃんと見てくれていました。普段出ない授業に出ると、「なんだ、今週は授業出てきたのか」と言われるのです。気まずいけれど、喜びの方が大きかったです。先生同士の繋がりも強く、ある先生に話したことを、何日後には別の先生が知っています。学生のたわいのないことも噂にしてくれて、気にかけてくれていると思うと、嬉しいですよね。

大学時代の僕は、一人で本を読んだり考えたりする時間が多く孤独でした。その一方で、先生や友人たちとの社交もありました。社会人になった今もそうですが、僕の作家活動にとっては、「孤独」と「社交」はどちらも必要です。一人の時間の着想が、社交によって広がっていく。車の両輪のようなもので、その大切さを大学時代に学ばせてもらった気がします。

近頃になって思うのは、建物や街並みは、決して人間の精神に対して無意味ではないということです。人間の精神は混沌としている状態が普通ですが、建物がそろっていれば精神も整います。同志社大学は建物のデザインがそろっていて、また、京都という立地も魅力です。電車の駅名や地名からも歴史を感じられ、街の規模に対して博物館や美術館の数が多く、効率よく見聞を広めることができる。文化施設に限らず密度の高い街で、学生時代を京都で過ごせたことは貴重な経験です。

一人ひとりの学生を
ちゃんと見てくれました



Doshisha's Life
Tanijiri Moe

✕ ディアというフィルターを通して受け取っている情報は、真実でないこともある。それが、大学の授業で気付かされたことです。

小学生のときから、将来の夢はアナウンサー。進学先は社会学部メディア学科に決めました。わかりやすく事実を伝えるだけでなく、画面から元気も伝えたい。幼いころからフジテレビ系「めざましテレビ」を家族で見っていたので、現在、「めざましテレビ」の金曜日と「めざましどようび」のお天気キャスターを務めているのが夢のようです。

キャッチコピーについて学ぶ授業を受けたり、テレビ局や新聞社など多くのメディアで活躍している先輩方が講演して下さったり。メディアリテラシーの勉強や情報発信の仕方など、アナウンサーの仕事をする上で大学の授業が参考になっています。伝え方で情報の受け取り方は変わります。今は天気を伝えています。耳だけでも視聴者が理解できるように、意味のまとまりで間を置いて伝えるようにしています。

生放送は毎回、全力疾走です。当日、本番10～20分前に台本が渡されたら、まず全体を読んで把握し、その後、大事なところにマーカーを引く。尺が決まっているので、1枚目の原稿を読み終わるところで秒数を計るなど、くり返し練習をして本番に臨みます。

3年次生の10月からは、金曜日に授業が終わると新幹線で東京へ向かい、オンエアが終

フリーアナウンサー

谷尻 萌

1999年、京都府生まれ。同志社大学社会学部メディア学科卒業。在学中から「めざましどようび」のお天気キャスターを務め、現在は「めざましテレビ」の金曜日と「めざましどようび」のお天気キャスターを担当している。セント・フォース所属。ニュース検定2級、スキー検定2級、中学校教諭一種免許状(社会)ほか。

わると京都に戻ってくる生活でした。でも、平日の5日は、大学の何処かに出役していましたね。今出川と新町を行き来し、図書館の自習室やラーニング・コモンズ、尋真館2階の机など、集中力が途切れたら移動して勉強をしました。こっそりお話しすると、発声練習や原稿読みなど、大きな声を出したいときは、人がいない場所を探して行きました。標準語や鼻濁音と無声化の練習など、アナウンススクールで注意された箇所を黙々と練習していました。大学時代は第67代今宮或神社の福娘代表も体験。小学3年生からピアノを続け、大学では室内楽団でフルートを担当していました。

今後の目標は、エンタメや報道、スポーツの情報をお伝えできるアナウンサーになることです。同志社大学にはリラックスできる空間があふれています。「隣人を自分のように愛しなさい」「あなたがたは世の光である」。今でも聖書の言葉を覚えていますし、自分の心が洗われました。同志社大学で学んだ時間が、自分の人生の基礎をつくってくれていると感じています。

同志社大学で学んだ時間が、
自分の人生の基礎に

自分がやりたいことを 絶対に見つけられる大学

の時間が圧迫される面もありますが、一つのことを長時間するのが苦手なので、将棋で培った2、3時間の集中力を発揮して、交互に取り組みます。大学での学びは一種の休息时间でもあり、頭を切り替えるという意味で大きな存在です。

2月から正式に女流棋士になったので、今後は一層将棋の方に力をいれていくことになります。将棋の実力を上げ、将来的には女流棋士のタイトルをとりに行きたい。その目標に向かっての努力と並行して、大学では、苦手な理系科目を克服したいですね。つい嫌なことから逃げてしまうので、苦手に立ち向かう姿勢を鍛えて克服できたなら、きっと自信につながるはず。

同志社大学は、授業が細分化されていて、専門的に学ぶことも、広く学ぶこともでき、「自分で決めていいよ」という自由な空気があります。単位が取れなくても救済してもらえない、という厳しい面もあるのですが。それは、自由には責任が伴うということで、まさに新島襄が掲げた自由主義。勉強する環境としても最高で、京田辺キャンパスは広くて綺麗で設備も整っています。自分がやりたいことは、探せば絶対に見つかるし、理想の学びを自分でつくりあげることができる大学だと感じています。

キャンパスでは一人の学生、大学を一歩出れば女流棋士。二つの属性を行き来して、いつも新鮮な気持ちで日々を過ごしています。文化情報学部でデータサイエンスを学んでいるのですが、そこにあるのは、文系・理系の枠を超えた世界。文系分野のものごとを理系の手法で分析し、ゼミでは芸術史をデータ解析しています。ずっと文系だった私にとって、大学数学やプログラミング、言語学などは、将棋一筋で生きていたら絶対に出合わなかった学び。それらに触れ、今まで周りにいなかった理系の友人から教わります。「知識を得るのは楽しい」ということを、同志社大学は教えてくれます。

将棋は、父の影響で幼稚園の頃から始めて、毎日、家族と指していました。今も、大学がない時は1日に10時間ほど指すこともあります。将棋の魅力は、なんといっても年齢や性別を問わず、いつでも誰とでも指せるところ。そして、将棋を極めていくうえで、過去の対局や記録などで棋譜のパターンをたくさん蓄積していく必要があります。先生たちの過去の盤面データを頭に入れ、必要に応じて出すので、常に考えている状態。強い人ほど、ものすごい量のデータが頭に入っています。対局しているときは、未来に起こるだろう盤面をずっと思い描いているので、記憶力だけでなく想像力も鍛えられます。

大学では、逆に学びを将棋に生かしたいと考えていました。将棋界ではAIが流行っていて、AIの内部で何が起きているのかを知りたくて、文化情報学部。AIで将棋をしていて、「今コンピュータのこの部分が動いているのかな」「授業でやったところだな」と考える。それだけで楽しいです。

単位の取得や課題の提出は大変で、将棋

Doshisha's Life
Imai Aya

女流棋士

今井 絢

2001年、愛知県生まれ。2020年同志社大学文化情報学部入学。2023年2月、日本将棋連盟所属の女流棋士に。師匠は杉本昌隆八段。





新島にとって学生は「同志」。一人ひとりの個性と人格を尊重する同志社の教育はさらに進化を続けている。

諸君ヨ、 人一人ハ 大切ナリ

時代は幕末。個人の海外渡航が
国禁とされていた時代に
21歳の新島襄は、自由を求め、
密航して、アメリカに行きました。
理想の学校をつくるという夢を抱いて帰国し、
生涯をかけて挑戦し続けた彼の志こそ、
同志社大学の原点です。

同志社大学のルーツとなる同志社
英学校の創立者、新島襄は上州(群馬
県)安中藩の江戸屋敷で下級藩士の子
として生まれました。

封建社会に行き詰まりを感じ、日本
の行く末を案じていた新島は蘭学や
漢訳聖書に触れ、欧米に関心を持つ
ようになります。

彼の直筆といわれる『My Younger
Days』『脱国の理由書』によると、ア
メリカの地歴書『連邦志略』や小説『ロ
ビンソン・クルーソー』も読んだとされ
ています。アメリカでは大統領が国民
から直接に選挙で選ばれると知って
驚き、また、自ら困難を突破していく
ロビンソンの生き方に憧れたという

新島。自由と民主主義を求める気持ち
はこの頃に芽生えました。

世界をこの目で見、学び、日本の
近代化に力を尽くしたい——。情熱に
駆られた新島は、命がけで脱国。函館
から上海、上海からボストンへと船を
乗り継いでアメリカに向かいました。

世界で学び 夢を見つける

約1年の航海の末にようやくボスト
ンに到着した新島ですが、到着後3か
月ものあいだ上陸すら認められませ
んでした。しかし、ボストン有数の資
産家であるアルフィーアス・ハーディ
ー夫妻の援助を受けることになり、幸

運にも信仰心と人間愛に満ちた人々
に出会います。夫妻は向学心にあふれ
た新島を息子同然にかわいがり、滞米
中の生活費や学費など、一切の面倒
をみてくれました。

フィリップス・アカデミーを経て、
現在、アメリカ屈指の名門として知ら
れるアーモスト大学で学び、日本人と
して初めて学士(理学士)を取得しま
した。序列が厳しく、自由に発言でき
ない武士の世界で育った新島。一人
ひとりが自立して自ら考える力を育て
るアメリカの教育のあり方に感銘を
受けました。

その頃、日本では明治維新が起きて
いました。アーモスト大学卒業後、ア



命がけで世界に学んだ新島は、誰よりも「自由」を大切に
考えていた。その精神はリベラリズムの伝統として受け
継がれ、自治自立の人物を育てる土壌になっている。

日本人として初めて大学で学士号を受けた新島襄。母校・アーモスト大学では彼の功績を讃えて、学内のチャペルに肖像画を掲げている。



アンドーヴァー神学校在学中に、新島は明治新政府からアメリカでの経験と英語力が評価され、岩倉使節団に同行。使節団の一員としてイギリス、フランス、スイス、ドイツ、ロシア、オランダ、デンマークを視察するなかで、近代社会における教育の重要性を確信しました。

民主主義社会の礎となる 一国の良心を育てたい

明治新政府も教育を新しい国づくりの根幹と考え、官立大学の設立を準備していました。新島は国民の教育は知性のみでは、片寄った人物を養成しかねず、知性を正しく用いるための道

徳原理が存在しなければならないと考えました。

その土台になるのが、キリスト教に基づく徳育です。もともと聖書に関心を持っていた新島は、“アメリカの父”であるハーディーをはじめ会衆派教会の人びとと出会い、彼らの人格や思想に感化され、渡米の翌年に洗礼を受けました。アンドーヴァー神学校での学びを経て、牧師、宣教師の資格も取得。約8年間の欧米生活で人々の品行と精神を支えるキリスト教の影響を実感し、キリスト教に基づいた人格教育によって高い倫理観と豊かな人間性を育みたいと考えるようになったのです。

アメリカからの帰国直前、グレイス教会という小さな教会でアメリカン・ボードの年次大会が行われ、新島は日本にもキリスト教の学校を設立するための寄付を募る演説を行いました。

涙ながらの熱弁に莫大な寄付が集まりましたが、そのなかには貧しい人々からの寄付もありました。一人のぼろをまとった老農夫が「帰りの汽車賃の2ドルをあなたの学校に使ってほしい」と言い、その後、教会を出た新島に老寡婦が歩み寄って、わずかな蓄えから同じく2ドルを託しました。これらの励ましに新島は感動し、生涯忘れることはなかったといいます。

同志たちが集い 大学設立を目指す

1874年、新島は10年ぶりに祖国の地を踏みました。翌年、京都で同志社英学校を設立。教員は校長である新島と、宣教師ジェローム・ディーン・デイヴィスの2人、学生は8人というスタートでした。

当時の京都は仏教徒の外来教に対する反対運動が様々な形であり、外国人を教員として招いたキリスト教主義の学校には強い反発がありました。それでも奮闘する新島を支えたのは、京都府顧問に相当する役割を果たしていた元会津藩士の山本覚馬らでした。覚馬は自ら購入していた旧薩摩藩

邸の敷地約6,000坪を校舎建設のために安価で譲渡。新しい学校に「同志社」と考案したのも、覚馬でした。

1876年には、覚馬の妹の八重と新島が結婚。八重は戊辰戦争時に銃を持って奮戦した勇敢な女性。新島は彼女を「handsomeな人物だ」と讃えました。対等なパートナーとして支え合う、当時としては珍しい夫婦だった二人は、社会の発展には女子教育を盛んにすることが不可欠と考え、力を注ぎました。

新島の理想は、神学、文学、経済学、政治学、法学、理化学、医学など専門的な学問を追究できる総合大学の設立でした。明治維新の立役者である勝海舟や渋沢栄一などの政財界の有

力者たちもこれに賛同し、総合大学を設置するための資金を集めるため国内外を奔走する新島を応援。次第に、同志社には日本各地から夢を追い求める若者が集まるようになりました。

多くの同志たちと挑戦を続けた新島ですが、その生涯は短く、1890年、46歳で亡くなっています。志を受け継いだ教え子たちが幾多の難関を克服し、ついに同志社大学を設立したのは1912年のことでした。

受け継がれる建学の精神 そして、未来へ

一人の若者が一歩を踏み出すことから始まった志は、約150年後の今も大きく育ち続けています。



最大の恩人であるハーディー夫妻が所属していたボストンのオールド・サウス教会。新島はキリスト教から他者を敬い愛し、社会に貢献する精神を学んだ。



今出川校地の新町キャンパスにある尋真館と臨光館をつなぐ渡り廊下の外壁には、新島が遺した言葉「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」が刻まれている。

新島 襄

Joseph Hardy Neesima

- 1843 (天保14) 1月14日(陽暦2月12日) 上州安中藩江戸屋敷で新島襄(幼名七五三太)誕生
- 1864 (元治元) 6月14日(陽暦7月17日) 新島は国禁を犯して函館から米船ベルリン号で海外に脱出(21歳)
- 1865 (慶応元) 7月 ポストン着
10月 上海で乗りかえたワイルド・ローヴァー号の船主A.ハーディー夫妻の援助をうけ、フィリップス・アカデミーに入学
- 1866 (慶応2) 12月 アンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受ける
- 1867 (慶応3) フィリップス・アカデミー卒業。アーモスト大学入学(24歳)
- 1870 (明治3) アーモスト大学卒業。アンドーヴァー神学校入学(27歳)
- 1872 (明治5) 岩倉具視使節団と会い、欧米教育制度調査の委嘱を受け、文部理事官田中不二麿に随行して欧米各国の教育制度を視察
- 1874 (明治7) アンドーヴァー神学校卒業
10月 アメリカン・ボード海外伝道部の年次大会で、日本にキリスト教主義学校の設立を訴え、5,000ドルの寄付の約束を得る
11月 横浜に帰着(31歳)
- 1875 (明治8) 11月29日 官許同志社英学校開校。京都府知事横村正直、山本覚馬の賛同を得る。上京第22区寺町通丸太町上ル松蔭町18番地高松保実邸の半分を借りた校舎。教員は新島襄とJ.D.デヴィス。生徒は8人。新島襄初代社長に就任
- 1876 (明治9) 1月 山本覚馬の妹八重と結婚
4月 D.W.ラーネッド着任
9月 今出川校地へ移る。相国寺門前(薩摩藩邸跡)に校舎2棟と食堂1棟を建て寺町から移る。この時期から熊本洋学校に学んだ生徒(熊本バンド)が入学し始めた
10月 京都御苑内柳原邸に女子塾開設
- 1877 (明治10) 4月 同志社分校女紅場を開設
9月 女紅場を同志社女学校と改称
- 1879 (明治12) 6月 英学校第1回卒業生(余科15人)を出す
- 1880 (明治13) 4月13日 朝礼の際、新島は自分の掌を杖で打ち、自らを罰して生徒に訓する「自責の杖」事件
- 1883 (明治16) 2月「同志社社則」を制定
- 1884 (明治17) 4月 2度目の海外旅行に出発(1885年12月帰国)
5月「明治専門学校設立旨趣」および「同志社英学校設立始末」を印刷頒布
9月 同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工
- 1886 (明治19) 礼拝堂(チャペル)竣工
- 1887 (明治20) 11月 書籍館(現・有終館)開館
- 1888 (明治21) 11月「同志社大学設立の旨意」を全国の主要な雑誌・新聞に発表
- 1890 (明治23) 1月23日 新島襄永眠。
募金運動中に前橋で倒れ、静養先の神奈川県大磯の旅館百足屋で、徳富蘇峰、小崎弘道らに10か条の遺言を託して永眠(46歳)。1月27日チャペル前で葬儀を営み、東山若王子山頂に葬る。墓碑銘は勝海舟筆

同志社大学では、一国の良心ともいえるべき人物を育てるという建学の精神に基づいた教育が行われています。それを支えるのは、「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」という3つの教育理念です。

キリスト教の教えをもとに、精神と品性を磨くこと。また、一人ひとりが自ら行動し、持てる力を自由に発揮すること。そして、単にコミュニケーションの道具として外国語を学ぶだけでなく、世界の文化に触れて大きな視野でものごとを考えること。これらは、同志社大学のキャンパス全体を包む学風となっています。

自由を愛し、人を敬った新島。彼が遺した言葉はグローバル化やダイバーシティが進む現代において、より輝きを増しています。

「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」

世界は一人ひとりの人間で成り立っていて、すべての人は尊重されなければなりません。人種、国籍、性別、文化、価値観などがそれぞれに異なる多様な個人が他者を認め合う。そして、よりよい共存のあり方を探りながら、これまで以上の社会を生み出していく。同志社大学では、そうした未来を担う人物を育てる教育が実践されています。

創立者・新島襄の建学の精神を
受け継ぐ同志社大学。

京都の豊かな文化の中で、多様な人と共に学ぶ
キャンパスライフは、どのようなものなのか。

そして、同志社大学が育みたい力とは——。

商学部3年次生の三浦千緋呂さんと、
理工学部3年次生の水谷優太さんが、
植木朝子学長にインタビューしました。

「同志社」が 大切に している こと



植木朝子学長インタビュー

三浦 私は、卓球のスポーツ推薦で同志社大学の商学部に入りました。この春から体育会卓球部の主将を務める一方、金融や商品学などを学んでいます。植木学長は、どんな学生時代を過ごされていたのでしょうか。振り返ってどんな力がついたと思いますか。

植木 日本の古典文学を研究していて、当時の日本はバブル期でしたが、図書館にこもってよく古い本を読んでいた。学問とはどういうものかがまがりなりにもわかったのは、4年間の集大成として卒業論文をまとめた経験からです。知識を蓄積していく中で、通説や常識といわれているものを鵜呑みにせず、自分で納得するまで調べる。そして、「これは違うんじゃないか」と考えたところで、自分の独自性が見出せます。「○○だと思います」というのは単なる感想で、なぜそう言えるのか、根拠を持って論じることが重要です。常識を疑い、自分で調べて、根拠を持ってものごとを論じる力を身につける。そのきっかけが、学生時代に掴めたかなと思います。

三浦 納得するまで考える、という点では、スポーツも共通する部分があります。私は、「自分に足りないものは何か」を知りたい、考えたい、と思うのは「失敗した」

と感じた時です。それは卓球の試合に負けた時。とても悔しい負け方をした経験もありますが、その時は、「自分に何が足りなかったか」をビデオを何度も見返して課題を克服しようと努力しました。もし勝っていたら、きっと「嬉しい」で終わってしまっていた。負けた方が、これからどうするかを考えることができるのだと思います。

植木 素晴らしいですね。ダメだったと反省することは、成長のきっかけになります。悔しいけれど、無駄じゃない。一つのことに取り組む中で、順調に進みすぎると気づかないけれど、つまずいたときにいろいろ気づく。間違えて気づくこともあります。いつもうまくいっていたら、「これでいいんだ」と思ってしまう。自分の正しさを過信すると危険な場合もありますね。自分を振り返らなければいけない時もある。それは、どの分野でも同じですね。

*

水谷 僕は岐阜県の出身です。理工学部数理システム学科で学んでいるのですが、幼少期から池坊の華道も習っていて、伝統文化のある京都に惹かれていました。外国人が多く、街中には外国人に向けた看板などもあ



理工学部数理システム学科3年次生

水谷優太

Mizutani Yuta

岐阜県出身。SIED在籍、キリスト教文化センター学生スタッフ。

商学部商学科3年次生

三浦千緋呂

Miura Chihiro

山口県出身。体育会卓球部主将、2022関西学生リーグ春季・秋季優勝。

ふれているし、そんな京都の独特の空気感に憧れていました。学長のご出身である関東と比較して、京都の学生生活はどのような違いがあると思われますか。

植木 祇園祭や華道や茶道、西陣織や京料理などの伝統文化がごく身近にある。それが関東と比べた時の京都の大きな特徴ですよ。私は、日本の古典文学を専攻していたので、古典の舞台もある京都に来られることになって、本当に幸せでした。祇園祭の時期に、浴衣で学生がキャンパスを歩いているなんて、素敵ですよ。歴史ある寺や神社もあふれています。その一方で、京都発の最先端の企業もあり、古いものと新しいものが共存しています。

三浦 私は山口県の出身で、中学から6年間、大阪で暮らしました。今は京田辺市在住ですが、同じ関西でもにぎやかな大阪とは違い、京都は自然がありながら日本の文化にも触れられていいなと思っています。

植木 大阪も京都も、共通しているのは言語文化が成熟していること。関西の府県には共通点もあるけれど、独自の文化もあって、少し足を伸ばせば違った文化に触れられる。東京は広く一色なので、その点は大きく違います。狭い範囲に多様性があるのが面白いですね。

*

水谷 同志社大学は、2021年3月にダイバーシティ推進宣言を制定しました。僕は国際交流の推進を目指す、留学生課の組織「SIED」のスタッフとして活動しています。その活動を通じて、同志社大学にはいろいろな人がいるなという実感をもっています。ダイバーシティの取り組みには、どのようなものがあるのでしょうか。

植木 創立者の新島襄は、アメリカでキリスト教の中でも多様性を重んじる会衆派の信仰を身に受け、日本に戻って同志社をつくりました。その精神を、私たちも引き継いでいきたいと思っています。ダイバーシティ推進のための取り組みは多岐にわたりますが、当面取り組む4つの柱の一つが多文化共生・国際理解です。21年には国内の学生と留学生が生活を共にして学び合う教育寮の「継志寮」が誕生しました。「SIED」は、大学側が引っ張っていくのではなく、学生さんがダイバーシティを自ら体現してくれる存在ですね。

水谷 「SIED」スタッフも国籍はさまざまです。各自の個性やルーツを活かし日本らしさ、京都らしさを学びたい留学生とローカル学生が国際交流できるイベントを実施しています。活動を通じてさまざまな国のことを知れることに加え、僕自身も伝統文化を紹介するために学びなおし、新たな発見がありました。

植木 まさに多様性ですね。残りの柱は、障がい者支援と男女共同参画・ライフサポート、そしてSOGI

(Sexual Orientation and Gender Identity:性的指向と性自認)理解・啓発です。多文化共生・国際理解を推進するための施策の一例に京セラ株式会社と取り組んでいる「わかりやすい字幕表示システム」の実証実験があります。話した内容がリアルタイムにスクリーンに文字として表示されるボードを設置していて、言語の切り替えもできるので、耳が不自由な人や外国の人をサポートできます。小さなことですが、そういうボードが「置いてある」ことで、今まで意識していなかった人が「そうか、困っている人がいるんだな」と思う。そこが大事なかなと思っています。

*

三浦 学長に就任された直後に新型コロナウイルス感染症の感染拡大があり、大変だったと思います。コロナ禍の中で、感じられたことはありますか？

植木 コロナ禍の3年間を経験して、対面で人が触れ合うのがいかに大事か、ということをあらためて思いました。困難の中でも得たものもあります。コロナをテーマに、あらゆる分野の先生から研究を募集して、「All Doshisha Research Model」をつくることができたのです。生命学分野、経済への影響、働き方、文学、信仰などさまざまな視点から、想定のを超える77もの研究が集まりました。

三浦 私も、入学して3年間、学長と同じようにコロナ禍での大学生活でした。自宅でトレーニングして、練習時間が短い中で集中して取り組まなくてはいけない状況でしたが、関西学生リーグ春季・秋季優勝を果たせたことは心に残っています。学長は、この3年間でどんなことに力を入れられたのですか。

植木 創立150周年を迎える2025年に向けた「VISION2025」の推進です。初期の施策の重点はリーダー養成プログラムにありましたが、私が学長になってからはそれに加えて「広がり」をキーワードに、全学に波及する取り組みを進めています。英語教育改革では、レベル別指導をさらにきめ細やかにし、将来の職業も意識した多彩な科目を設置しました。そして今年から始めたのが、同志社データサイエンス・AI教育プログラムです。リテラシーを身につけ、段階を踏んで高度な知識を習得し、最終的には大学院生に専門的に学んでもらう想定です。研究分野でも「広がり」を意識しており、先ほどのAll Doshisha Research Modelはその一例です。また、産学連携を進め、本学卒業生が取締役会長を務めるダイキン工業株式会社と一緒に、CO₂削減に向けた研究に取り組んでいます。

*

三浦 同志社大学の学生たちには、4年間で何を身に

つけてほしいと考えていますか。

植木 私が学生時代に培ったような、常識を疑って自分で調べ、根拠を持ってものごとを論じる力をぜひ身につけてほしいですね。そのためには、知識が必要です。知識がないと独自性も生まれえないと思うので、頭の柔らかい時にたくさん吸収してほしい。アウトプット重視の時代になっているように感じられますが、どれだけ資料を綺麗に作っても、中身がないと表層だけになってしまいます。アウトプットだけでなく、インプットも大事です。

水谷 僕は、純粋数学を専攻していますが、教授からは「知識を蓄えて、自分の中で学問の世界をイメージできるようにになりなさい」と言われました。定義、定理を学び問題を解けるようになることは知識があるということです。そこから、それらの意義や、仕組み、なぜ成り立つのかということが見えるまで、より学びを深めて自分のものにしていく。そうすると、新しい分野に進んだ時に、証明が成り立つ論文が書けるらしいです。そういう意味では数学の分野は、知識を大事にしているんですよね。

三浦 私は、大学に入るまではとにかく卓球を頑張ってきましたが、金融や商業のことを学ぶうちに勉強の面白さに目覚める、という経験をしました。私の周りには、卓球を頑張ってきた人も、勉強を頑張ってきた人もいますし、卓球のプレイスタイルもそれぞれ違います。みんなが得意なことを伸ばせるように意識してチームを作ってこられたことは、よかったかなと思っています。

植木 自分と違うタイプの人に出会ったとき、その人が何を考えているのか理解しようとすることは、ダイバーシティにつながってきます。知識を蓄える時は、それぞれの専門家や著者に対して敬意を払う。ディスカッションするときも、相手の考えにきちんと耳を傾ける。それが、混迷の時代を生き抜く力の基礎になる気がします。多様性を重んじ、他者を尊重できる人に育ってほしいです。

*

水谷 正直に言うと、純粋数学は社会に出てもすぐには役に立たない気がします。でも、学ぶことはとても楽しいです。学長は、同志社大学が世に送り出したい人物像のイメージはお持ちでしょうか。

植木 私も日本の古典文学を研究していて、「何の役に立つのか」と言われてきました。けれど、「役に立つ」という判断基準は、不安定なものですよね。30年ほど前にAIの研究を始めた先生が、当初は「何の役に立つのか」と言われたそうです。そう言われながら研究していた20年、30年があるから、大事な時に生きる。コロナ

のワクチンもすぐに開発できたのは、それまでに基礎研究が重ねられていたから。そもそも「役に立つ・立たない」というのは一つの価値観でしかないのですから、一方的な狭い視野で短期的に考えるのではなく、広い視野で長期的に考えられる人を送り出したいですね。

水谷 「役に立つ・立たない」という基準に関係なく自由に学ばせてもらえる環境は、魅力です。同志社大学の教育理念には、自由主義がありますね。自ら動かなければ何も得られないけれど、活動すれば力になってもらえる。聞きに行けば、教授はいろんなことを教えてくれます。「SIED」のほか、キリスト教文化センターの学生スタッフとしても活動しているのですが、積極的に自分から飛び込めば大学がサポートしてくれます。

植木 新島襄は、「自ら立ち、自ら治むる」という言葉を残しています。育てたいのは、責任感を持って自由に行動できる人。キリスト教主義的にいえば、神の前で良心に恥じないように責任を持って行動できる人です。同志社大学は、自分でやろうと思えば機会が与えられる大学です。

三浦 勉強もスポーツも、環境が整っていて自分がやりたいと思うことを思いっきりできる大学だと、あらためて思います。これから同志社大学を目指す受験生に向けて、メッセージをお願いします。

植木 同志社大学は、新島襄の精神を受け継いで、多様性に満ちた寛容な大学だと思います。本学が大事にしている「多様な他者を理解する」という学びのためには知識も必要なので、受験勉強はきっと大学での学びに生かされます。一人一人が輝けるキャンパスですから、ぜひ本学の門をくぐってください。



同志社大学学長

植木朝子

Ueki Tomoko

1990年、お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業。98年、博士(人文科学)(お茶の水女子大学)。2005年から同志社大学文学部国文学科助教授、07年同教授。文学部長(15年)、副学長(17年)を経て、20年4月から現職。

世界を 知る

教育理念のひとつに「国際主義」を掲げる同志社大学は、
開学以来、「世界」を見据えた教育を行ってきました。
その伝統は現在も受け継がれています。

01 | グローバル・リベラルアーツ副専攻

同志社大学のなかに アーモスト大学を

同志社大学のルーツである「同志社英学校」創設時には、すでに外国人宣教師を中心とした国際的な教育環境の中で少人数教育が行われていました。この良き伝統を継承しながら新島が若き日に学んだアーモスト大学のリベラルアーツを同志社大学のなかに取り入れています。その取り組みの1つが、「良心と進取の気性に溢れ、グローバル化する世界で新たな価値を創造できる人物」を養成することを目的とした「グローバル・リベラルアーツ副専攻」です。

人文・社会・自然科学にわたる幅広い学問分野と日本の伝統・文化に関する授業内容を、留学生とともに英語で学ぶ「グローバル・リベラルアーツ

副専攻英語開講科目」では、少人数でグループワークやディスカッション中心の対話型授業を通して、柔軟な思考力と異なる文化や多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につけることができます。そのほかにも、キリスト教への理解を深める科目などの教養科目を幅広く日本語で履修し、自分の専攻分野とは異なる様々な学問分野を学ぶことにより、広い視野をもって多角的に物事を思考する力を養います。

本副専攻は、全ての学部の学生が受講可能です。定められた要件をみたすことで副専攻の修了証明書が発行されます。

POINT

- 外国人教員または海外の大学で学位を取得した教員が担当
「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」は、原則、外国人教員または海外の大学で学位を取得した教員が担当します。
- 海外留学のための準備、帰国後のフォローアップに
海外留学のための準備、帰国後のフォローアップに「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」を受講すると効果的です。
- 副専攻英語開講科目は、1科目のみでも受講可能
「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」は、1科目のみでも受講することができます。したがって副専攻の修了を目標にしている場合でも、科目内容への関心に応じ、1科目からチャレンジすることができます。

新島襄が学んだアーモスト大学のキャンパス。

新島襄の理想を 具現化した ヨーロッパにおける 教育・研究の拠点

2017年に本学初の海外キャンパスとなるチュービンゲンEUキャンパスが設置され、19年度からは同志社大学チュービンゲンEUキャンパス(以下、EUキャンパス)で約5カ月間学ぶ「EUキャンパスプログラム」を開講しています。

ドイツのチュービンゲンは人口9万人ほど。ヨーロッパの中心部に位置し、人口の3分の1程度が学生や大学関係者という学術都市です。EUキャンパスを置くチュービンゲン大学は、1477年に創立されたドイツで2番目に歴史が長い大学です。学生数は大学院生も含めて2万8000人ほどで本学とほぼ同じ規模です。これまで11人のノーベル賞受賞者を世に送り出し、ドイツの大学全体の質を向上させることを目的としたエクセレンス・



イニシアティブにも選ばれ、まさにドイツのトップ大学の一つといえます。

そのようなチュービンゲン大学にあるEUキャンパスは、学生交流のためだけのものではなく、18年には教員交換派遣の協定を結び、さらに協同でシンポジウムを開催するなど、交流は広がりながら深化しています。EUキャンパスはドイツにとどまることなく、広くヨーロッパにおける本学の教育・研究の拠点として、活動を展開していきます。



| プログラム | 募集人数 | 研修期間 |
|-----------------------------|------|-----------|
| ドイツ語・異文化理解 EUキャンパスプログラム | 約15名 | 3月初旬～8月初旬 |
| ヨーロッパスタディーズ EUキャンパスプログラム | 約15名 | 9月初旬～1月下旬 |

国内学生、留学生の 区別なく生活を共にし、 学びあえる教育寮



2021年9月、今出川キャンパスの近くに教育寮「継志寮」が開寮しました。継志寮の名は創立者、新島襄が1889年にしたための書簡の一文「誰か余之志を継ぎ此事業を成就せしむるあるへしと陳へたるなり」に由来します。

継志寮は「国内学生と留学生が区別なく生活を共にし、学びあえる寮」を具現化し、従来の学生寮の域を超えた「教育寮」となります。高さを抑えた3階建てで、外観は周囲の街並みと調和するデザインになっており160室の居室があります(他に短期受入留学生用に20室あります)。国内学生と留学生がリビングを共有するユニットで生活し、寮内で多文化共生を実現します。

継志寮に暮らすすべての学生は、地域の人や社会との関わりを通じた実践学習に取り組み、そこで得られた成果や経験などを発表し、課題を見つけ、振り返りを行うRLP (Residential Learning Program) への参加が義務付けられています。

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY

新島襄の「志」を 現代へ甦らせ、 革新的な創造性と 融合させる

創立150周年を迎える2025年に向けて、創立者 新島襄が同志社英学校を設立した原点に立ち返りながら、本学の進むべき行路を共有するための基本理念としてVISION 2025を策定し、全学が一丸となって取り組んでいます。

本学が守り続けてきた建学の精神を受け継ぎながら、同時にそれぞれの時代背景に適応した同志社教育の新たなかたちを示していかなければなりません。一人ひとりの個性を尊重する多様性と寛容に満ちたキャンパスで、これまで積み上げてきた本学の歴史と伝統を革新的な創造性に融合させ、不透明な時代の魁となる良心に満ちた人物を輩出してまいります。

[6つのVISION]

- #### 1 学びのかたちの新展開

一人ひとりの可能性を伸ばす教育姿勢を現代に生かす
- #### 2 キャンパスライフの質的向上

多様性を重んじ、推し進めた新島襄の理想を押し広げる
- #### 3 創造と共同による研究力の向上

知と知をつなげ、新たな知を創出する
- #### 4 『志』ある人物の受入れ

様々な志を受け入れ、個性の輩出を望んでいた新島襄の想いを、世界中のあらゆる人につなげる
- #### 5 「国際主義」の更なる深化

異文化に飛び込み、新たな考えや知識を吸収しながら成長を促す学習環境を磨く
- #### 6 ブランド戦略の展開

教職員や卒業生はもちろん、学生一人ひとりが「同志」となり、理想の大学の完成を目指す

2024年度 新学年暦の導入

ICTのメリットを 最大限に活用し 新しい学びの かたちを実現

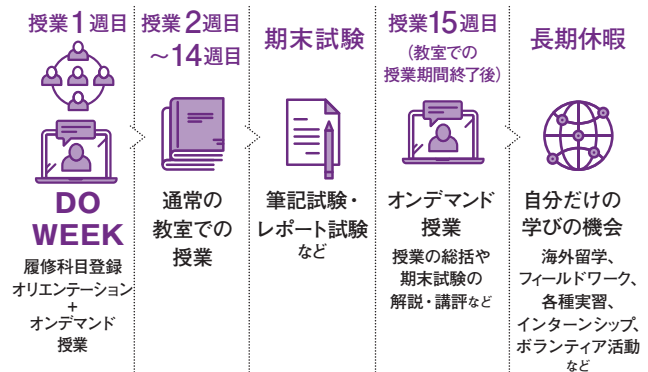
2024年度から、ICTを効果的に取り入れた、13週の教室での授業と2週分のオンデマンド授業を基本とする新たな学年暦を導入します。学期初めの1週間である「Doshisha Opening Week (DO Week)」では、各種オリエンテーションと並行して初回のオンデマンド授業を受講し、新しい学びがスタートします。

2週分のオンデマンド授業は、イントロダクション(1週分)と授業の総括や期末試験・レポート試験の解説・講評等(1週分)が基本となります。イントロダクションでは、履修科目登録に先立ち授業内容を確認することで、登録科目のミスマッチが回避でき、履修したい科目をよりの確に選択できるようになります。また、総括や解説・講評等のオンデマンド授業を授業期間や試験期間終了後に受講することで、授業内容の理解がより深まります。

さらに夏期や春期の休暇期間が多く確保されることで、フィールドワーク、各種実習、インターンシップ、ボランティア活動等の新たな主体的な学びの機会が生まれます。また、海外留学プログラムや留学生プログラムへも参加しやすくなるほか、課外活動等に取り組む時間も長く確保できるようになります。

この新たな学年暦により、一人ひとりのニーズにあわせた新しい学びのかたちを実現します。

[新たな学年暦のイメージ]



科目の性質により、オンデマンド授業を2~14週目の教室での授業期間中に実施したり、オンデマンド授業を行わず、全て教室等で授業を実施したりすることもあります。また、全てオンデマンド授業で実施する科目もあります。

全学共通 教養教育科目

リベラルアーツ教育の 伝統を受け継ぎ 幅広く 学ぶために

本学では、すべての学部学生を対象に全学共通教養教育科目を設置しています。建学の精神である「良心教育」を、「キリスト教主義」「自由主義(自治自立の精神)」「国際主義」という3つの教育理念の下で幅広い学問分野に亘って展開し、人間としての総合力(知・徳・体)に優れた人物の育成を目指しています。

科目の特性や分野ごとに、「同志社科目」「キャリア形成支援科目」「国際教養科目」等、11の科目グループにまとめ、様々な特色ある科目を展開しています。例えば「キャリア形成支援科目」では、働き方や価値観が多様化する現代において、働く意識や人生観について考え、自身の人生を設計する能力を養成することを目的としています。また、本学がキャンパスを構える京都は、伝統文化を重んじつつも、常に先進性を積極的に取り入れてきた都市です。この京都の地で、日本の伝統、文化、芸術への高い関心を育み、「感性価値」の創造と受容の基礎となる力を身につけ、創造力を涵養することを目的とした「クリエイティブ・ジャパン科目」を開講しています。「日本文化の魅力とは何か」「グローバルに受容される価値とは何か」について考察し、「京都から日本全国、そして世界へ」と広がる視野を養うことも目指します。

複雑化する現代社会では、多角的な視点で物事を捉えることが求められています。学部の垣根を超えて、様々な学部の学生が共に学ぶことを通じ視野を広げていくことができるのも、全学共通教養教育科目の大きな魅力の1つです。



同志社データサイエンス・ AI教育プログラム

デジタル社会に必須の 知識・技能を 身につける —DDASHを拡充

文理を問わず、デジタル社会に必要な「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技術を身につけ、各自の専門分野での学修や社会生活でこれらを道具として活用し、新たな価値を創造できる人物の養成を目的として、2022年度より「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH ディーダッシュ)」を開設しました。

DDASHは23年度からは、22年度開設の「リテラシーレベル」に加え、「応用基礎レベル」や、各学部で開設している50科目以上の学部専門科目を選択科目とする「データサイエンス・AI副専攻」を提供、3段階で構成する教育プログラムです。プログラムの必要単位を満たせば、卒業可否に関わらず学習歴のデジタル証明である「オープンバッジ」を希望者に発行。就職活動、学内外でのスキルの証明にも活用できます。尚、「データサイエンス・AI副専攻」修了者には履修証明書も発行可能です。



科学技術が高度に発達した現代社会では、様々な事象や人々の行動は膨大な量のデータとして蓄積され、あらゆる分野で活用されています。データやAIの利活用は、今や各国にとって経済成長を遂げるうえでの最重要課題と言っても過言ではありません。専門分野を問わず、これからの生きる多くの学生に学んでもらいたい現代社会の教養です。



「学び」を

同志社大学学部紹介

同志社大学は14学部がそろった総合大学。
2万5000人を超える学生たちが、
幅広い教養と高度な専門性を身につけるため、
日々、「学び」を続けています。

introduction of
doshisha university
faculties



知る



学部・学科 INDEX

| 学部 | 掲載ページ | 学科(1学年定員) | 特色 | 学びのキーワード |
|---------------------------------------|---------|---|---|---|
| 神学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.034 | 神学科(63) | 1.キリスト教、イスラーム、ユダヤ教の3つの一神教を学ぶ世界有数の教育環境 2.「文明の共存」を目指して、国際的に活躍できる人物を養成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 自由度の高いカリキュラム ● 一神教 ● 文明の共存 ● グローバルな視点 ● 弱者へのまなざし |
| 文学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.036 | 英文学科(315) 哲学科(70) 美学芸術学科(70) 文化史学科(125) 国文学科(125) | 1.日本文化伝統の地、京都で本物の文化に触れ、生きた学びを体感 2.少人数教育による専門教育と総合的学際的な教養教育 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教養 ● リベラルアーツ ● 温故知新の学び ● 多様性 ● 留学 |
| 社会学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.038 | 社会学科(90) 社会福祉学科(98) メディア学科(88) 産業関係学科(87) 教育文化学科(79) | 1.人間と社会の関わりを焦点に、社会現象を理論的に解明 2.現場の体験を重視した実践的な教育、フィールドワークと実習が充実 | <ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉 ● 地域社会と国際社会 ● メディアとジャーナリズム ● 働き方改革 ● 教育文化学 |
| 法学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.040 | 法律学科(683) 政治学科(210) | 1.企業法務、ジャーナリストなど将来の専門キャリアのための実践的教育を展開 2.大学院との提携による高度な専門教育を展開 | <ul style="list-style-type: none"> ● What,Why,How to ~ ● リーガルマインド ● 思想・制度・過程 ● 紛争解決 ● グローバル化と秩序変動 |
| 経済学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.042 | 経済学科(893) | 1.経済学への理解を深め、論理的思考や政策立案能力を養成 2.充実した歴史・文化・思想・地域・環境・情報教育により社会で活躍できる人物を養成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 経済学的思考 ● 課題発見力・解決力 ● 情報処理能力 ● アクティブラーニング ● 幅広い研究分野 |
| 商学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.044 | 商学科(893) | 1.公認会計士、税理士などの合格者数は全国トップレベル 2.さまざまな分野の実務家による実践的な授業を展開 | <ul style="list-style-type: none"> ● マーケティング ● 経営戦略 ● 国際ビジネス ● 情報・統計分析 ● 管理会計 |
| 政策学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.046 | 政策学科(420) | 1.自ら問題を発見し、解決できる能力を育成 2.多角的な視点で、政策課題を学ぶ専門教育を展開 | <ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャルイノベーション ● 課題発見力・解決力 ● 国内外でのフィールドワーク ● 起業 ● 公共性と市民意識 |
| グローバル地域文化学部 主たる校地…今出川 | ▶ P.048 | グローバル地域文化学科(190) | 1.「言語」「地域」「ディシプリン」「トピック/イシュー」という4つの軸を組み合わせたカリキュラム 2.複数の言語運用の能力を基礎に、グローバルな諸問題や地域の歴史・文化・課題に関する学際的な知識を身につけることで、自ら問題を批判的に考察する方途を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ● 複数言語を習得する ● 「グローバル」と「地域」をつなぐ ● 人々の哀しみに感応する ● 希望ある共生社会を構想する |
| 文化情報学部 主たる校地…京田辺 | ▶ P.050 | 文化情報学科(294) | 1.人間の営みである「文化」を分析し、新たな見方を発見 2.高度なデータ分析能力を修得し、情報を使いこなせる能力を育成 | <ul style="list-style-type: none"> ● 文化によって人間を理解する ● データサイエンス ● 文理融合 ● 論理的思考力 ● 探究型カリキュラム |
| 理工学部 主たる校地…京田辺 | ▶ P.052 | インテリジェント情報工学科(83)情報システムデザイン学科(83) 電気工学科(80)電子工学科(86) 機械システム工学科(96)機械理工学科(70) 機能分子・生命化学科(83)化学システム創成工学科(83) 環境システム学科(51)数理システム学科(41) | 1.次世代の技術革新に対応するため、理工学の基礎を徹底的に教育 2.世界トップレベルの施設を完備し、大学院進学率は50%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ● 人間のための科学技術 ● 先端科学技術センター ● 社会人基礎力 ● ALL DOSHISHA 共修プログラム ● 産官学連携 |
| 生命医科学部 主たる校地…京田辺 | ▶ P.054 | 医工学科(100) 医情報学科(100) 医生命システム学科(65) | 1.工学と医学の融合分野における先端科学領域で活躍するエンジニアや研究者を育成 2.工学、医学、基礎生物学など多様な学問との融合的教育研究 | <ul style="list-style-type: none"> ● 工学と医学の融合による先端科学 ● 機械工学と医学の融合領域 ● 工学と理学を幅広く学ぶ学科 ● アルツハイマー病・癌・糖尿病 |
| スポーツ健康科学部 主たる校地…京田辺 | ▶ P.056 | スポーツ健康科学科(221) | 1.人々の健康増進、スポーツの社会的発展に貢献できる人材を育成 2.学内外の研究・医療機関と連携し、充実した研究環境を提供 | <ul style="list-style-type: none"> ● QOL(生活の質)向上 ● フレキシブルな科目選択 ● 健康・予防医学 ● スポーツマーケティング ● 中学・高校の保健体育 |
| 心理学部 主たる校地…京田辺 | ▶ P.058 | 心理学科(158) | 1.3つの履修コースによる体系的で専門性の高い教育を展開 2.伝統の少人数教育のもと実験・実習の充実、社会にリンクするプロジェクト型教育などにより実践的問題解決能力を育成 | <ul style="list-style-type: none"> ● こころのメカニズム ● カウンセリング ● 行動の科学 ● 感情とパーソナリティ ● 発達と教育 |
| グローバル・コミュニケーション学部 主たる校地…京田辺 | ▶ P.060 | グローバル・コミュニケーション学科(158) | 1.卓越した実践的外国語運用能力を育成 1年間のStudy Abroadが必修(英語コース、中国語コース) 2.グローバル社会でfacilitator, negotiator, administratorとして活躍できる人物を育成 | <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーション ● 異文化理解 ● 外国語運用能力 ● グローバル社会 ● 多文化共生 |



| 設立年 | 取得できる免許・資格 | 関連のある主な資格 | 卒業後の主たる進路 | 専任教員数 (注4) | 学生数 (注4) |
|---|---|---|--|---------------|-------------------------------|
| 1875年同志社創立以来の 神学研究機関 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(宗教)●高等学校教諭一種(宗教)●図書館司書 ●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 牧師 など | ●教育・福祉●牧師●大手企業(メーカー、金融、サービス、商社など)●国際機関●国家・地方公務員●大学院進学 | 12 | 272 男子 121 女子 151 |
| 1875年同志社創立以来の 英文学科をはじめ、 5学科で構成 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(英語、国語、社会)●高等学校教諭一種(英語、国語、地理歴史、公民)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など(注2) | 考古学技師 など (注3) | ●教育・福祉●大手企業(金融、出版、サービスなど)●国家・地方公務員●博物館学芸員●図書館司書●大学院進学 | 73 | 2,949 男子 1,178 女子 1,771 |
| 2005年度開設。 社会、社会福祉、メディア、 産業関係、教育文化の 5学科で構成 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(地理歴史、公民、福祉)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など(注2) | 社会調査士、社会福祉士、 精神保健福祉士 など (注3) | ●教育・福祉●国家・地方公務員●シンクタンク●大手企業(マスコミ、サービス、銀行、保険、証券など) | 47 | 1,833 男子 777 女子 1,056 |
| 1891年開校の 政法学校政治科が前身 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(地理歴史、公民)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 弁護士、裁判官、検察官、 公認会計士、税理士、 司法書士、行政書士、 宅地建物取引士、 社会保険労務士 など | ●弁護士、裁判官、検察官●国家・地方公務員●ジャーナリスト●大手企業(金融、流通、メーカーなど) | 61 | 3,528 男子 1,991 女子 1,537 |
| 1891年開校の 政法学校理財科が前身 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(地理歴史、公民)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 公認会計士、税理士、 中小企業診断士、 ITパスポート、 基本情報技術者、 ネットワークスペシャリスト など | ●大手企業(金融、メーカー、流通、マスコミなど)●シンクタンク、コンサルティング●国家・地方公務員●公認会計士、税理士 | 48 | 3,681 男子 2,536 女子 1,145 |
| 1922年開校の 専門学校高等商業部が 前身 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(地理歴史、公民、商業)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 公認会計士、税理士、 中小企業診断士、 証券アナリスト、 ファイナンシャル・プランナー など | ●公認会計士、税理士●大手企業(銀行、保険、証券、コンサルティング、メーカー、流通など)●企業経営者●国家・地方公務員 | 52 | 3,616 男子 2,046 女子 1,570 |
| 2004年度開設。 政治・行政学、法学、経済学、 組織論の4領域を統合した 学部 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(公民)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 公認会計士、税理士、 中小企業診断士、 司法書士、行政書士、 宅地建物取引士、 社会保険労務士 など | ●大手企業(企画・国際・人事など)●国家・地方公務員●NPO、NGO●国際機関 | 40 | 1,787 男子 890 女子 897 |
| 2013年度開設。 ヨーロッパ、アジア・太平洋、 アメリカの3コース | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(地理歴史)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | TOEFL®テスト、TOEIC®テスト、実用英語技能 検定(英検)、IELTS™、ドイツ語技能検定試験、 Goethe-Zertifikat、実用フランス語技能検定試験、 DELF、中国語検定試験、HSK、スペイン語 技能検定、DELE、ロシア語能力検定試験、[ハン グル]能力検定試験、韓国語能力試験 など | ●海外展開している企業(メーカー、商社、旅行、マスコミなど)●国家・地方公務員●国際的な公共サービス(空港、航空)●国内外の大学院進学 | 55 | 837 男子 258 女子 579 |
| 2005年度開設。 文理融合の学部 | ●小学校教諭一種(注1)●高等学校教諭一種(情報)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 社会調査士、 情報処理技術者 など | ●大手企業(銀行、商社などの情報分析)●システムエンジニア●シンクタンク●博物館学芸員●大学院進学 | 26 | 1,237 男子 680 女子 557 |
| 1890年開校の ハリス理化学校が前身。 2008年度改組再編 | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(数学、理科)●高等学校教諭一種(数学、理科、情報)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など(注2) | 電気主任技術者、 電気工事士、 陸上無線技術士、 弁理士 など (注3) | ●大手企業(通信、電子部品、半導体、機械、電気、自動車、化学などの技術・研究部門)●大学院進学●国際機関●国家・地方公務員 | 108 | 3,159 男子 2,617 女子 542 |
| 2008年度開設。 工学・医学・理学の融合的な フィールドにおいて「生命」を 対象とした先端的な教育研究 を行う | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(数学、理科)●高等学校教諭一種(数学、理科)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など(注2) | 弁理士、技術士、 情報処理技術者 など | ●大手企業(医療機器、自動車、機械、電気・電子機器、製薬、情報通信、化学など)●大学院進学●企業・公的研究機関の研究・開発職●教育・福祉 | 37 | 1,033 男子 658 女子 375 |
| 2008年度開設。 多角的かつ科学的な視点で スポーツと健康の関係について 学修する | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(保健体育)●高等学校教諭一種(保健体育)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 健康運動指導士、 各種スポーツ指導者資格、 障がい者スポーツ指導員 など | ●大手企業(医療、健康、食品、スポーツ関連)●中学・高等学校保健体育教員●スポーツ振興の自治体職員●プロスポーツマネジメント●大学院進学 | 26 | 916 男子 598 女子 318 |
| 2009年度開設。1927年開設の文学部 哲学科心理学専攻が前身。専門的 な講義および少人数クラスにおける 演習・実習を通じて、高度な知識と技能 を身につける | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(社会)●高等学校教諭一種(公民)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など | 認定心理士、 認定心理士(心理調査)、 公認心理師 など | ●大手企業(メーカー、サービス、金融、商社、マスコミ)●教育・医療・福祉●国家・地方公務員●大学院進学 | 19 | 648 男子 218 女子 430 |
| 2011年度開設。 高度な外国語運用能力とともに、 幅広い教養、異文化理解力 を養う | ●小学校教諭一種(注1)●中学校教諭一種(英語)●高等学校教諭一種(英語)●図書館司書●学校図書館司書教諭●博物館学芸員 など ※中国語コース、日本語コースには、教職課程および 学校図書館司書教諭課程は設置されていません。 | TOEFL®テスト、TOEIC®テスト、IELTS™、実用英 語技能検定(英検)、国際連合公用語英語検定試験 (国連英検)、中国語検定試験、HSK、J.TEST実 用日本語検定、BJTビジネス日本語能力テスト、 ドイツ語技能検定試験、Goethe-Zertifikat、実用フ ランス語技能検定試験、DELF/DALF など | ●大手企業(メーカー、情報通信、流通、航空、旅行など)●国家・地方公務員●国際機関●大学院進学 | 29 | 670 男子 230 女子 440 |

(注2) 取得できる教員免許の教科は学科によって異なる
(注3) 関連のある資格は学科によって異なる

(注4) 教員数、学生数は2023年5月1日現在

神学部

school
of
Theology

キリスト教、ユダヤ教 イスラームも研究

キリスト教の研究・教育に取り組んできた歴史をもつ神学部。2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロ以降はユダヤ教、イスラームも学びの対象とし、多様な文明や価値観の共存について探究しています。聖書に「真理は汝を自由にする」と記されているように、学びによって人間は自由になります。神学部では、学生一人ひとりの個性を最大限尊重した学びを通して、「他者や社会のために自分ができることは何か」を考え、自ら行動する力を育みます。



03 少人数ならではの 対話型教育

1学年あたりの定員は、全学部の中でもっとも少ない63人。学生と教員の距離が近く、アットホームな雰囲気の中での対話型の教育を重視しています。また、カリキュラムの自由度が高いため、一人ひとりの志向に合った授業を探すためのガイダンスをきめ細やかに行っています。学生間のつながりも強く、お互いに勉強や進路の相談をしやすいのも特長です。「自分の居場所」を見つけやすい環境が整っていますので、安心して勉学に集中することができます。

04 弱者へのまなざしを 忘れず、差別や格差など 足元の問題に取り組む

元来、神学と福祉は切り離せません。東日本大震災の被災地におけるボランティア活動、日雇い労働者・野宿者支援、ホスピスでのケアなど、神学部には社会福祉の活動に深く関わってきた伝統があります。社会的弱者に寄り添い、差別や格差など日本社会や地域の問題に取り組む——。宗教家や社会起業家はもちろん、企業人も利潤の追求だけではなく社会貢献の責任が問われる時代において、こうした社会実践の経験は社会に出ても役立つはずです。



「止揚学園」での交流のひとつ

同志社建学の精神を 受け継いだ 自由な学びと社会実践

01 3つの一神教を学び 国際情勢を理解する

テロや戦争、難民といった現代の諸問題だけではなく、政治や経済に至るまで、「いま世界で何が起きているのか」を理解するうえで、その背景にある宗教について学ぶことは有効なアプローチになります。キリスト教、ユダヤ教、イスラームを信仰している人々は世界人口の55%に上るともいわれています。同志社大学神学部は、これら3つの一神教を本格的に学べる世界でも稀有な研究・教育機関であり、宗教を学ぶことでグローバルな視点を養います。



02 関心や目標に応じて カリキュラムを 自由に設計できる

創立者・新島襄は、型にはまらず自分の頭で考え、自分で判断することができる人間を同志社で育てようと考えました。建学の精神が息づく神学部では「自由」を学びのキーワードとしています。必修はキリスト教、ユダヤ教、イスラームの基礎を知る「神学入門」1科目のみ。3つの宗教を幅広く学ぶ、1つの宗教を専門とする、関連した歴史、芸術、哲学も学ぶ、他学部の設置科目を多数受講するなど、自らの関心や将来目指す方向に応じて自由に学びを設計できます。



TOPICS /

古典語を含む 多彩な言語科目

現代語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語、イタリア語)のほかに、神学部独自の科目である聖書ヘブライ語、現代ヘブライ語、新約ギリシア語、神学ドイツ語、ペルシア語、アラビア語も学べます。これらの言語は、一神教を深く学ぶうえで重要な役割を果たします。

ハイブリッドで学ぶ 「宗教と社会福祉2」

オンライン授業と対面授業、フィールドワークを組み合わせ、社会実践について学ぶ科目「宗教と社会福祉」が2019年からスタート。フィールドワークでは、知的障がいのある方が暮らす施設「止揚学園」を訪れます。入居者の方と食事を楽しみ、活動を共にする体験は、自分自身を見つめ直すよい機会になります。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



文学部

faculty
of
Letters

人間の営みを見つめ
社会の本質を理解することで
激動する時代を
生き抜く軸を身につける

急速な技術革新や国際情勢の変化によって、時代の先行きはますます不透明になっています。文学部の学びは、文学、言語、哲学、美術や芸術、歴史など、人間が生み出してきたものを考察し、人間社会の本質を理解すること。これにより、複雑に変化する世界を生き抜くための軸となる、普遍的なものの見方を養います。





01

古くからの教養を学び、 未来を展望する力を培う 「温故知新」の学び

本学部の歴史は1875年に誕生した同志社英学校にまでさかのぼることができます。本学部ではリベラルアーツの伝統のもと、先人たちが長きにわたって築き上げてきた教養を学び、文化の意味を現代の視点から問い直します。こうした温故知新の学びは、その時々々の流行に惑わされることなく、未来を展望することのできる力を培います。数えきれないほど多くの有形、無形の文化が今なおおづく京都の街を舞台に、幅広い教養を身につけ、学びを深めましょう。



02

専門分野を核として さまざまな知識を 有機的につなげる

多くの大学において文学部を学際化する傾向がみられる中、同志社大学文学部は各学科の専門性を高めていくという選択をしました。それぞれの専門分野の深い知識を習得することで、それを「核」として、学生が自らの興味に応じ、さまざまな知識を有機的につなげることができるからです。本学部には英文学科、哲学科、美学芸術学科、文化史学科、国文学科の5学科があり、入学時から学科に分かれ、専門性の高い教育を受けられます。



文学、言語、哲学、芸術、歴史など
過去の積み重ねから
自分がどうあるべきかを問う



TOPICS /

複眼的視座を養う 副専攻制度

所属する学科での学びに加え、他学科の講義や演習を履修する「学科型副専攻」、学科の枠を超えて人文学総合・メディア文化・アジア文化・国際専修という4つのテーマを学ぶ「横断型副専攻」、科学分野で起こる社会問題を正しく読み解き、解説できる力を養う「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」を展開しています。

就職先はさまざま 教員、学芸員 司書を目指す道も

文学部の学びは特定の職業に直結するものではありません。だからこそ、学んだ教養を活かしてさまざまな職種を選ぶことができます。卒業後の進路は金融や流通、マスコミ、メーカーといった一般企業、公務員など多岐にわたります。また、文学部では教員、学芸員、司書の免許が取得可能で、それらを目指す学生も多くいます。

03

意見を交わして 学びを深める 少人数制教育

1年次から10～20名で行う演習科目が展開されます。アカデミックな文章の書き方や文献の検索方法など、大学での学習に必要なことがらを学んだうえで、専門的な学びへ。3年次からはゼミに所属して、一人ひとりの研究テーマを追究します。4年次には担当教員の指導のもと、学びの集大成として卒業論文を執筆します。教員と学生が少人数で向かい合い、意見を交わして学びを深める——。大学教育の真髓がここにあります。



04

国際主義と多様性 真にグローバルな 視点を培う

文学部生は積極的に留学に挑戦しており、海外の協定校への派遣学生のうち、多くを文学部生が占めています。一方で、海外からの留学生も多く、日本人学生にとって大きな刺激になっています。単にコミュニケーションツールとして外国語を習得するだけでなく、体系的な学問として語学や文学を学ぶこと。そして、留学や国際交流を通じて未知の文化や価値観に触れること。これらによって、真に世界に通じる「もの見方」を身につけることができます。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



社会学部

faculty
of
social
studies



変革が求められる時代に よりよく暮らせる 社会のしくみを考える

社会学部では人と人、個人と社会の関係を研究しています。現在、世界と日本は、家族、働き方、医療、介護、メディア、コミュニケーションなど、さまざまな事象において変革を迫られています。私たちはどのように向かい合い、社会のしくみをどう変えていけばよいのか。これこそが社会学部の学びのテーマです。

人と社会の関係を
幸せにする処方箋を考える

社会学科

すべての人が自分らしく
暮らせる社会を目指して

社会福祉学科

メディアの情報を読み解く
感受性と批判力を養う

メディア学科

人が幸せに働けるしくみを
プロデュース

産業関係学科

世界の新しい教育の流れを
リードする人材を育成

教育文化学科



01

建学の精神から続く 弱者へのまなざし

社会学部は2005年に文学部から独立する形で誕生しましたが、それぞれの学科には古い歴史があります。なかでも社会福祉学科は1931年に日本の大学では初めての社会事業学専攻として創設されました。創立者・新島襄は単に知識や技術を授けるだけでなく、良心を手腕にそれらを運用する人物を育てることを同志社の建学の精神としました。それに基づき、弱者に寄り添う社会福祉の実践者や教育研究者を育成してきたのが社会福祉学科の歴史であり、学部全体にその伝統は受け継がれています。



弱者に寄り添ってきた伝統のもと
人と人との関わり合いを見つめ、
共に生きていく社会を創造する

03

フィールドワークで 現場の声に耳を傾け、 実証的な調査研究を行う

社会学を学ぶためには、講義を聴いたり文献を読解したりするだけでなく、教室を出て、企業や学校、地域などで行うフィールドワークが欠かせません。インタビュー調査やアンケート調査で現場の声を聞き、データを集めるといった実証的な調査研究を行い、それをもとに理論化することが社会学の手法です。また、社会学部には公的機関や福祉施設、企業で行われる現場実習、海外での調査実習など実践的なプログラムも豊富に用意されています。

04

興味や関心を広げていく 副専攻制度

幅広く社会問題に目を向け、問題を明確にしたうえで解決する力を培うために、本学部では副専攻制度を導入しています。所属学科の学びを主専攻としつつ、残り4学科に「ジェンダー」「社会心理」「国際社会」を加えた7分野から副専攻を選べます。これらの副専攻を修了すると、卒業時に修了証明が発行されます。主専攻でまず軸足を定めて深く探究し、そこからさらに自分の興味や関心を広げていける。それが社会学部の副専攻制度の特色です。



02

人と社会を見つめる 5つの個性的な学科

人と社会の関係性や、社会のしくみについて幅広く研究する「社会学科」、高齢者、障がい者、いじめや不登校で悩む人など、社会で生活するうえで困っている人々に必要な施策や活動を考察し実践する「社会福祉学科」、新聞、テレビ、SNS、アニメなどあらゆるメディアを研究対象とする「メディア学科」、よりよい働き方や雇用のあり方について考える「産業関係学科」、学校だけではなく社会のあらゆる場における人間形成の理念と具体的方法について研究する「教育文化学科」の5学科を設置しています。



TOPICS /

ハワイの実践例を学ぶ 「国際社会福祉実習」

国際的な視野を持つソーシャルワーカーの育成を目的とした国際社会福祉実習ではハワイを訪問。先住民や移民のための社会福祉施設やNPOを訪れ、多文化社会ならではの支援方法を実践例から学修。貧困とホームレス、薬物乱用といった問題に対するユニークな取り組みについても学ぶほか、ハワイ大学では社会福祉の授業に参加します。

多文化共生社会を体感 「異文化体験実習」

異文化体験実習では、多文化共生社会として知られているカナダへ。日系移民のライフストーリー・インタビュー、日本語学校での教育実践、英語話者がフランス語で教育を受ける幼稚園・小学校の訪問などを通して、多文化共生社会特有の教育文化を肌で感じ、世界的な視野に立って日本の未来の教育について考えます。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



法学部

faculty
of
Law

法律・政治の専門知識を学び
社会のさまざまな問題に
「よりよい」解決策を提示する

大切なのは、「なぜ？」という論理的な問い。法律学科では、法律を通して「物事の見方、考え方」「結論を出すためのプロセス」を徹底的に学びます。政治学科では、絶え間なく変動する国内外の政治を冷静に分析し、21世紀のあるべき姿を構想する確かな力を身につけます。将来の進路は法曹、外交官、公務員、企業法務、ジャーナリスト、研究者など多様なキャリアを描けます。



01

履修科目を 自由に組み合わせて キャリア形成に活かす

法学部では専門的な科目の履修に先立ち、入門科目と基礎科目を履修します。その上で法律学科は展開科目、政治学科は発展科目を履修することで体系的に学修できます。展開・発展科目はさまざまな科目から自由に選択できますが、目指す進路に直結する専門知識を効率的に修得するためのガイドラインとして、履修モデルやコースも用意。これを参考に、各自の目標と関心に合った履修科目を組み合わせることで、自分らしいキャリアへの道が開けます。



02

大学院との連携を重視 早期卒業、飛び入学制度も

即戦力のスキルや、ワンランク上の専門性を養うべく、大学院との連携を重視しています。学部内に在籍しながら大学院の科目を受講できるほか、3年間で学部を卒業して大学院に進学する「早期卒業」制度や、4年次を飛び越えて進学する「飛び入学」制度もあります。また、成績優秀な学部在籍生向けには、筆記試験なしで進学する「特別選抜入学試験」制度も。大学院進学率が高いのも法学部の特徴で、5～6年間の高度な教育によって実社会で活躍できる力を養います。



高度な専門知識と リーガルマインドを身につけて 多様なキャリアを実現する



TOPICS /

法曹養成プログラムで 基礎的能力を身につけ、 学内外の法科大学院へ

法学部では、法曹養成プログラム(法曹コース)を設置しています。法律学科の学生で本プログラムを修了見込みの者は、連携先の同志社大学と神戸大学の法科大学院はもちろん、その他の大学の法科大学院が実施する特別選抜入試を受験することができます。法曹養成プログラム向けの早期卒業制度もあり、最短5年で司法試験の受験資格を得ることができます。2022年度は15名が本プログラムを修了し、学内外の法科大学院に進学しています。

学びと実務を結び 企業法務プログラムと 実務家連続講義

法律学科の「企業法務プログラム」では、企業の法務関連部門でのインターンシップを行う「リーガル・フィールドワーク」を正課科目として開設。実務の場で法務関連の課題を追究し、「生きた法律」を体験できます。政治学科の「実務家連続講義」では、外交官など国際協力に携わる実務家や新聞社の現場の記者による講義を実施。政治や外交の第一線で活躍する実務家の話を聞くことで、政策決定・実施の現場の理解につながります。

03

グローバル化の最前線に 挑戦する実務家を育てる

グローバル化の進展に伴い、社会問題や紛争の解決が国境を越えることが増え、法律や政治を手腕に活躍する実務家にも、国際的な視点が求められています。法学部では、海外提携大学と同志社大学にそれぞれ一定期間修学し両大学の学位を取得できるダブル・ディグリープログラムや海外の大学へ留学する単位互換制度、サマープログラムを学部独自に実施しており、留学制度が充実しています。また、正課科目でも模擬裁判などの国際大会出場を目指す特殊講義などを開講しており、グローバルな学びを展開しています。



04

現代政治、歴史・思想、 国際関係の3コースで 最新の政治学を学ぶ

政治学科は、2年次の秋から3つのコースに分かれます。政党、選挙、行政、地方自治、有権者の政治意識などを学び、現代政治のメカニズムを理解する「現代政治コース」。日本・アジア・ヨーロッパの政治に関する歴史と思想の大きな流れを理解する「歴史・思想コース」。安全保障・国際機構・国際政治経済の知識を深め、アメリカ・ヨーロッパ・中国・東南アジア・アフリカなどの政治を総合的に把握する「国際関係コース」。それぞれのコースには、最新の政治学研究に基づいた専門的な学びがあります。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



経済学部

faculty
of
economics

日常のあらゆることを
経済学的思考で分析し
社会に貢献する
人物を養成する

私たちの日常生活のあらゆる事象には経済活動が関連しています。本学部は経済学的思考・分析力や論理をベースとして、現代社会が抱える諸問題を「理論」「政策」「歴史」などの観点から分析し、解決への方法を探ります。また、これらを通じて、経済学への理解を深め、論理的思考力や政策立案能力を養い、社会の中で力を発揮できる人物を育みます。



01

系統的・段階的学習で 経済学の基礎を身につける

入学後はまず大学での学修を進めるために必要な技能を学びながら、経済現象や経済学の基本的な知識を修得します。併せて、日本経済の現状や課題などをテーマに経済学の基礎的な考え方や今後の行方などを考察し、さまざまな見解に触れ、柔軟な思考と経済学的な見方で世の中を捉える姿勢を養っていきます。また、情報技術の進歩に対応するため、データから正しいエビデンス(証拠)を得るのに必要な統計学、計量経済学などのデータ分析が学べる科目も数多くあります。



経済学的思考を身につけ、
広く社会のために行動しうる
自治自立の人物を養成する

03

少人数教育とゼミで 最先端の経済を知る

1年次の秋学期から履修することのできる「エコノミクス・ワークショップ(プライマリ・アドバンスト)」では、少人数で最先端のトピックスを探求することができます。テーマは毎年見直され、「MMT(現代貨幣理論)を読む」「京都と日本の食文化」「ジェンダーとベーシックインカムについて英語で読む」など多岐にわたり、興味があれば何科目でも履修が可能です。ゼミは2年次の秋学期から始まり、関心のあるトピックの専門性を深めていきます。

04

STUDY&ACTIONで 学びの幅をさらに広げる

本学部は授業やゼミなどのSTUDY(正課)のほか、ACTION(課外活動)も充実しています。「学生プロジェクト」は学生たちがチームを組み、半年~1年をかけて自分たちが設定した問題の解決に取り組みます。「里山きゃんぱすプロジェクト」「リニアモーターカーによる環境への影響」など、そのテーマは多岐にわたります。そのほか、「ビジネスアイデア大会」「ディベート大会」など多くの学びの場を提供しています。



02

世の中のあらゆることが 自分の研究のテーマに

金融や財政、SDGsの諸問題からコンサートや美術館、マンガ・アニメなどの文化活動まで、研究対象は無限に広がります。経済学的なものの考え方、論理的思考を身につけた後、自分の好きなことをテーマに研究を進められることが本学部の魅力のひとつです。自身が考える小さな疑問、ニュースで報道されている深刻な問題、さらには子どもたちを笑顔にする方法も経済学を学ぶことで解決の糸口を見つけられるかもしれません。



TOPICS /

産官学連携キャリア 形成プログラム

企業や地域社会といった実社会をケースとしたプログラムを実践することで、社会人としての基礎力や課題発見・問題解決能力を養います。また、卒業後の進路選択の具体化、多様化を図ることも目的のひとつです。実社会を理解し、イノベーション人材として活躍するための好機となるプログラムです。

「いま」を知るための 充実した科目

情報系科目はゼミを含め20科目以上あり、基本的なITリテラシーのほか、社会人としても通用する実践的ITスキル、AIの活用法なども学べます。ほか、金融業界やファッション業界、ものづくりなどの最前線で活躍しているビジネスリーダーによる講義を通じて、ビジネスの現場を知ることができる科目も設置しています。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



商学部

faculty
of
commerce

経済の変動が激しい
現代社会に対応できる
生きた知識とスキルを持つ
グローバル人材を育成

本学部は自発的な問題発見能力と冷静な判断能力を兼ね備え、経済の変動が激しい現代社会でグローバルに活躍できる人物の育成を目指します。流通やマーケティング、貿易、金融、保険、会計、経営など、具体的な経済活動に焦点を当て、将来のキャリアビジョンを形成しながら、職業分野と直結した実践的な内容を学んでいきます。





01

5つの学系と 2つのコースで 幅広い学びを実現

商学に関する専門科目は「経済・歴史」「商業・金融」「貿易・国際」「企業・経営」「簿記・会計」の5つの学系に分類されています。コースは「商学総合コース」「フレックス複合コース」の2種類あり、「商学総合コース」は5つの学系から主学系と副学系の2つを選択し、専門領域を総合的・体系的に学びます。「フレックス複合コース」には特定分野をより重点的に学ぶ「専門特化型」と副専攻の選択科目の幅が広い「副専攻型」の2つがあります。

2つのコースの
違いについて



02

「現場」に近い学びを 展開する多彩なゼミ

少人数クラスのゼミは教員との距離も近く、密度の濃い研究が行われています。そのテーマは、経営、マーケティング、国際電子商取引、観光、会計、金融、経済など多方面にわたります。その内容も、マーケティングを例にすると「ケーススタディー（事例を使った分析）による研究」「他大学の学生と交流しながら卒業論文を発表する」「企業から持ち込まれた課題についてマーケティングの手法を用いて解決策を探る」など実務現場に役立つ視点を重視しています。



ビジネス
トレンドの先を見通し、
国際舞台で活躍できる
人物の輩出を目指す



TOPICS /

リアルなビジネスを 実感する講座を用意

企業やビジネスに関して幅広く学べる授業として、企業の経営者や実務者を招き、ビジネスの現場のリアルを学ぶリレー形式の講座を用意されています。また実際の現場を体験し、ビジネスについてより深い理解を得ることを目的とした「インターンシップ・プログラム」なども展開しています。

5年一貫 教育プログラム

このプログラムは学部4年次に生まれる時間的余裕を大学院へのステップとして活用することで、5年で修士学位の取得を目指すものです。学部から大学院へと継続的に指導を受けることで、幅広い視野と深い専門知識を修得し、国内外の企業・産業が直面する諸課題を理解・分析できる高度な専門知識を有する人物を育成します。

03

グローバル・ビジネスを 肌で体感する留学制度と 海外研修プログラム

同志社大学の派遣留学制度のほかに学部独自に韓国、マレーシア、台湾、タイ、ドイツの大学と提携しており、学生の派遣を行っています。また、海外研修プログラム科目として「海外ビジネスⅡ」を設置しており、実際に海外に行き現地の日系企業や商業施設などの見学や現地スタッフとの交流を通じて、海外ビジネス、および、日本企業の海外進出の現状について学びます。



04

正課科目と課外講座で 資格取得をサポート

本学部では「簿記学」「会計学」「ファイナンシャルプランナー基礎・応用・実践」など、資格試験に関連する多くの科目を卒業単位の算入される正課科目に組み入れています。また、各種資格試験講座を課外講座として開講しており、「公認会計士入門講座」「税理士入門講座」「日本商工会議所簿記検定対策講座」「中小企業診断士入門講座」など資格試験にチャレンジするためのバックアップ体制を整えるとともに、資格取得のための自習室も完備しています。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



政策学部

faculty
of policy
studies

政治、経済、法律、組織
さまざまな視点から
現代社会の問題を発見し、
「政策」を立案する

「国と国が手をつなぎ環境を守るために必要なものは？」「地域社会を元気にするためには？」など社会が抱える問題を発見・解決するためには、幅広い知識が必要です。政策学部では、政治、行政、法律、経済学、組織論など多様な視点を通して現代社会を見つめて問題を発見し、解決するための「政策」を立案、実施・評価できる力を培います。



01

実社会の諸問題を題材に「政策」を研究

国際機関や国、自治体、民間企業、NPOなどさまざまな組織の問題発見から解決までのプロセス＝「政策」が研究の対象。社会で実際に起こるリアルな状況を想定しながら理論的かつ体系的に政策を学び、政治・行政、経済、法律、組織、国際社会などの具体的な知識や技術を身につけます。創立者・新島襄の言葉「倜儻不羈」（独立心が旺盛で常軌では律しがたい自由な精神）を胸に、新しいアイデアで社会にイノベーションを起こす人物の育成を目指します。



02

学問の手法を身につけ 専門的かつ実践的な学びへ

1年次から2年次春学期にかけては、情報へのアクセス方法やレポートの作成方法、読解・分析・伝達のスキルなど、大学で学ぶために必要な手法や知識と、社会科学全般の基礎知識を身につけます。2年次秋学期以降は、多様な科目群の中から自身の問題意識やキャリアイメージに合った科目を選択。特に演習（卒業研究プロジェクト）では、社会の現場に出て学ぶ「フィールドワーク」を通じて各自のテーマを実践的に深く追究します。



倜儻不羈の精神で
新しいアイデアを打ち出し
社会にイノベーションを起こす



TOPICS /

政策等立案コンテストに 多くのゼミ生が参加

2022年度はRESASやV-RESAS等を活用した地域課題の分析を踏まえた、地域を元気にするような政策アイデアを募集するコンテストである「地方創生☆政策アイデアコンテスト2022」の全国審査で地方創生担当大臣賞受賞（全国1位）と協賛企業賞5つを受賞。学生向けの伝統ある全国コンテスト「日銀グランプリ」で「優秀賞」受賞。柔軟な発想や創造力と市外から見た若者の視点による新たな政策を募る「たつの市地域創生アイデアコンテスト」で4年連続最優秀賞受賞。その他各種大会で多数の受賞を果たしており、ゼミ活動を通じた取り組みが高く評価されています。

グローバルに活動する 海外フィールドワーク

バルカン半島で国際政治の現場を体感する、アメリカの学校で季節感を大切にしながら日本語を教える……。政策学部では多様な海外フィールドワークを積極的に行ってきました。新型コロナウイルス感染拡大による渡航自粛期間にはZoomを活用した途上国の子どもの学びのサポートなどを実施。規制緩和により、再び海外フィールドワークを実施する予定です。

03

仲間たちと切磋琢磨し 現場で汗を流しながら 学びを深めるPBL

政策学部では徹底した少人数教育やアクティブラーニングを重視しています。「プロジェクトベースドラーニング(PBL)」では、少人数のチームごとに課題を設定。国内外の多種多様なフィールドに行き、公的機関や民間企業、NPO・NGOなどとともに課題解決に挑みます。こうした実践を通して物事を多角的にとらえる思考力を深めるとともに、グループワークにおけるチームビルディングや、自分の意見を的確に伝えるプレゼンテーションの能力を磨きます。

04

2年半のゼミ活動で 未来につながる 力を身につける

2年次秋学期からは大多数の学生がゼミに所属します。「公共政策」「コミュニティ創造」「観光振興」「福祉行政」「スポーツ政策」「家族社会学」「金融」など、ゼミのテーマはさまざま。各ゼミでは4～5人程度のチームに分かれて政策立案コンテストやディベート大会への参加、自治体職員と協働した実際の政策づくり、国内外でのフィールドワークなどに取り組みます。ゼミ活動は自分の可能性を広げるチャンス。将来の目標に向けて、未来につながる力を身につけましょう。



大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



グローバル 地域文化学部

faculty of
global and
regional
studies

Global Village

世界の諸問題を研究し、 希望ある共生社会を構想する

加速度的なグローバリゼーションによって、国際社会を構成する諸地域の間で言語、宗教、歴史観などの違いに起因する無数の問題が相互に絡み合いながらますます複雑化しています。こうしたグローバルな問題の解決方法を考えるためには、地域の文化や課題についての深い理解が必要です。グローバル地域文化学部では、世界各地の文化・歴史・課題を学際的に研究。共生社会の実現は難しいと理解しつつ、それでもなお希望ある未来を構想する志を育てます。

地域の歴史や文化を理解し
国際的な相関性にまで視野を広げる

48

グローバル
地域文化学科



01

複雑に影響し合う グローバルとローカル

ローカルな起源から世界中に感染拡大した新型コロナウイルス感染症。複数の国にわたって活動し、国家以上の資本力と政治力を持つ多国籍企業。これらの事例を見ると地域の事象とグローバルな事象は複雑に影響し合い、世界は常に変化し続けているとわかります。こうした世界の動きをダイナミックに捉えるのがグローバル地域文化学部の目指すところです。まずは100円ショップやファストファッションの商品はなぜ安いのかというような身近な問題からグローバルな視野を広げていきましょう。



02

複数の外国語を習得し 多様な視点を獲得する

外国語は地域を理解するための基礎スキルです。グローバル地域文化学部では英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、コリア語、インドネシア語、トルコ語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語の12言語のカリキュラムを用意し、2つ以上の外国語の習得を目標にしています。英語だけではなく、フランス語も、中国語も……と使える外国語が多くなると、その分だけ新しい視点が増えて世界の見え方や文化の見え方が変化します。



「言語」「ディシプリン」 「地域」「トピック／イシュー」の 4つの軸で学ぶ



TOPICS

多彩な

海外留学プログラム

サマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラム、EUキャンパスプログラム、派遣留学など、同志社大学で実施している留学プログラムの他に、学部独自の研修プログラム(ウェスタン・ミシガン大学)、海外インターンシップを用意。

「グローバル」と「地域」をつなぐ体験型プログラム

2022年度より、国内でグローバルな体験ができる「グローバル地域文化学の実践」を新たに設置。水俣や奄美大島へのフィールドワークや、移住者コミュニティとの交流、映像制作、子どもの権利に関するプロジェクトを実践し、その成果を英語で発信するスキルを身につけます。

03

専攻する地域を追究し 関連する他地域についても 横断的に学ぶ

ヨーロッパ諸国の歴史、文化、現代の諸問題を協調、対立、摩擦、調和といったさまざまな関係の中から把握する「ヨーロッパコース」、急激な経済成長を遂げるアジアとオセアニア地域の今を学ぶ「アジア・太平洋コース」、南北アメリカ大陸およびカリブ諸島など周辺地域全体を視野に入れ、国際情勢との相関性を研究する「アメリカコース」の3コースを設置。いずれも地域の歴史、文化、課題の3つの側面から学び、さらに他コースの科目を履修して視野を広げることができます。

04

少人数セミナーで 4年間の学びを段階的に 積み上げる

学問の方法に触れる導入セミナー、地域文化研究の方法を学ぶ入門セミナー、各ディシプリンのアプローチを学ぶ教養セミナー、原書・原語で学ぶセミナー、自らのテーマを発見し深く探究する発展セミナー・専門セミナーなど、すべての年次に少人数セミナーを配置し、最終目標の卒業論文執筆につなげます。



大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



文化 情報学部

faculty of
culture and
information
science

領域の枠を超え
文化をデータサイエンスの
手法で解明し、
人間の本質に迫る学び

文化とは人間が創り出した、人間の本質を表すものです。つまり文化を理解することは、人間そのものを理解することにつながります。文化情報学部は、芸術や言語、社会、経済、歴史、心理などの人間の営みを文化と捉え、文化現象をデータサイエンスによって分析・解析することで、これまでの手法では見えなかった事実を探っていく、文理融合型の学部です。





01

文理の垣根を越えて 多様な文化研究の方法を学ぶ

本学部は文系・理系の垣根を越えた「文化情報学」の学びのため、文化に関わる多彩な科目を配置した「文化科学系科目群」、統計科学・数理科学・計算機科学に関する科目を体系的に配置した「データ科学系科目群」、学融合的な知見や最先端の研究動向を扱う「先端・融合系科目群」を提供しています。また、文化情報学に関する教養を身に付けるため「文化情報学トピックス」など文化に関する教養科目を設置するほか、現代の「読み書きそろばん」と言われる「数理・AI・データサイエンス」のリテラシーレベルプログラムであるDDASH-L(全学共通プログラム)を必修としています。これらを経て、3年次秋学期からは多様なテーマを揃えた研究室に所属し、これまでの学びを発展・融合させた独自性の高い研究へと展開していきます。



02

議論を通じて学ぶ 文化情報学の理念

1年次では「文化情報学とは何か」について学生同士の議論による探究(「文化情報学1」)、上級生の研究発表やキャリアビジョンの紹介に関する聴講・議論(「文化情報学2」)を行い、本学部における学びについての理解を深めます。さらに2年次では各回数数の教員が文化情報学の最先端の研究を紹介し、融合の可能性について学生を交えて議論します(「文化情報学3、4」)。この議論を通じて、学生は異分野融合がもたらす革新的な知の創出のための思考法を養うとともに、文化情報学の理念について思考を巡らせます。



人間を理解するために
文化研究の方法を学ぶとともに
汎用的な知識・技能を身につける



TOPICS /

国際レベルの論理的思考力 を養う教育プログラム

文学部との共同事業として、主に1、2年次生を対象とした「論理的思考教育プログラム」を開発しています。これまで日本の大学で教えられていることが少なかった論理的思考のための技術と知識を育成する多彩な内容となっており、同志社大学の伝統である良心教育に則り、論理的思考を社会のために正しく用いる力を養います。

伝統文化から現代文化まで 古今の多彩な文化に触れる

「文化」を科学する文化情報学部において、実際に「文化に触れる」ことは極めて重要です。「文化情報学トピックス」では、伝統文化、現代文化などを取り上げ、伝承者をはじめとする第一線の講師が、文化に関わる技能や伝承について解説する科目や、現代において「文化」を考えることの意味について考える科目を複数設置しています。

03

学生と教員とが 同じ目標を共有する 探究型の学び

3年次では、異分野の教員同士で担当する探究型演習授業において、これまでに学んだ文化現象の知識やデータ科学のスキルを活用し、グループで協働して問題を発見・解決する力を養います(「ジョイント・リサーチ」)。秋学期からは研究室に所属し、先行研究の調査や課題の整理を行い、研究テーマを絞り込んでいきます(「リサーチ・セミナー」)。4年次では、学びの集大成として、教員から指導を受けつつ、時には議論を交わしながら、学生主体の研究活動を実践します(「リサーチ・プロジェクトI、II」)。こうした研究活動を通じて、学生は、確かなデータ源・情報源を基にした学問的探究の態度と能力を習得することができます。

04

リサーチ・プロジェクトを通じ、 データサイエンスの実践的手法と 深い思考力を身につける

本学部には、様々なテーマの研究室があり、興味をもった文化現象をデータサイエンスの手法を用いて分析・解析しています。そのような活動を通じて、単なる知識としてのデータサイエンスではなく、実践的なデータサイエンスの手法を身につけるとともに、分析結果に基づく深い思考力を培うことができます。例えば、人文情報学研究室では、学芸・思想をデータサイエンスの射程に入れた学際的研究を促進し、伝統音楽の特徴をAI技術と結びつけて音楽文化の伝播・変遷を示すモデル構築を行っています。また、データ駆動科学研究室では、物理学でしばしば登場する考え方を応用し、一見異なるテーマに対して同じ方法で挑めないかを模索しながら研究に取り組んでいます。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



理工学部

faculty of
science
and
engineering

“良心教育”のもと、
優れた知識で
人間のための科学技術の
進歩に寄与する

科学技術の発展に伴い、その基盤となる理工学は専門化・高度化を遂げています。新島襄の言葉「優れた知識や技術は、正しい良心のもとで扱われるべきである」に基づき、知徳を兼ね備えた世界平和の構築と人々の幸せに貢献できる学生を育成します。イノベーションの創出に取り組み、医学などさまざまな分野との融合により知識と技術が身につきます。

高度な情報処理技術を
具現化できる研究者に

インテリジェント
情報工学科

社会を支える電気エネルギーと
その根幹技術を学ぶ

電気工学科

ものづくりを原点に
さまざまな機械の開発者を育成

機械システム
工学科

新素材・バイオに
「分子」の機能から迫る！

機能分子・
生命化学科

資源・エネルギーを活用し
環境への影響を検討する

環境システム
学科

52

人とシステムをつなぎ
社会基盤となる技術を学ぶ

情報システム
デザイン学科

未来の情報通信を切り拓く
エレクトロニクス技術を学ぶ

電子工学科

人と環境や科学の視点から理工学と
融合した最先端の機械を学ぶ

機械理工学科

化学技術で持続可能な
社会を創成する

化学システム
創成工学科

数学・数理科学を活用して
社会に貢献できる人材を育成

数理システム
学科



01

科学・工学の基礎と応用の理論を十分に習得する

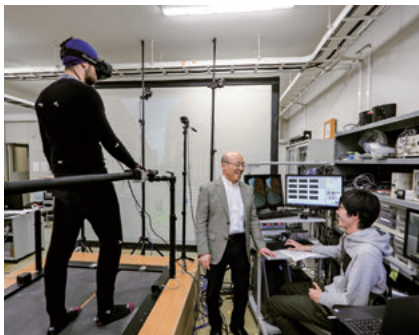
社会の変化や技術革新に対応するには、理工学の基礎を身につける必要があります。1年次からそれぞれの分野で基礎となる科目を設置し、演習や実験を繰り返すことで基礎理論が身につくカリキュラムを導入。集めた情報や技術を自ら創造し、科学技術の発展に寄与できる応用理論も徹底的に学びます。先端的な研究課題に取り組み、理工学に必要なものの見方、問題発見・解決方法を会得した人物を育成します。



02

世界トップレベルの設備を持つ 先端科学技術センター

文化・学術・研究の一大集積地である「関西文化学術研究都市」に位置し、学部棟だけでなく機械実習工場や各種実験棟など、最先端の高度な実験施設・設備を完備しています。京田辺校地の周囲には企業や研究者、学術研究施設が集まり、イノベーションを創造する拠点として、理想的な教育・研究環境を実現しています。世界トップレベルの先端科学技術センターも併設し、毎年、50%以上の学生が大学院に進学しています。



世界平和と社会貢献を実現し
科学技術の革新を創出する
専門知識を持つ人物を輩出



TOPICS /

ALL DOSHISHAと 産官学連携

身体・生命、先端技術、情報を中心とする本学部では、実験や実習に重点を置き、生命医科学部ならびにスポーツ健康科学部との教育・研究の連携も積極的に図っています。また、理工系関連企業や研究機関、地方自治体などの学外の機関とも連携し、激変する技術革新に対応する人物の育成に力を注ぎます。

国際交流プログラムで 多様な価値観を育てる

理工学部生しか受講できない科目「Academic English for Science1～4」の授業は外国人講師らを中心としてすべて英語で実施され、レポートの執筆もすべて英語です。「語学レッスン」は、理工学研究科国際科学技術コース(ISTC)の外国人留学生から母国語のレッスンを受けられる制度で、希望留学先の言語が学べます。

03

豊かな未来社会を実現するため 「少人数教育」で学ぶ

ハードウェア、人工知能、高度な情報処理技術、電力、電子回路、資源・エネルギーの有効活用、数値シミュレーション……。変化する科学技術を柔軟に学べる10学科には、専門科目や自然科学系・人文科学系などの幅広い科目が用意され、個性を尊重した多角的な視野を養う力を伸ばします。「基礎学力」を重視し、学生一人ひとりの能力を大切にしながら、ものづくりの興味を育てて社会で活かすことができる人物育成のために、少人数教育を徹底しています。

04

世界的視野で 専門分野を学ぶ ダブルディグリー制度

学部間協定により、世界トップレベルの大学で専門分野を学べます。視野を広げる「短期留学」や専門知識を磨く「長期留学」だけでなく、所定の条件を満たしてプログラムを修了すると、本学と派遣校双方の大学から修士学位または博士学位を同時に取得できるダブルディグリー制度も充実。学費免除や奨学金など、留学への手厚いサポートも。優れた研究者を目指して自らの専門分野を深く探究でき、国際化を見据えた学びは今後のキャリア形成に役立ちます。



大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



生命医科学部

faculty of
Life and
medical
sciences

工学と医学の融合から 新たな価値を創造する

現代の先進医療を支え、次世代のより質の高い医療を開発するためには、メカトロニクスやエレクトロニクスなどのテクノロジーと分子生物学などのサイエンスの密接な連携が必要です。本学部では、「医工学科」「医情報学科」「医生命システム学科」の3学科を設置し、実践力を培うカリキュラムによって工学と医学の融合分野における先端科学領域で活躍するエンジニアや研究者の育成を目指しています。

学部の特色

医工学科

機械工学と医学の2つの専門分野を修得することで、高度な専門性を有し、社会のニーズに応える人物を育てることを目指しています。近年、工学分野のみならず、多様な分野において“ヒット”の特性を理解した上で製品開発を行う必要性が高まっており、医工学領域の知識を有する人材が求められています。医工学科では、先端研究を通して、医学と工学の融合的な見地から“医工学”の可能性を探究し、最先端の「ものづくり」分野において社会に貢献できる技術者・研究者を世に送り出しています。

医情報学科

医情報学科は、情報工学・電子工学・科学の幅広い分野を学べる学科です。リベラルアーツと自然科学基礎から、AIやIoTなどの情報処理、音響や画像のような技術を医療や生物に応用する生命・生物工学の先端技術を、講義や演習、実験を通して身につけることができます。卒業研究では、生体情報工学、脳科学や動物行動学にまで踏み込み、自発的に問題発見・解決を行い、それを伝えることのできる創造力を身に付けて、企業や研究所等において活躍する人材を養成します。

医生命システム学科

医生命システム学科は、ヒトをひとつの生命システムと捉え、それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構、さらにはその治療・予防について、生命科学、薬学、基礎医学、臨床医学に関する講義、ならびにこれらと密接に関連した実験実習をとらして、体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて、生命科学、基礎医学、健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とします。



03 医生命システム学科

医療に貢献する人物養成

ヒトは病気になりやすい半面、驚くべき回復力を秘めています。医生命システム学科では、こうしたヒトが持つ高度な機能を、医学・生命科学領域のあらゆる角度から探究し、病気の原因解明や治療、予防法、そして健康増進を目指した研究を進めていきます。これらの学びを通じて、ヒトの健康を基礎医学から支える人物の育成を目指しています。

多彩な教員とカリキュラム

医生命システム学科の教員には医師や薬剤師も多数在籍しており、分子生物学などの生命科学だけでなく、基礎医学や薬学分野といった専門科目、さらに問題解決能力の向上を目指した多くの実習など幅広いカリキュラムが用意されています。卒業研究では、新たな研究結果、発見が得られる興奮をじかに感じることができます。

高い就職と進学実績

医生命システム学科の卒業生は、医薬品をはじめ、食品、化粧品などの企業において、医学と生命科学の幅広く高度な知識、研究力を持った専門家として活躍しています。また、大学院へ進学し、より高度な研究に挑む学生も多くいます。医生命システム学科をより詳しく知りたい方は、ぜひ学科webサイトにアクセスしてみてください。

04 研究トピック

高齢者の歩行や動作をロボットでサポートする、超音波診断装置やMRIなど体内を可視化する技術を用いて生態情報を詳細に得る、タンパク質を創薬標的にしてアルツハイマー病予防に挑戦するなど、生命科学部では最先端の研究を数多く進めています。医学・生命科学のみならず、工学・情報・化学などを含めた幅広い多角的な学びにより、工学と医学の融合から新たな価値を創造します。

大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



「工学」と「医学」の融合で 人体の秘密を解き明かし 人類社会への新たな価値を生み出す



TOPICS /

医科大学・医療機関との 連携による研究・教育体制

京都大学、京都府立医科大学との研究交流に関する協定だけでなく、国立研究機関やソルボンヌ大学、ウィーン工科大学、チェコ工科大学ほか世界有数の大学と連携。生命科学・医学分野における研究環境の充実に取り組んでいます。また、科学と社会の架け橋になるヒトを育てる「サイエンスコミュニケーター養成副専攻」を開設しています。

高い就職実績を誇り 大学院への進学も多い

医療機器メーカーだけでなく、医薬品・化粧品メーカーや電気・電子系の企業、情報・通信系の企業など、日本のトップメーカーへの就職実績があります。卒業生の多くは、大学の演習や講義での学びを活かし、研究や開発など幅広い分野で活躍しています。より高度な学習や研究テーマに挑みたいと、大学院へ進学する学生が多いのも特徴です。生命科学部における教育・研究を通して、将来にわたり、社会に貢献できる高い能力が身につきます。

01 医工学科

専門性と実践力の涵養

講義、実験実習科目、卒業研究を通じて、機械工学と医学に関わる専門分野で活躍できる人材の育成を目指したカリキュラムを提供しています。学部卒業者の多くが進学する大学院までの一貫した教育により、高度な専門性や次世代の先端技術を生み出せる能力の養成に努めています。また、医工学科では、全ての講義・実験実習科目が基礎学力の向上とスキルの修得に向けて明確に位置付けられており、カリキュラムを通して実践力を養うことができます。

卓越した研究力と就職力

医工学科では、基礎研究だけに留まらず、社会や人の生活に貢献できる研究に主眼を置いています。先端研究を通して専門性を深化させるだけでなく、学会参加や、大学・企業との共同研究を通じて、就職後においても即戦力として活躍できる能力が身につきます。

医工学科の研究力は、科学研究費補助事業(科研費)の採択実績からも裏付けられています。採択率は学部内でも常に高い採択率を維持しているだけでなく、大学内においてもトップクラスとなっており、先端研究に携わった卒業生は、技術者・研究者として、社会から非常に高い評価を受けて活躍しています。

また、数々の日本トップメーカーへの就職事例があり、大学で習得する能力と、就職後に必要となる能力をシームレスに繋げる、高い「研究力」と「就職力」を特色とする学科となっています。

02 医情報学科

ヒトや生物の情報に関する 知識と技術を幅広く学ぶ

ヒトや生物の情報に関する知識や技術を広く身につけることができるのが、医情報学科です。卒業論文製作時には、下記の研究室に所属して、幅広い分野で最先端の研究を行います。

- ヒューマンインフォマティクス研究室：情報工学
- 超音波エレクトロニクス・生体計測研究室：生命工学・医用電子工学
- 脳神経行動工学研究室：神経行動学・生物音響工学
- 生体情報研究室：有機化学・分析化学
- 生命物理学研究室：物理学
- 数理統計科学研究室：統計学

AI・データサイエンスの先を行く

医情報学科では、AI・データサイエンスの知識と技術をヒトの理解とウエルビーイングのために使えるエンジニアを育みます。

スポーツ 健康科学部



faculty
of
health
and
sports
science

「スポーツ」と「健康」の エキスパートを育成し、 多角的な視野で専門スキルを学ぶ

生活スタイルの変化により、多くの人が健康の重要性を認識している現代社会において、スポーツ・運動は「健康増進・生活充実・老化防止」と密接に関わっています。スポーツ健康科学部では、「スポーツ」と「健康」、「QOLの向上」を視野に入れながら、それを取り巻く社会環境に関連する知見や理論などを学修し、社会の中のスポーツ・健康分野において幅広く貢献できる人材を養成します。



スポーツ
健康科学部
オリジナル
パンフレット

01

3つの学問領域を 横断的かつ複合的に学習する

身体の構造・機能を基礎にした健康・体力維持・増進を学び、スポーツ・運動を通じた健康づくりの意義を学ぶ「健康科学領域」、競技力向上のためのトレーニング法や生涯スポーツにつながる運動習慣の獲得方法を学修する「トレーニング科学領域」、スポーツを取り巻く社会環境の整備・充実やスポーツビジネスについて学ぶ「スポーツ・マネジメント領域」の3つを多角的に考察します。人間の健康増進とスポーツの発展に向けた分野を体系的に履修できます。



02

少人数での指導体制と 各年次の特色ある学びが 専門家の第一歩を支える

1年次に必修科目として少人数制のファースト・イヤーズ・セミナーを設置し、専門分野の教員から、きめ細やかな指導が受けられます。2年次は約20人のグループに分かれ、異なったテーマでの実験実習を毎週実施します。トレーニング法やテーピングなどの実践に加え、自然・社会科学の実験・分析手法が身につきます。3年次は各ゼミにおいて専門領域の学びを深め、研究テーマを確立。研究技法の能力を身につけて、4年次には大学での学びの集大成として卒業論文を完成させます。



健康とスポーツに貢献する人材を育む
多
方
面
か
ら
科
学
的
に
ア
プ
ロ
ー
チ
し
Q
O
L
の
向
上
と
健
康
や
予
防
医
学
に
対
し
て



TOPICS /

世界のスポーツ事情に触れ 幅広い知見が身につく

「スポーツ健康科学特殊講義S」を設置し、1週間程度の海外生活を通じて現地のスポーツ事情に触れ、国内では得ることのできない幅広い知見を身につけます。本学教員が引率するので、安心して参加できます。また、ドイツやスペインほか、海外の大学と学部間協定を結んでおり、長期も含めた多様な留学機会もあります。

文理融合かつ多角的に 「スポーツ」を追究する

競技力を高めるために、人体のしくみなどの生理学や遺伝子に関する分子生物学を学んだり、速く走るために動作解析をしたりしてトレーニング法を構築するなど、物理的・科学的な検証はもちろんのこと、日本のスポーツを今後世界に普及させていくための政策やビジネスを模索する社会学も学べます。理論と実践の両面が学べる文理融合も学部の特徴です。

03

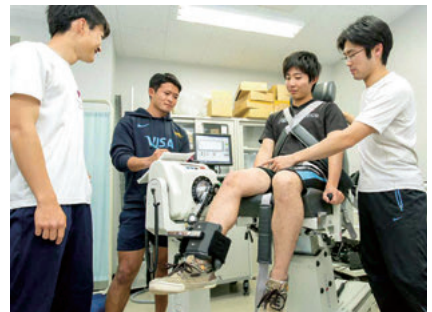
総合大学のメリットを生かし 他学部の専門科目を共通化 充実した学習環境に

本学部の科目に加えて、生命医科学部や心理学部など専門科目の一部を共通化しています。医学・健康科学関連項目の強化だけでなく、さらに他学部の関連科目も選択できるなど、学習環境が充実しています。遺伝子を解析し、それが人の健康やスポーツにどう関わっていくのか……「ミクロからマクロまで」を考えられるのが本学部の特徴です。他学部の科目も含め、横断的にスポーツを学ぶことができ、学生同士でもいい刺激になっています。

04

最先端のキャンパスで学び 将来の就職にも役立つ さまざまな資格が取得可能

スポーツ栄養・生化学や、スポーツ心理学、バイオメカニクス、運動負荷試験、統計調査実施法など、全員が受講する「基礎実習」をより深化し充実させるため、教育研究棟には最先端の実験設備や機器が設置されています。また、教員免許状(中学校および高等学校の一種免許状の保健体育)のほか、特定のカリキュラムを習得すれば健康運動指導士の試験受験資格や日本スポーツ協会公認スポーツ指導者受験資格を取得できるのも、本学部の魅力のひとつです。



大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



心理学部

faculty
of
psychology

社会の根底にある 心の本質を解き明かす 「社会を見つめる眼」を 修得する

心理学は人の心を科学する学問です。90年以上にわたり続けてきた同志社大学の心理学研究の伝統は「基礎研究を行う者は常に臨床・応用に眼を向け、臨床・応用の分野で実践を行う者は常に基礎研究に眼を向ける」というもの。この学部では心の基礎メカニズムとその応用となる臨床心理の両方をバランスよく修得することを目指します。



01

伝統の少人数教育で きめ細やかな指導を実現

1年次のファーストイヤーセミナーから4年次の演習(ゼミ科目)まで、全学年で少人数科目を設置しています。そのため学生と教職員の距離が自然と近くなり、きめ細やかな指導を実現しているほか、学生同士もしっかりと向き合っ
て学ぶ機会が設けられています。これにより、高いコミュニケーション能力に加え、共に問題の解決を目指す協働性が養われます。



02

実験・実習を中心とした カリキュラム

実験・実習施設には最新機器が設置されており、体系的な専門知識の教育や、統計解析ソフトの訓練などを通じて、目的に合わせた実験・調査の専門スキルを身につけ、研究を進めていきます。また、心理学の現場を肌で知るため、学外での研修やボランティア活動も積極的に取り入れています。これらの実践的、体験的学習を通じて、人の心に寄り添いつつ、社会の問題を解決していく総合的な人間力を育てていきます。



現代社会のあらゆる課題に対応するため
基礎研究力と応用力を兼ね備えた
人の心と行動に迫る人物を育成する



TOPICS /

学部の垣根を越えた 総合的な学び

生命医科学部・研究科やスポーツ健康科学部・研究科、文化情報学部・研究科、グローバル・コミュニケーション学部、理工学部・研究科といった京田辺校地にある学部群と連携して総合的な学びが可能になりました。ほか、産業界や教育・医療機関などと連携した実践的な教育・研究を進めていきます。

社会問題と向き合う

「こころの科学研究センター」

「こころの科学研究センター」では、いじめや体罰などの教育現場での問題や、働く女性の子育ての難しさの問題、心の病や発達障害を抱える人々の問題など、心理学が中心となる研究領域について、脳科学、行動科学的な基礎研究を行い、子どもの発達支援、教育支援、高齢者支援を視野に入れた実践的研究への展開を目指します。

03

心理職初の国家資格 「公認心理師」ほか 資格取得サポートも充実

公認心理師とは、保健医療、福祉、教育などの分野において心理学に関する専門的知識や技術をもって、支援を必要とする人の心理状態を観察・分析し、相談・指導したり、その関係者に助言をしたりする専門職です。2017年に施行された公認心理師法に基づき、同志社大学心理学部、および同大学院心理学研究科では、受験資格を得られる教育体制を構築しています。ほか、心理学を専門とする民間資格などについても、学生の多様な要望に対応できる環境を整えています。

04

自由に履修できる 3つの専門コース

学生の視野を広げるため、心と行動の神経・生理的な基盤と行動そのもののメカニズムを学習する「神経・行動心理学コース」、心の問題の解決を目指す「臨床・社会心理学コース」、生涯発達の視点から心の発達と教育に関するメカニズムとその支援の専門知識を学ぶ「発達・教育心理学コース」の3つを設置しています。卒業までにすべてのコースから3科目以上履修することが求められ、1つのコースから6科目以上履修するとコース修了認定が受けられます。



大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



グローバル・ コミュニケーション 学部

faculty of
global
communications

実践的な外国語運用能力と
グローバル社会に関する
広範囲の知識を身につけた
真の世界人を育成する

同志社大学は創立以来「国際主義」を教育理念に掲げてきました。グローバル・コミュニケーション学部は、その伝統を発展させ、現代のグローバル社会に対応する人物の育成を目指します。本学部には英語コース、中国語コース、留学生を対象にした日本語コースの3つのコースがあり、実践的な外国語運用方法に加え、言語の背景となる文化・社会についても深く学びます。



グローバル・
コミュニケーション
学部
オリジナル
パンフレット

01

徹底した少人数教育で 学生たちの成長をサポート

本学部が育成する人物は単に外国語を流暢に話す人ではなく、幅広い教養と洞察力を持ち、互いを結び、心を通わせることのできる人です。少人数クラスを編成し、教員のきめ細やかな指導で、社会の人と人をつなぐ【facilitator】、人と交渉する【negotiator】、人をまとめる【administrator】として社会で活躍するための思考力や国際感覚を磨いていきます。



理論と実践を
バランスよく
学び
グローバル社会の
担い手となる
人物を社会に
送り出す

03

教養と実践の バランスがとれた カリキュラムを採用

コミュニケーションは、理論だけを学んでも実践が伴わなければ意味がなく、その逆もまたしかりです。教養としては、コミュニケーションを言語、社会、文化のそれぞれの側面から考察する学際的な講義のほか、関心のあるテーマを深く掘り下げる演習があります。実践としては、外国語のスキル系科目に加え、4年間の学びの集大成として、3つのコースの学生が互いに協力して文化交流や国際問題に関するプロジェクトに取り組むSeminar Projectがあります。

02

英語・中国語コースで 必修となる Study Abroad

言葉の力を磨き、異なる文化への理解を深めるため、英語・中国語コースではStudy Abroad(留学)が必修となっています。英語コースでは2年次にアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドにある15校の提携大学のいずれかで学びます。所定の英語レベルをクリアすれば、その大学の正課科目を受講することも可能です。中国語コースでは2年次の秋学期から3年次の春学期にかけて、中国と台湾にある4校の提携大学のいずれかで1年間の留学を行います。



互いの文化の壁を越える タンデム・パートナー制度

英語・中国語コースの学生と日本語コースの留学生がペアになり、互いの母語や得意な言語で相手の外国語学習をサポートする制度です。英語・中国語・日本語のほか、留学生の母語であるコリア語やベトナム語を勉強するペアもあり、海外からの留学生が約2割を占める本学部ならではの制度です。

専門分野以外の ボーダレスな学びを提供

英語・中国語コースの学生は、他コースの講義系選択科目から6単位まで、日本語コースの学生は英語・中国語コースの講義系選択科目からそれぞれ6単位、合計12単位まで、卒業単位として算入できます。コースの枠を越えて他コースの講義科目を履修することで、専門分野を越えた広い視野と教養を養っていきます。また、日本語コースの伝統文化や現代社会の演習・ワークショップ系科目の一部は、英語・中国語コースの学生も聴講が可能です。

04

キーワードは 「分かち合い」 「学びの共同体」の構築

コミュニケーションの語源はラテン語のcommunicareで、「分かち合う」という意味です。この学部の魅力はカリキュラムだけではなく、異なる背景を持つ学生たちが互いに刺激を与え合い、高め合っていく「学びの共同体」としての環境が、正課科目・課外活動を問わず整っていることです。世界の分断が広がる現在、人と人をつなぎ、共に分かち合うことのできるコミュニケーション能力がより一層必要とされています。



大学案内
WEBサイト



学部オリジナル
サイト



国際教育 インスティテュート

The Institute for the Liberal Arts (ILA)

真の
グローバル
スタンダードへ



幅広い学際的教養を育み、国際社会に貢献できる コミュニケーション能力を培う同志社大学独自のプログラム

同志社大学は教育理念として、「キリスト教主義」「自由主義」と並び「国際主義」を掲げています。「国際教育インスティテュート(ILA)」は、2011年に開設された「国際主義」をより深化させた同志社大学オリジナルの教育課程です。授業はすべて英語で行い、国際的に活躍するために必要な幅広い学際的教養、および国際的コミュニケーション能力を身につけた人物の育成を目指します。

「国際教養コース」は外国人留学生や帰国子女の日本人学生が主な対象で、ILAが独自の入試を実施し

て、入学者を選抜します。これまで45以上の国・地域の学生が入学し、学位(学士)を取得しています。

履修分野は「日本の社会・文化 (Japanese Society and Global Culture)」「日本の経済・ビジネス (Japanese Business and the Global Economy)」「日本の法・政策と国際協力 (Japanese Politics and Global Studies)」の3つからひとつ選択しますが、他分野の科目も選択可能で、自分の興味に合わせて幅広い分野を学ぶリベラルアーツ教育を実施します。

「国際専修コース」は同志社大学

の学部にも所属している学生がILA科目を履修し、ともに授業を受けるもの。日本にいながら、多様なバックグラウンドを持つ学生たちとの学びを通じてグローバルな感覚を身につけることが可能です。

授業は少人数のディスカッション形式が中心で、教員と学生がパートナーシップを築き、一緒に知識を深めていきます。ディスカッションを円滑に行うためには、事前に課題を調べ、自分の意見を持つことが大切になります。この授業を通じて、自ら疑問を設定できるクリティカル・リテラシーを育てていきます。



国際教養コース [学士課程のリベラルアーツプログラム]



ILAオリジナル
サイト



ILAオリジナル
パンフレット

The Liberal Arts program

point
1

外国人留学生・帰国子女の
日本人学生が主な対象
(国内高校卒業者もOK)

point
2

ILAが独自の
入試を実施
(入学時期は4月・9月)

point
3

ILA科目のみで
学位[学士(国際教養)]を
取得

国際教養コース在籍者の国籍等



特色

ILAのカリキュラムに基づいて、英語で行われる授業を4年間履修することで学士(国際教養)を取得することができます。専門教育ではなくオールラウンドな高等教育を目指しているため、特定の分野に偏るのではなく、さまざまな分野に関心を抱かせるシステムです。

所属(学部・学科)は、出願時の希望と入学試験により、合格時に大学が指定しますが、カリキュラムや学位の種類は所属にかかわらず共通です。

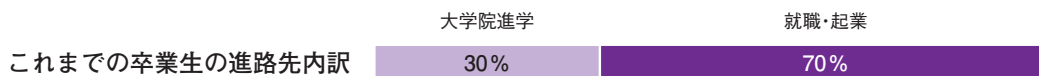
カリキュラム

重点的に履修する分野を分かりやすくするため、所属と関連づけて「Japanese Society and Global Culture」「Japanese Business and the Global Economy」「Japanese Politics and Global Studies」の3つのコンセントレーション(分野)を設定していますが、複数のコンセントレーションの科目も学ぶことができます。

Japanese Society and
Global Culture Concentration
文学部・社会学部

Japanese Business and
the Global Economy Concentration
経済学部・商学部

Japanese Politics and
Global Studies Concentration
法学部・政策学部



国際専修コース [異文化交流で相互理解を深めよう!]

The international specialization program

文学部 / 社会学部 / 法学部 / 経済学部 / 商学部 / 政策学部

point
1

学部ごとに選考された
日本人学生を対象

point
2

世界各国の留学生と
ともに学べる

特色

所属学部のカリキュラムに基づき、学部科目に加えてILA科目も履修することができます。

対象者の選考方法は学部により異なりますので、詳細は志望学部へお問い合わせください。

4 Years

同志社大学での学び

CAMPUS LIFE

※各イベントは新型コロナウイルス感染拡大の状況により実施方法の変更、および中止の可能性があります。
※本特集は4年間のモデルケースです。それぞれの制度やイベントの詳細は各サイトなどを確認してください。



オープンキャンパス

オープンキャンパスは入試や大学での学びについて知ることができる機会です。実際にキャンパス内を歩き、大学での4年を想像してみてください。



学部入試
情報サイト

FIRST-YEAR

入学・イベント参加



入学式



オリエン
テーション

4月 入学式／オリエンテーション

新入学生履修指導期間は多くのサークルの先輩たちが勧誘のために集まり、華やかな雰囲気です。「オリエンテーション実行委員会」などの先輩が大学生活のスタートをサポートしてくれます。



入学式後、いよいよ大学生活がスタートします

5月 同立戦

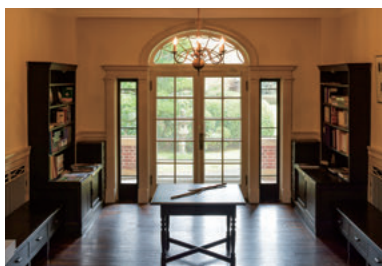
同立戦とは同志社大学と立命館大学の運動部などによる対戦のことです。その歴史は1930年の硬式野球部の対戦まで遡ります。春季(5月)と秋季(10月)の対戦前には前夜祭が行われるなど、「伝統の一戦」は大いに盛り上がります。



硬式野球部による「同立戦」の様子



課外活動
情報



「良心教育」の伝統は、現在も同志社大学に受け継がれています

Doshisha Spirit Week

毎年、春・秋学期開催のDoshisha Spirit Weekは、「同志社を学び、知る」イベントです。チャペル・アワー(礼拝)のほか、建学の精神や創立者新島襄についての講演、同志社大学応援団の演舞、キャンパスめぐりなど、さまざまな企画をとおして、母校と創立者への理解を深め、同志社人としてのアイデンティティを高める期間となっています。



7月

期末試験

同志社大学は春学期と秋学期の2学期制です。春学期の期末試験は通常は7月末から。今出川・京田辺の両校地とも、試験前は図書館が通常より賑わいます。試験後は9月上旬まで夏期休暇に入ります。



今出川図書館には、創立時から収集されてきた蔵書約70万冊がそろう



京田辺キャンパスのラーネット記念図書館

8月

クラブ・サークル合宿

同志社大学では約300のクラブ・サークルが活動しており、この時期に合宿を行う団体も多数あります。高校時代とは異なる学生による自主的な活動は、社会に出るための大切な経験となるはずです。

9月

秋学期開始

夏の暑さが徐々に和らぐころに秋学期が始まります。大学生活にも慣れてきたころですので、改めて自身の今後の「学び」など、将来へ向けての準備について考えてみましょう。スポーツフェスティバルや大学祭など、イベントも多く、あっという間に日々が過ぎていきます。

11月

同志社クローバー祭／同志社EVE

京田辺校地では、学生、教職員、京田辺市民の交流の場として同志社クローバー祭(10月下旬または11月上旬)が開催されます。今出川校地では同志社大学の創立記念日(11月29日)を祝し、同志社EVEが開催されます。いずれもテント出店、教室出店、ステージでのパフォーマンスなど、見所が盛りだくさんです。



今出川校地で行われた同志社EVEの様子



奨学金情報



奨学金

松岡和奏さん

政策学部で金融政策やマーケティングを学び、給付型の育英奨学金をいただきました。学外の活動に積極的に参加し、二つのビジネスコンテストで受賞した成果が認められて、励みになりました。コンテスト参加のための交通費がかかり、アルバイトもできなかったため、奨学金が学費等の経済的負担を軽減してくれることになり、両親もとても喜んでくれました。



倉澤菜美恵さん

弁護士になりたいと、法学部の法律学科で学んでいました。3年間での早期卒業制度を利用してロースクールに進学しましたが、大学在学中は、成績優秀者に贈られる育英奨学金をいただきました。家から2時間かけて通学していたのですが、奨学金を一人暮らしの初期費用にあてることができ、勉強の時間をしっかり確保できました。この経験を糧に、司法試験合格を目指します。



SECOND-YEAR 2

プログラム参加・世界を広げる

早稲田大学との
学生交流ほか多
様な制度を用意
しています



他大学との連携

4月

新島塾入塾

新島塾とは2019年から始まった同志社大学独自のリーダー養成教育プログラムで、選考を経て2年次生から1.5年間プログラムに参加します。学部垣根を超えた対話・討論を通じて、複合的視点で考察するなどリーダーに必要な素養を身に付けます。



新島塾



新島塾夏期プログラムの様子

7月

祇園祭

祇園祭は平安時代の869年、多数の死者を出した疫病の退散を祈って66本の矛を神泉苑に立て、神輿を担いで参集したのが起源といわれています。古都・京都には、長い歴史を感じさせる行事、神社仏閣がいまも残り、「学び」の対象にもなっています。



日本三大祭のひとつにも数えられる祇園祭。山鉾巡行は1カ月にわたって行われる祭のメインイベント





8月

継志寮夏祭り／ 五山送り火

小学生や地域の方々を対象にした夏祭りを継志寮で開催します。また、お盆のころに行われる五山送り火は、京都の夏の風物詩となっています。



「左大文字」の送り火は今出川校地の建物から見えることも

多彩な 海外留学制度

国際主義を教育理念の一つとして掲げる同志社大学は、留学や国際交流を重視しています。海外協定大学への派遣留学生制度(6カ月～1年間)のほか、ドイツの同志社大学チュービンゲンEUキャンパスで学ぶEUキャンバスプログラム(約5カ月)など、短期(約1カ月)から長期まで多様なプログラムを用意しています。



留学制度
紹介



EUキャンバス
プログラム



留学

太田侑里さん

EUキャンバスプログラムには2年次のときに参加しましたが、新型コロナウイルスの影響で開始直後に緊急帰国となりました。そのリベンジも兼ねて4年次に再度参加しました！このプログラムに参加した理由は、移民の多いドイツで様々な価値観に触れてみたかったことに加え、大学の手厚いサポートがあったからです。留学中は学業や自分のしたいことにも集中でき、現地のサークルに参加したり、一人旅に出たりする学生もいました。また、ドイツ語の授業は各レベルに合わせて行われるので、それぞれの語学力に適した環境で伸ばすことのできる最高のプログラムです！



ピアサポーター

ピアサポーター

関谷 翼さん

外国人との交流に関心がある人は、留学生の日本語学習などをお手伝いする「ピアサポーター」としての活動がおすすめです。最初に自分の言語レベルに合わせたマッチングをしてくれて、僕はこれまでに、台湾とドイツ、中国の3人の留学生を担当しました。対面やオンラインで週1回程度会話をし、留学生の力になることもできるし、視野を広げることでもできて、自分自身の成長にもつながります。



11月～12月

クリスマス・ イルミネーション点灯式／ 京田辺アドベント礼拝

京都の冬の風物詩として広く親しまれているクリスマスツリー点灯式は、毎年両校地で行われ、多くの人が集います。2019年度まで開催された「同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝」に代わり、2023年度より新たに「京田辺アドベント礼拝」が行われます。地域の方々と学生、教職員がともに作り上げる大切な行事として揺るぎないものとなっていくことが期待されます。



京田辺キャンバス
ツリー点灯式



今出川キャンバス
ツリー点灯式



THIRD-YEAR 3

進路選択・力をつける

8月

インターンシッププログラム

3年次生から就職活動への準備も本格化していきます。同志社大学では、1～2年次生向けのキャリア体感プログラムや3年次生向けの同志社限定インターンシップ・仕事研究プログラムのほか、正課科目として企業と連携した「キャリア形成とインターンシップ」などを設置。就職活動に活かせる教育プログラムが充実しています。

函館キャンプ

「創立者・新島襄の生き方を学び、同志社を見つめ、人と人との出会いや触れ合いの中、自分自身を振り返ろう」との趣旨で、例年、新島が幕府の禁を犯して、米国へと向かった地である函館でプログラムを開催しています。※申し込みにあたり、学部・学年等の制限はありません。



学部・学年を超えて多くの人と出会う機会となっています

10月

資格サポート



免許資格課程センター

裁判官、検察官、弁護士、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの資格取得をめざす学生のために、課外講座を開講しています。また、教職免許の資格取得をめざす学生のために、両校地に教員養成サポート室を設けています。教員採用試験対策講座、集団面接練習会、模擬授業練習会のほか、個別指導も実施しています。

※教職、博物館学芸員、図書館司書、学校図書館司書教諭、学校司書の資格サポートは免許資格課程センターまで。教職免許等の資格取得は1年次生から計画的に履修することをおすすめします。



ホームカミングデー

11月

ホームカミングデー

ホームカミングデーは、卒業生に友人や教職員との旧交を温めてもらうほか、同志社大学の「いま」を知ってもらう日で、毎年11月に開催されます。在学生による催しもあり、多くの卒業生が今出川キャンパスを訪れます。



当日は多数の卒業生が集まり、旧交を温めます

1月

プロジェクト科目成果報告会

プロジェクト科目とは、実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースドラーニング(PBL)を基本とする授業科目。報告会では学生が、1年間かけて取り組んだプロジェクトの成果を発表します。

3月

就職活動

3年次生の後期から本格化した就職活動もあと少しでゴールです。キャリアセンターでは、企業情報提供のほか、自分のキャリアについてなど就職に関する疑問、困りごとなどをサポートする体制が整っています。

就職関連プログラムも豊富にそろっています



キャリアセンター



FOURTH - YEAR 4

就職・大学院進学

5月

教育実習

教職免許の取得を目指す学生の多くは、4年次生の5~6月に2~3週間の教育実習を行います。自身の母校で実習を行うのが一般的です。

大学院進学

坂本健太さん



文化情報学部で、医療や生物など多岐にわたる分野の垣根を超え、統計学やデータを使って知見を獲得するプロセスを学んでいます。もう少し深く研究して、身につけた知見を社会に還元したいと思い、大学院進学を決めました。大学院への進学を迷ったときは、ぜひ先生を頼ってみてください。学生からの質問には丁寧に回答してくださる先生ばかりなので、一緒に考えてもらえると思います。

11月

同志社大学 外国語honors

外国語honors制度(外国語科目成績優秀者表彰制度)は、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、受賞者には学長表彰と成績証明書への記載を行います。ほかにグローバルに活躍できる人材育成のため「グローバル・リベラルアーツ副専攻」も用意しています。



同志社大学
外国語honors

12月

1月

卒業論文

学部、ゼミによって異なりますが、4年次生の12月~1月が卒業論文の提出期限です。論文作成は、4年間の学びの集大成となります。

2月

同志社大学 育英賞表彰式

同志社大学育英賞は、勉学意欲旺盛で、学術、文化・芸術、スポーツ、社会活動において優れた成果をあげ、かつ学業、人物ともに優秀な学部学生を表彰し、奨学金を給付するものです。毎年約100人の学生が受賞しています。

3月

卒業式

4年間の大学生活はこの日が最終日です。学生それぞれが、新たな場所へと旅立っていきます。



留学・国際交流

スマートフォンから海外留学制度紹介動画を視聴できます。



海外留学プログラム

同志社大学では、幕末の鎖国が続く最中に海を渡った創立者・新島襄の精神が今も生きています。留学や国際交流を重視し、できるだけ多くの学生が参加できるように、学生の目標やレベルに合わせ、多彩なプログラムを実施。奨学金などの支援体制も充実しています。

| | | | | |
|-------------|---|--|------------------|--|
| 派遣可能 大学数 | 37 <small>カ国・地域</small> 176 <small>大学</small> (2023年3月31日現在) | 2019年度中に同志社大学の 留学プログラムにより留学した学生数 ※留学を卒業の要件として定めている学部も含む 約1,300名 | 同志社大学で学ぶ 留学生数 | 71 <small>カ国・地域</small> 約1,144名 (2022年5月1日現在) |
|-------------|---|--|------------------|--|

※2021年度から段階的に留学を再開しています。

[短期] サマープログラム・スプリングプログラム 長期休暇中に、集中的に語学を学びます。

長期休暇を利用して海外で語学研修を行うプログラムです。本学での事前授業と留学先での研修によって集中的に外国語運用能力を高めるとともに、研修先の国の文化・社会への理解を深め、国際的な視野を養います。

| サマープログラム | | | スプリングプログラム | | | | |
|----------|---|------|------------|----------------------|--|-----------|-----------|
| | 研修校・研修地 | 募集人数 | 研修期間 | | 研修校・研修地 | 募集人数 | 研修期間 |
| 英 語 | コーク・カレッジ大学[アイルランド] | 約15名 | 8月初旬～9月初旬 | 英 語 初 修 | カリフォルニア大学アーバイン校[アメリカ] | 約25名 | 2月中旬～3月中旬 |
| | アリゾナ大学[アメリカ] | 約20名 | 8月中旬～9月初旬 | | ヨーク大学[イギリス] | 約24名 | 2月中旬～3月下旬 |
| | カリフォルニア大学 サンディエゴ校[アメリカ] | 約20名 | 8月下旬～9月中旬 | | ホーソン・メルボルン英語学校[オーストラリア] | 約25名 | 2月下旬～3月下旬 |
| | カリフォルニア大学 デービス校[アメリカ] | 約25名 | 8月初旬～9月初旬 | | セント・メアリーズ大学[カナダ] | 約30名 | 2月下旬～3月中旬 |
| | ケンブリッジ大学[イギリス] | 約40名 | 8月初旬～8月下旬 | | セブ医科大学提携 Campus Language Center[フィリピン] | 約30名 | 2月下旬～3月初旬 |
| | ヨーク大学[イギリス] | 約24名 | 8月初旬～9月初旬 | | オークランド大学[ニュージーランド] | 約20名 | 2月下旬～3月中旬 |
| | ディーキン大学[オーストラリア] | 約20名 | 8月初旬～9月中旬 | | オタゴ大学[ニュージーランド] | 約25名 | 2月中旬～3月下旬 |
| | ゲルフ大学[カナダ] | 約40名 | 8月初旬～9月初旬 | | フライブルク大学[ドイツ] | 約16名 | 3月初旬～3月下旬 |
| | トンブソン・リバース大学[カナダ] | 約30名 | 8月中旬～9月中旬 | | CAVILAM-Alliance Française (クレルモン・フェラン大学監修)[フランス] | 約20名 | 2月中旬～3月下旬 |
| | セブ医科大学提携 Campus Language Center[フィリピン] | 約30名 | 8月初旬～8月下旬 | | 華東師範大学[中国] | 約20名 | 2月下旬～3月中旬 |
| 初 修 | マルティン・ルター大学[ドイツ] | 約20名 | 8月初旬～9月初旬 | サラマンカ大学[スペイン] | 約20名 | 2月下旬～3月中旬 | |
| | フランシュ=コンテ大学[フランス] | 約20名 | 8月初旬～9月初旬 | 慶熙大学[韓国] | 約20名 | 3月初旬～3月下旬 | |
| | 北京大学[中国] | 約20名 | 8月初旬～8月下旬 | | | | |
| | ラス・アメリカス大学[メキシコ] | 約20名 | 8月初旬～9月初旬 | | | | |
| | ロシア国立サンクトペテルブルク 経済大学[ロシア] | 約20名 | 8月中旬～9月初旬 | | | | |
| | 延世大学[韓国] | 約20名 | 8月下旬～9月中旬 | | | | |

※「初修」は英語以外の外国語によるプログラムとなります。

[中期] セメスタープログラム(英語) 約4カ月間の滞在で、じっくり英語を学びます。

秋学期1セメスターのうち約4カ月間、海外で英語研修を行う留学プログラムです。春学期の事前授業で、研修先の国・地域の文化・社会や歴史への理解を深め、秋学期に外国語教育に定評のある海外の教育機関で集中的に英語研修を受け、英語の運用能力を高めます。じっくり英語を学びたい方、長期留学を目指す方に人気のあるプログラムです。

| セメスタープログラム(英語) | | |
|------------------|------|------------|
| 研修校・研修地 | 募集人数 | 研修期間 |
| ウィニペグ大学[カナダ] | 約30名 | 9月初旬～12月下旬 |
| ディーキン大学[オーストラリア] | 約30名 | 8月中旬～12月中旬 |
| ハワイ大学マノア校[アメリカ] | 約30名 | 8月下旬～12月下旬 |

[中期] EUキャンパスプログラム 約5カ月間、ドイツの同志社大学テュービンゲンEUキャンパスで学びます。

ドイツのテュービンゲン大学内に設置した「同志社大学テュービンゲンEUキャンパス」で開講する教育プログラムです。

春学期には、ドイツ語の運用能力向上を主目的とした「ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム」、秋学期には、英語または日本語でドイツやヨーロッパへの学びを深める「ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム」を開講しています。

| プログラム | 募集人数 | 研修期間 |
|------------------------------|------|-----------|
| ドイツ語・異文化理解 EUキャンパスプログラム | 約15名 | 3月初旬～8月初旬 |
| ヨーロッパ・スタディーズ EUキャンパスプログラム | 約15名 | 9月初旬～1月下旬 |

留学を支えるさまざまなサポート

奨学金制度

本学では「同志社大学外国派遣留学促進のための奨学金」を設けています。短期・中期の留学プログラムや長期の派遣留学により留学する学生が対象です。この奨学金制度によって留学費用の負担を減らし留学への道を開くサポートをしています。

語学力向上

本学では、正課科目以外にも、課外で各種語学試験の対策講座を開講しています。また、学内でTOEFL ITP® テストを年間7回実施している他、留学申請を目指して外部語学試験を受験した場合に受験料の半額を補助する等、学生の語学力向上を支援しています。

留学相談

留学に関する豊富な知識を持った留学コーディネーターをラーニング・コモンズ(今出川)または国際課(京田辺)に配置しています。留学にあたって、どこから取り組めば良いのか、費用や準備のことなど、あらゆる疑問・質問や不安に対して適切なアドバイスを行っています。

[長期] 外国協定大学派遣留学生制度 6カ月～1年間で異文化理解と交流を深めます。

同志社大学は、37カ国(地域)176大学(2023年3月31日現在)と学生交換協定を締結しています。外国協定大学派遣留学生制度はこれらの協定校に半年間または1年間留学するプログラムで、現在300名以上を海外の協定大学へ派遣することが可能です。所属学部にかかわらず出願でき、留学中も同志社大学に在学することになり、4年間で卒業することも可能です(留学先大学の授業料は原則として免除)。留学先では現地の学生と同様に専門科目を履修できます。

▶ 派遣留学先大学 (2023年3月31日現在)

| | | |
|---|---|--|
| アイルランド ・ダブリン・シティ大学人文社会科学部 | オーストラリア ・ウーロンゴン大学 ・チャールズ・ダーウィン大学 ・ニューイングランド大学 ・マードック大学 ・メルボルン大学 ・サンシャイン・コースト大学 ・シドニー大学 ・ディーキン大学 ・ニュー・サウス・ウェールズ大学 ・マククローリー大学 | チリ ・チリ・カトリカ大学 |
| アゼルバイジャン ・ハザール大学 | オランダ ・ハーグ応用科学大学 ・ライデン大学 | デンマーク ・オーフス大学 |
| アメリカ ・ウィットマン大学 ・ウェズリアン大学 ・カールトン大学 ・コルビー大学 ・バックネル大学 ・ボモナ大学 ・ウィリアムズ大学 ・オーバリン大学 ・コネチカット大学 ・スミス大学 ・ベイツ大学 ・マウントホリヨーク大学 | カナダ ・ピクトリア大学 ・プリティッシュ・コロンビア大学 ・レイクヘッド大学 ・ビショップス大学 ・モントリオール大学文理学部 ・ロイヤルローズ大学 | ドイツ ・テュービンゲン大学 ・フランクフルト大学 ・ミュンヘン大学文化学部 ・デュッセルドルフ大学 ・マインツ大学 |
| [以上AKP加盟校] ・イエール大学 ・コーネル大学 ・シカゴ大学 ・パーズニア大学 ・ブラウン大学 ・ペンシルバニア大学 ・ワシントン大学セントルイス ・エモリー大学 ・コロロンビア大学 ・スタンフォード大学 ・ハーバード大学 ・プリンストン大学 ・ボストン大学 | 韓国 ・高麗大学 ・仁川大学 ・ソウル市立大学 ・ソウル女子大学 ・嶺南大学 ・韓国外国語大学 ・全南大学 ・ソウル大学 ・延世大学 ・梨花女子大学 | トルコ ・サバンチ大学 ・中東工科大学 |
| [以上KCJS加盟校] ・アーカンソー工科大学 ・エンブリー・リドル航空大学 ・カリフォルニア大学 ・サルベ・レジーナ大学 ・ジョージ・メイソン大学 ・アンバー大学 ・ネブラスカ大学カーニー校 ・ハワイ大学ヒロ校 ・ポートルランド州立大学 ・ミズーリ大学 ・モンタナ大学 ・リンフィールド大学 ・ウェスタン・ミシガン大学 ・カラマズ大学 ・コロラド大学ボルダー校 ・サンディエゴ州立大学 ・セント・メアリーズ大学 ・ニューオーリンズ大学 ・ノースカロライナ大学シャーロット校 ・ハワイ大学マノア校 ・マレー州立大学 ・ミリキン大学 ・ユタ大学 ・ロチェスター工科大学 | スイス ・チューリヒ大学 ・ルツェルン大学 | ニュージーランド ・ウエリントン・ビクトリア大学 |
| アルゼンチン ・トルキュアト・ディ・テラ大学 | スウェーデン ・ヨーテボリ大学経済商法学部 | ノルウェー ・オスロ大学 ・ベルゲン大学 |
| イギリス ・ウォーリック大学 ・ケンブリッジ大学 セントキャサリンズコレッジ ・リーズ大学 ・エディンバラ大学 ・シェフィールド大学 ・マンチェスター大学 ・ロンドン大学(SOAS) | スペイン ・サラマンカ大学 ・バルセロナ自治大学 ・サンアントニオムルシアカトリック大学 ・ボンベウファブラ大学 | ハンガリー ・エトヴェシュ・ロラーンド大学 ・ペーチ大学 |
| イスラエル ・ヘブライ大学 | タイ ・タマサート大学 ・パヤップ大学 ・チュラロンコン大学 | フィリピン ・アテネオ・デ・マニラ大学 ・フィリピン大学ディリマン校 ・イースタン・フィンランド大学 ・タンペレ大学 ・ヘルシンキ大学 |
| イタリア ・ヴェネツィア大学 ・ボローニャ大学 ・ローマ大学 ・トリノ大学 ・ミラノ大学 | 台湾 ・国立政治大学 ・国立台湾師範大学 ・淡江大学 ・輔仁大学 ・国立台湾大学 ・静宜大学 ・東呉大学 ・中国文化大学 | フィンランド ・イースタン・フィンランド大学 ・タンペレ大学 ・ヘルシンキ大学 |
| インドネシア ・ガジャマダ大学 | チェコ ・カレル大学 ・マサリク大学 ・西ボヘミア大学 | フランス ・エクス・マルセイユ大学 ・国立東洋言語文化大学 ・ストラズブル大学 ・パリ政治学院 ・リヨン政治学院 ・エクセリア・グループ ・サンジェルマン・アン・レー政治学院 ・ソルボンヌ大学 ・パリ大学-ナンテール ・レンヌ政治学院 |
| | 中国 ・吉林大学 ・西安交通大学 ・暨南大学 ・清華大学 ・中国人民大学 ・東北師範大学 ・復旦大学 ・北京大学歴史学部 ・香港城市大学 ・嶺南大学 ・西北大学 ・四川大學 ・重慶郵電大学 ・浙江農林大学 ・天津外国語大学 ・武漢大学 ・北京師範大学 ・香港教育大学 ・香港中文大学 | ベトナム ・ハノイ工科大学 |
| | ベトナム ・国立政治大学 ・国立台湾師範大学 ・淡江大学 ・輔仁大学 ・国立台湾大学 ・静宜大学 ・東呉大学 ・中国文化大学 | ベルギー ・トマスモア応用科学大学 ・ブリュッセル自由大学 |
| | 台湾 ・国立政治大学 ・国立台湾師範大学 ・淡江大学 ・輔仁大学 ・国立台湾大学 ・静宜大学 ・東呉大学 ・中国文化大学 | ポーランド ・ヤギェウォ大学 ・ワルシャワ大学 |
| | タイ ・タマサート大学 ・パヤップ大学 ・チュラロンコン大学 | マレーシア ・マラヤ大学 ・マレーシア国際イスラーム大学 ・マレーシア科学大学 |
| | タイ ・タマサート大学 ・パヤップ大学 ・チュラロンコン大学 | メキシコ ・ラス・アメリカス大学 |
| | 台湾 ・国立政治大学 ・国立台湾師範大学 ・淡江大学 ・輔仁大学 ・国立台湾大学 ・静宜大学 ・東呉大学 ・中国文化大学 | リトアニア ・ヴィータウタス・マグヌス大学 |
| | チェコ ・カレル大学 ・マサリク大学 ・西ボヘミア大学 | ルーマニア ・ブカレスト大学 |
| | 中国 ・吉林大学 ・西安交通大学 ・暨南大学 ・清華大学 ・中国人民大学 ・東北師範大学 ・復旦大学 ・北京大学歴史学部 ・香港城市大学 ・嶺南大学 ・西北大学 ・四川大學 ・重慶郵電大学 ・浙江農林大学 ・天津外国語大学 ・武漢大学 ・北京師範大学 ・香港教育大学 ・香港中文大学 | ロシア ・サンクトペテルブルク経済大学 |

アーモスト大学への派遣留学生制度

アーモスト大学への派遣留学生制度は、「新島スカラー」(同志社の創立者・新島襄を記念してアーモスト大学が1954年に設立)、「同志社新島スカラー」(寄付金の一部を利用して同志社が1984年に設立)の2種類があり、隔年で実施されますので、事実上毎年1名をアーモスト大学に派遣するもので、アーモスト大学の3年生に正規学生として編入する制度です。応募資格は同志社大学または同志社女子大学の3年次または4年次在学学生、同大学院博士課程(前期課程)在学学生、修士課程在学学生、専門職学位課程在学学生です。留学期間は2年間となっており、アーモスト大学の学位(BA)が取得できます。また、その間の授業料、寮費、食費、学生活動費相当額の奨学金が支給されます。





奨学金制度

[安心して学ぶために]

同志社大学では、経済的な理由により修学困難な学生が安心して学業に専念できるよう、大学独自の奨学金制度や日本学生支援機構奨学金、民間・地方公共団体奨学金など、多種多様な奨学金制度により支援を行っています。現在、本学学部生の4人に1人が何らかの奨学金を受給しています。

また、大学院生のための奨学金制度[※]も充実しています。

※詳細は別冊子「同志社大学大学院案内2024」を参照してください。

同志社大学奨学金制度一覧

入学前に募集する奨学金

| 名称 | 種類 | 金額 | 対象 | | 採用(※1) [出願] | 出願期間 | 採否決定 | 備考 |
|--------------------|-----------------|--------------|----------------------------------|------|----------------|---------------|-------|---------------------------------------|
| | | | 家計基準(※2) | 成績基準 | | | | |
| 民間団体奨学金 (入学前募集) | 給付 または 貸与 | 各奨学金団体により異なる | 学業・人物ともに優秀で、 経済的な理由により修学が困難な者 | | 14 | 2月上旬～ 2月下旬 | 5月中旬～ | 返還:貸与の場合は各奨学金団体により異なるが 卒業後10～15年以内 |

入学後に募集する奨学金

高等教育の修学支援新制度

| 名称 | 種類 | 金額 | 対象 | | 採用(※1) [出願] | 出願期間 | 採否決定 | 備考 |
|-------------------|----------------|--|--|---|----------------|-----------------------|--------------|---|
| | | | 家計基準(※2) | 成績基準 | | | | |
| 日本学生支援機構 給付奨学金 | 給付 | 給付額、減免額は 世帯収入により異なる (詳しくは、本学webサイトの 「奨学金」のページを参照) | 住民税非課税世帯 またはそれに準じる 世帯 (詳しくは文部科学 省、日本学生支援 機構のwebサイト、 本学webサイトの 「奨学金」のページ を参照) | 1年次:次のいずれかに該当する者 ①高校等の評定平均値が3.5以上 ②入学試験の成績が上位1/2以上 ③高校卒業程度認定試験の 合格者 ④学修の意欲や目的、将来の人生 設計等が学修計画書により確 認できる | 196 [323] | 4月上旬～ 5月上旬 (予定) | 7月上旬 (予定) | 他に国籍・在留資格等に関する要件、大学等に 進学するまでの期間等に関する要件あり。 給付期間(もしくは授業料減免期間):標準修業 年限まで。ただし継続にあたり毎年学業成績・ 学修意欲、経済状況についての審査あり。 本制度による支援を受ける者は、日本学生支援 機構給付奨学金(第一種)の貸与金額が制限さ れる場合がある。 <u>同志社大学奨学金との併給はできない。</u> |
| 授業料等 減免 | 授業料 等 減免 | | | | | 9月中旬～ 10月中旬(予定) | 12月 (予定) | 家計が急変した 場合は随時対応 |

大学独自の奨学金

| 名称 | 種類 | 金額 | 対象 | | 採用(※1) [出願] | 出願期間 | 採否決定 | 備考 |
|------------------------|-------------|---|--|--|----------------|------------------------|---------------|---|
| | | | 家計基準(※2) | 成績基準 | | | | |
| 同志社大学奨学金 | 給付 | 神・文・社会・法・経済・商・政策・ グローバル地域文化学部: 年額300,000円 文化情報・スポーツ健康科学部: 年額320,000円 理工・生命医科学部: 年額430,000円 心理・グローバル・コミュニケー ション学部:年額340,000円 | 2022年度採用実績 給与収入:595万円以下 営業所得:242万円以下 | 1年次:入学をもっ て基準を満たす 2年次以上:学部・学 科上位1/3以内かつ 所定単位数以上を 修得 | 175 [309] | 8月～ 9月中旬 (予定) | 11月中旬 (予定) | 給付期間:1カ年限り (毎年出願可) 外国人留学生は出願不可 <u>高等教育の修学支援新制度との併給はできない。</u> |
| 同志社大学 修学特別支援 奨学金 | 給付 | 年額 200,000円 | 災害・病気または不慮の事故等で 家計支持者が死亡または後遺症 により就労不能となった場合、災 害等により住宅が半壊以上の被 害を受け、家計が急変した場合。 日本学生支援機構第二種奨学金 家計基準内であること。 | 1年次:所定単位数以 上を修得 2年次以上:学部・学 科上位2/3以内かつ 所定単位数以上を 修得 | 7 [7] | 8月～ 9月中旬 (予定) | 11月中旬 (予定) | 給付期間:1カ年限り 出願:事由発生から1年以内であること |
| 同志社大学 育英奨学金 | 給付 | 年額 300,000円 | 学術・文化、スポーツ活動等に優れた成果をあげ、 かつ、学業・人物ともに優秀な者 | | 100 | 公募及び学部推薦 (学部により異なる) | 1月中旬 (予定) | 給付期間:1カ年限り (毎年出願可) |
| 同志社大学 寄付奨学金 | 給付 | 年額 100,000円 | 学部長等に推薦された学力・人物ともに優秀な者 | | 17 | 公募はしない | 5月下旬 (予定) | 給付期間:1カ年限り(推薦制) |
| 同志社大学 短期貸付金 | 貸与 (無利子) | ①一般貸付 30,000円以内 ②特別貸付 100,000円以内 | やむを得ない事情で、一時的に生活費支弁が困難になった者 | | ①0 ②1 | 緊急の場合随時対応 | | 返還:一般貸付の返還は3カ月以内、 特別貸付は10カ月以内の月賦による |

学外の機関等による奨学金

| 名称 | 種類 | 金額 | 対象 | | 採用(※1) [出願] | 出願期間 | 採否決定 | 備考 |
|--------------------|-----------------|----------------------------------|---|--|---|---------------------------------|--------------|---|
| | | | 家計基準(※2) | 成績基準 | | | | |
| 日本学生支援機構 第一種奨学金 | 貸与 (無利子) | 月額20,000～64,000円 ※入学年度により異なる | 給与収入:789万円以下 営業所得:381万円以下 | 1年次:高校成績評定平均値3.5以上 2年次以上:学部・学科上位1/3以内 かつ所定単位数以上を修得 | 一 種 164 二 種 280 [463] | 4月上旬～ 4月中旬 (予定) | 7月上旬 (予定) | 標準修業年限まで貸与 外国人留学生は出願不可 第二種奨学金の金利の種類は、利率固定方式、 利率見直し方式がある。利率の上限は3%。 |
| 日本学生支援機構 第二種奨学金 | 貸与 (有利子) | 月額20,000～120,000円 ※入学年度により異なる | 給与収入:1,132万円以下 営業所得:724万円以下 | 1年次:入学をもっ て基準を満たす 2年次以上:所定単位数以上を修得 | | 家計が急変した 場合は随時対応 | | |
| 同志社校友会 奨学金 | 給付 | 年額 300,000円 | 成績優秀かつ経済的支援を必要とする2年次以上の者 | | 50 | 公募はしない | 1月下旬 | 1カ年限り(推薦制) |
| 民間・地方 公共団体奨学金 | 給付 または 貸与 | 各奨学金団体により異なる | 各奨学金団体により異なる。学業・人物ともに優秀で、 経済的な理由により修学が困難な者 | | 37 | 大学推薦団体は8月～9月中旬 公募団体は3月下旬より随時 | | 大学推薦団体分は同志社大学奨学金と同時に 募集(民間団体奨学金のみの登録可)。 返還:貸与の場合は各奨学金団体により異なるが卒業後10～15年以内 |

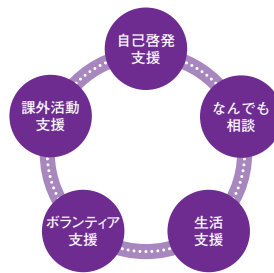
※1) 採用者数[出願者数]は2022年度実績。同志社大学奨学金は採用人数に限度があるため基準内であっても採用されない場合があります。

※2) 家計基準は、4人家族(両親のうち1名が就労、本人:自宅通学文系、妹または弟:公立高校通学)をモデルケースとした場合の収入(所得)金額です。

学生支援

[キャンパスライフをサポート]

「学生を丁寧に扱いなさい」「学生の個性を伸ばしてあげなさい」と教職員に説いた創立者・新島襄の精神に則り、学生一人ひとりの生活や各自の成長を丁寧にサポートできる総合的な体制を整えています。



▶ 課外プログラム

学生支援センターでは、学生生活をより充実したものにするため、さまざまなセミナー・プログラムを開催しています。セミナーやプログラムへの参加を通じた実体験や、色々な世代や考え方の人とのコミュニケーションにより、自身の考え方や価値観、視野を広げることができます。

函館キャンプ

創立者新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道函館市を3泊4日で訪れます。新島襄の生き方に触れ、人と人の触れ合いの中で自分自身を見つめます。

D-Live (課外活動webサイト)

クラブ・サークル情報を中心として課外活動の「今」を配信します。試合やイベント、クラブ紹介などに加え、課外プログラムの映画・LIVE情報まで満載です。

詳しくはこちら



CLAP (くらっぷ)

演劇・音楽などのワークショップを学期ごとに行う体験型プログラム。ふだん挑戦する機会のない人でも観る立場から表現する立場へ。締めくくりには成果発表会を開催します。

WOT (ワット)

寒梅館ハーディーホールにて、映画上映やコンサートなど多彩なイベントを開催します。

▶ なんでも相談 (学生支援課)

何か疑問に思ったとき、どこに聞けばよいのかわからないときに気軽に立ち寄れる場所、それが学生支援課です。学生支援課では相談の内容により、学内外の専門部署と連携して、あなたとともに解決法を考えます。

▶ 学生相談 (スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室)

身体、精神／発達に障がいのある学生が、学生生活を送る上で必要かつ適切な支援と機会を得られるよう、授業保障、情報保障を中心に様々な支援を行っています。また、学生が相互に多様な人格と個性を尊重し合いながら共生できるように、全学における協力体制を推進しています。

修学における支援や、障がい学生をサポートするサポートスタッフ、ジェンダーやセクシュアリティに関する相談や質問がある方は、当室にお気軽にお越しください。

▶ 学生相談 (カウンセリングセンター)

充実した学生生活を送るためには、心身ともに健康であることが大切です。大学に入学したばかりの学生は、一人暮らしを始め自分で判断しなければならないことが増えるなど、これまでと比べて、環境が大きく変わります。それによって、色々な悩みが生じるかもしれません。そこで本学では、今出川・京田辺両校地に「カウンセリングセンター」を設け、学業や将来の進路、対人関係や健康などについて、学生生活を送る上での様々な相談や質問を受け付けています。専門のカウンセラーがお話をうかがい、必要に応じて学内の他部署や学外の機関を紹介することもできます。もちろん個人の秘密は厳守されるため、安心して相談してください。

相談内容(例)

- 修学に関すること
- 対人関係に関すること
- 生活全般に関すること
- 将来の進路に関すること
- 心身の健康に関すること
- 発達障がいに関すること

▶ ボランティア支援 (ボランティア支援室)

ボランティア支援室では、ボランティア活動への参加を通じて、学生が市民社会の構成員であることの自覚を持つこと、社会のニーズや直面している問題を「自分ごと」として捉えられるようになることなど、様々な「気付き」を促すための支援に取り組んでいます。また、実社会において活躍する幅広い世代・分野の人々との交流を通じて、自己成長・自己発見することができますよう、学生のボランティア活動を全面的にバックアップします。

また、学生／大学と地域の連携・交流・つながりをさらに発展させることで、地域活性化や地域と大学の顔の見える関係づくりを目指します。

▶ 健康管理 (保健センター)

保健センターでは、心身ともに健康な学生生活が送れるようサポートしています。主に次のような業務を行っています。

- ① 定期健康診断
疾病の早期発見や健康の維持・促進を目的に、毎年1回実施。
- ② 健康管理
定期健康診断の結果を基に再検査、精密検査および診療を行う。
- ③ 健康相談
心身に関わること、薬、医療について様々な相談に対応。
- ④ 精神保健相談 (予約制)
- ⑤ 診療
月～金曜日の午後、内科の診療を実施。
- ⑥ 「健康診断証明書」の交付
奨学金、教育実習、進学、就職などに必要。
- ⑦ 応急処置
軽い怪我などの処置や、体調不良で静養を希望する場合に対応。
- ⑧ 救急
学内での体調不良や痛み等による症状で自ら来所できない場合は看護師が出向きます。

▶ 生活支援

学生が安心して学生生活を送れるよう、健康面から住居に至るまで幅広い支援を展開。あらゆる問題を解決するため、窓口での相談に応じています。

下宿

本学学生の約4割が下宿生活をしています。新入生は講義を受ける校地の周辺地区に下宿するケースが多く見られますが、クラブ活動やアルバイトなどの関係から、両校地の中間点である宇治、城陽、伏見地区や通学に便利な地下鉄沿線に下宿している学生もいます。学生生活課では、修学援助の一環として経済的負担が少なくてすむアパート、一軒家(間借り)などの物件を業務委託により紹介しています。

学生教育研究災害傷害保険

学生の教育研究活動中の災害に対して必要な給付を行う傷害保険制度で、正課中・学校行事中はもちろん、課外活動中も含めた教育研究活動中のほとんどの傷害事故が補償の対象となっています。本学の正規学生については、大学が保険料を負担して「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。また、特約により通学中の事故、学校施設間の移動中の事故についても補償の対象となっています。

健康関連の取り組み

本学の正規学生を対象に、歯科検診など、学生の健康に関する事業を実施しています。

アルバイト

アルバイトは、学費や留学費用、生活費、小遣いを工面するなど目的は人それぞれですが、同志社大学生以外の様々な世代の人と出会えたり、アルバイトを通して職業観をはぐむ一助となるなど、貴重な社会勉強の機会といえます。本学学生は、同志社大学アルバイト紹介システム(<https://www.aines.net/doshisha>)から、いつでもどこでもアルバイト情報の検索が可能です。アルバイトをしてみようと考えている方は、学生の身分である学業が疎かになることのないよう十分注意の上、経験してみてください。

厚生施設紹介

クラブ、ゼミ合宿や保養、レクリエーションのための施設として、本学には同志社びわこリトリートセンターと晩晴草堂があります。

2000年秋、滋賀県北小松にオープンした同志社びわこリトリートセンターは、創立125周年記念事業の一環として「キリスト教主義教育・国際交流」のための施設として建設されました。

晩晴草堂は山中湖畔にある徳富蘇峰ゆかりの建物です。自然環境に恵まれた別天地で、思い切りリフレッシュできる施設として、学生や教職員、卒業生に利用されています。

学生寮

同志社大学は、京都市内に複数の学生寮を用意しています。

継志寮は、2021年9月に開設した教育寮です。人種、性別、障がいの有無、文化等の様々な違いや背景を持つ学生が多様な価値観を理解し合い、その違いを新たな創造へと導く力を持つ人物の養成をコンセプトとしています。国内学生と留学生が生活を共にし、多文化共生、地域社会との異世代共生を実践します。寮生は全員 Residential Learning Program (RLP) と呼ばれる、地域社会との関わり等を通じた実践学習に参加します。

また、ドミトリー・アシスタント(DA)(大学院学生)が寮生とともに居住しながら、寮の管理運営の補助にあたり、RLPの関連業務を担います。

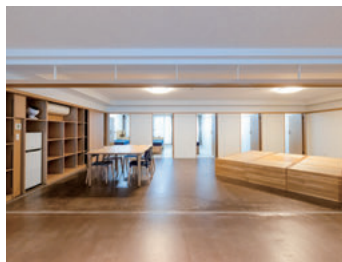
詳しくはこちら

継志寮
特設サイト



| 寮名 | 入寮資格 | 定員(人) | 寮費(月額) [*] | 寮食 | 住居形式 |
|----------------|-----------------|--|--------------------------------------|----|--------------------------------------|
| ケインリョウの 継志寮 | 本学学生 *在寮期間2年 | 160 (内訳) 男子フロア 80 女子フロア 80 *他に短期留学プログラム用 20 | 60,000円 *入寮時に入寮費として 30,000円を徴収 | なし | ユニット形式 5つの居室(個室)につき 1つのリビングを共用 |

※ 寮費には、住居費、水道料金、電気料金、インターネット使用料、寝具リース代が含まれます。



此春寮、松蔭寮は、舎費を低額に抑え、入寮選考では家計審査を実施するなど、学生の経済的支援のニーズにも応えられるようにしています。それぞれの寮の伝統や文化を尊重した運営を行っています。

| 寮名 | 入寮資格 | 定員(人) | 舎費(月額) ^{※1} | 寮食 ^{※2} | 住居形式 |
|------------------|----------|-------|-------------------------|------------------|---------------------------------|
| ケインリョウの 此春寮 | 本学学生(男子) | 33 | 23,900円 ^{※3※4} | 朝・夕 | 2年間2人部屋 ^{※5} 3年目から1人部屋 |
| ショウインリョウの 松蔭寮 | 本学学生(女子) | 72 | 27,500円 ^{※3※4} | 夕 | 2年間2人部屋 ^{※5} 3年目から1人部屋 |

※1) 2023・2024年度の舎費です。

※2) 寮食は希望者の注文制。朝食平均150円、夕食平均300円です。なお、各寮とも自炊設備があります。

※3) 各個室にエアコンを設置しています。エアコンを含む居室の電気代を舎費とは別に徴収します。

※4) Wi-Fi環境を整備しており、利用料は舎費に含まれています。

※5) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一時的に2人部屋を1人で使用しています。

未来への準備

「我が校の門をくぐりたるものは、政治家になるもよし、
宗教家になるもよし、実業家になるもよし、
教育家になるもよし、文学家になるもよし」
これは、創立者・新島襄の言葉です。

自分の進路、さらには自分の人生について判断し、決定を下すのは、
学生自身です。キャリアセンターは、学生が自らの力で
自分の将来について考え、決断し、道を切り開いていくことができるよう、
学生一人ひとりに寄り添って誠実にサポートしています。

STEP 1

1年次～2年次

- ・学生生活の目標設定をする
- ・社会への認識を深める

キャリア形成支援期

まずは正課・課外プログラムを通じて、主体的な行動と社会倫理観の大切さを認識し、ライフプランニングや職業観の醸成、能力開発を目指すところからスタート。

- ▶ [正課科目] キャリア開発と学生生活
- ▶ [正課科目] キャリア開発の課題と方法
- ▶ [正課科目] 労働市場の動向とキャリア形成
- ▶ [正課科目] 公募型キャリア形成[プロジェクト科目]
- ▶ キャリア発見セミナー
- ▶ 自己発見セミナー
- ▶ 大学生活の過ごし方セミナー
- ▶ 各学部でのキャリアガイダンス
- ▶ キャリア体感プログラム
- ▶ TOEIC® L&R IPテスト
- ▶ TOEIC® L&R IPテスト対策講座

STEP 2

3年次春～

- ・将来への目標設定をする
- ・見識を拡大する

就職体験支援期

STEP1で深めた認識を、実際の現場で体験するプログラムです。興味のある仕事や企業の業務の一端に触れることで、働くことへの意識を高めるとともに、自ら考え行動する力を養い、より明確な将来の目標設定を目指します。

- ▶ [正課科目] キャリア形成とインターンシップ(2年次生以上対象)
- ▶ 大学コンソーシアム京都を利用したインターンシップ(全学年対象)
- ▶ 公募型インターンシップ
- ▶ 夏インターンシップ・仕事研究に向けての企業セミナー
- ▶ 同志社限定インターンシップ・仕事研究プログラム
- ▶ キャリアガイダンス
- ▶ 自己分析セミナー
- ▶ 仕事研究セミナー
- ▶ 筆記試験対策セミナー
- ▶ エントリーシートセミナー・ワークショップ
- ▶ 面接セミナー・ワークショップ
- ▶ グループディスカッションセミナー・ワークショップ
- ▶ 企業セミナー
- ▶ 公務員講座ガイダンス
- ▶ 学内公務員講座(3年次春より開講)
- ▶ OB・OG交流会(全学年対象)

STEP 3

3年次秋～4年次

- ・業界、企業、職種を知り、就職に向けた軸を明確にする

就職活動支援期

自分の目標達成に向けて具体的に行動する3年次秋から本格的な就職支援へと進みます。社会や仕事、自己を知るためのプログラムを通じて、それぞれの目標に合わせたサポートを行います。

- ▶ 就職ガイダンス
- ▶ 自己分析セミナー
- ▶ 仕事研究セミナー
- ▶ エントリーシートセミナー・ワークショップ
- ▶ 面接セミナー・ワークショップ
- ▶ グループディスカッションセミナー・ワークショップ
- ▶ 企業セミナー
- ▶ 学内企業説明会
- ▶ 企業採用選考会(4年次生対象)
- ▶ 筆記試験対策セミナー
- ▶ Uターン・リターンセミナー
- ▶ Uターン・リターン相談会
- ▶ 公務員・公立学校教員業務説明会(全学年対象)
- ▶ 官庁・自治体職員採用説明会(全学年対象)
- ▶ 教員採用説明会(全学年対象)
- ▶ OB・OG交流会(全学年対象)
- ▶ 内定者座談会(全学年対象)

1年次からのキャリア教育で 就職活動をきめ細かくバックアップ

1・2年次生のときから職業観醸成のためのプログラムを展開しています。「キャリア発見セミナー」「キャリア体験プログラム」では社会で働くことの意味を多角的に考えるきっかけとします。また、自分の将来設計を考える契機とすることを目的としてインターンシップや仕事体験などを全学部生を対象に実施しています。

就職活動のバックアップについても、綿密な年間スケジュールを組み、さまざまな催しを行っています。3年次生への進級時には第1回キャリアガイダンスを実施し、就職活動の具体的な準備をスタート。キャンパスで開催される各種セミナーや先輩たちの就職活動体験記を参考に、業界・企業研究を深めます。また、公務員・教員志望者のために、希望に合わせたガイダンスやセミナー、講座を開催しています。

卒業生の就職活動体験談



やすいりょうと
安井稜隼
法学部
法律学科
内定企業
ソフトバンク

おじが弁護士をしており、法曹界に進みたいと考え、法学部に進学しました。判例や裁判例などを勉強していくうちに法曹界の前例主義的なところが自分に合っていないと感じ、IT、特に企業の情報システムを構築するSI(システムインテグレーション)企業へ進むことに舵を切りました。というのは、水泳コーチのアルバイトをしていたのですが、教えること以外の業務に忙殺されることがありました。ITで効率化すれば本業に集中できる、これはここだけの問題ではない、もっとITで豊かな社会にしたいと考えたのがきっかけです。

就職活動ではwebテストの対策で出遅れてしまいました。しかし、オンラインでの面接の練習やエントリーシートの添削など大学のサポートがしっかりしていたので、巻き返すことができました。新型コロナの感染状況が少し落ち着いてからは、対面での面接練習や相談など柔軟に対応してもらい、精神的な面でも心強い味方になってもらいました。キャリアセンターは自分から求めればあらゆる情報やさまざまな場を提供してくれます。

大学の3、4年はコロナ禍で大変な時期でしたが、オンラインでの授業や友人との会話、さらにアルバイトでのコーチの経験など、直接会える機会が少ないからこそコミュニケーションの大切さを学びました。出会いを大切に、安井に頼んだら大丈夫と思われる唯一無二の存在になりたいです。

卒業生の就職活動体験談



こうだまゆ
郷田真由
商学部
商学科
内定企業
カルビー

中学生のころからお菓子メーカーで働きたいという夢を持っていました。お菓子が身近にあり、家族と一緒にのお菓子を食べていたことが大事な思い出になっているからです。大学は、お菓子メーカーで働くための知識を身につけようと商学部に進学しました。入学して勉強の面だけでなく、いろんなタイプの人にめぐりあい、いろんな考え方をもち、得るものがありました。その一つがサークルです。サークルではカンボジアへ向けたボランティア活動をしていたのですが、現地の子どもたちが食べているお菓子を自分も食べてみました。それも美味しいのですが、もっと美味しいお菓子がある、この子どもたちにも食べてほしいという思いが強くなりました。

就職への道は困難なものでした。面接は次の段階や最終面接へと進むのですが、不採用がいくつも続き、精神的にかなり落ち込みました。そこでキャリアセンターで相談すると、じっくり私の話を聞いてくださり、その上で話をするスピードや長さ、伝え方など具体的なアドバイスをいただき、修正していききました。それがうまくいき、最終的にカルビーに就職が決まりました。就職活動中、キャリアセンターは精神的に大きな支えになりました。

「じゃがりこ」を食べると一緒に食べた友だちとの楽しかった出来事を思い出します。多くの子どもたちに私のようにお菓子とともに楽しい思い出をつくってほしいと思います。

学生一人ひとりとの個別面談のほか 自宅からでも見られるデータベースを完備

学生との個別面談もキャリアセンターの大きな役割です。各学生からの活動状況の報告や相談を受け、個々の状況に合わせて適切にアドバイスします。企業等での経験豊かなキャリアアドバイザーも配置し、本学で学んだ知識をどのように活かすか、社会でどのような自己実現を目指すか、一人ひとりの希望・特性にふさわしい就職実現を目指してサポートを行っています。

対面での相談だけでなく、オンラインや電話での相談にも対応しています。

就職活動に関する情報が氾濫する中、本学では企業の最新情報を収集・蓄積し、正確でタイムリーな情報を提供しています。キャリアセンター内の資料コーナーでは公務員やUIターンなどの様々な情報を、PCコーナーではビジネス向けオンラインデータベースサービスを利用し、企業情報を閲覧することができます。また、キャリアセンター独自の情報を提供するwebシステム「e-career」は就職活動の貴重なツールとなっています。

さまざまなキャリア支援

インターンシップ

学生のインターンシップへの関心は年々高まっており、企業・団体によっては採用選考以上の倍率となり選考が実施されることもあります。特に、3年次生の夏に開催されるインターンシップは、多くの学生にとって初めての就業体験の場となります。

キャリアセンターでは、インターンシップの選考対策として3年次生の春から自己分析セミナーやエントリーシートセミナー、面接セミナーといったさまざまなプログラムを実施し、学生を支援しています。

また、正課科目として「キャリア形成とインターンシップ」^{*}を設置し、業界、企業、職種への理解を深める機会を提供しています。

^{*}一部の学部では、異なる名称で開講しています。

就職支援拠点も整備

関西企業だけでなく、東京本社の企業への就職も多いため、東京と大阪に「東京サテライト・キャンパス」「大阪サテライト・キャンパス」を設置。就職相談(大阪のみ3月中旬～6月上旬に実施)、パソコン利用、証明書の発行、就職情報誌の閲覧、活動中の休憩ができます。

公務員を目指す人への就職支援

官庁や自治体職員による公務員業務説明会(全学年参加可能)の開催や、公務員の採用情報やイベント情報等の提供を行っています。

また、公務員を目指すには採用試験科目の専門的な勉強が必要です。同志社大学では、大手予備校講師が学内に来て講義を行う学内公務員講座を実施しています。同志社大学生に合わせたオリジナルの内容で、外部予備校と比較して低価格で受講することができます。

卒業生の就職活動体験談



むらい だい き
村井大樹

理工学研究科
機械工学専攻

内定企業

本田技研工業

小さいころから動くものが好きで、中でも自動車に関わる仕事がしたいと思っていました。できれば自動車を開発する側になりたいと考え、大学院に進み、自動車の部品の一つであるCVTの研究をしました。CVTとは無段変速機のことです。一般の変速機に比べて騒音もなく、省エネにもつながります。就職先は自動車の事業をメインにする本田技研工業に決めました。同社は自動車にとどまらず、さまざまな技術を研究開発している企業です。自動車だけでなく、移動するモビリティにも興味があったので、その希望が叶いました。

就職活動に関してはサポートが多岐にわたっていたので、とても頼りになりました。面接はすべてオンラインだったのですが、画面越しで、自分が話したことが伝わっているのか不安に思っていました。キャリアセンターの方から、声をワントーン上げたり、通信でのタイムラグを考慮して少し間を置いたり、具体的なアドバイスをもらったことで、コツがつかめました。

また同社の社員の方と話すとき皆さんに「君のやりたいことは何か?」と聞かれました。そういう情熱を持っている人が多く、夢を大事にする会社だと強く思いました。

同志社大学は、自分たちの夢や希望の実現をサポートしてくれ、一つひとつの疑問や課題と一緒に向き合ってくれます。これからは研究者として環境負荷と事故をゼロにする、という夢に取り組んでいきます。

Uターン・Iターン就職のサポート

地方への就職を目指す際に考えておくべきことや、就職活動の進め方等を説明する「U・Iターンセミナー」や、各都道府県・地域の担当者と交流ができる「都道府県別U・Iターンセミナー」を開催しています。また、各自治体主催のイベント情報の提供や、各自治体が発行している交通費補助等の支援制度に関する情報提供も行っています。

グローバルに活躍したい方へ

将来グローバルに活躍したい本学学生を対象に、キャリア形成を目的として「グローバルキャリアフェア」(春学期実施・全学年参加可能)を開催しています。国際機関やさまざまな分野でグローバルに活躍されている社会人の方による講演会や、企業が求めるグローバル人材を理解するセミナーなどを通じて、有意義な学生生活を送るヒントを得ることができます。

また、外国人留学生を対象に、日本で就職するための心構えや就職活動の概要を紹介するガイダンスを開催し、早期から就職活動を始められるよう支援しています。

障がい学生に対するキャリア支援

キャリアセンターでは、低年次生も参加可能なインターンシップなど、学内外の各種機関とも積極的に連携し、障がい学生のキャリア形成につながる様々な情報や行事を提供しています。また、障がいのあるOB・OGの就職実績や、就活体験談などを参照できるほか、専門スタッフによる個別相談も実施しています。

就職実績

| 学部 | 業種別比率 | 就職先例 |
|---------------------------|---|--|
| | <small>メーカー 流通 金融 マスコミ・情報通信 教育・学習支援 サービス 公共・その他</small> | |
| 神学部 | 男子 25.0% 2.5% 15.0% 15.0% 10.0% 32.5% 女子 17.6% 14.3% 14.3% 7.9% 19.0% 20.6% 6.3% | ▶ 国家公務員(総合職) ▶ 関西電力 ▶ 国家公務員(一般職) ▶ 東日本旅客鉄道 ▶ 滋賀県 警察(警察官・警察事務 等) ▶ 三井物産アグロビジネス ▶ 大阪市 ▶ 楽天グループ ▶ 高槻市 ▶ 富士通 |
| 文学部 | 男子 24.4% 9.9% 8.4% 17.6% 9.1% 13.0% 17.6% 女子 17.3% 13.6% 11.8% 13.9% 18.7% 17.9% 6.8% | ▶ 教員(京都府、大阪府、兵庫県、岐阜県他) ▶ 日本生命保険 ▶ 地方公務員(京都府、京都市、大阪市他) ▶ 東京海上日動火災保険 ▶ 三菱UFJ銀行 ▶ NTTドコモ ▶ 京都銀行 ▶ 楽天グループ ▶ 野村証券 ▶ 関西電力 |
| 社会学部 | 男子 25.6% 10.3% 11.6% 13.8% 3.4% 17.0% 18.3% 女子 19.1% 11.3% 13.1% 12.6% 2.9% 17.8% 23.2% 2.9% | ▶ 京都銀行 ▶ 京都府 警察(警察官・警察事務 等) ▶ 第一生命保険 ▶ 大阪市 ▶ 東京海上日動火災保険 ▶ TOTO ▶ TIS ▶ りそなグループ ▶ 三井住友銀行 ▶ 滋賀銀行 |
| 法学部 | 男子 23.1% 9.1% 15.3% 11.3% 1.4% 11.8% 28.0% 女子 19.0% 19.6% 10.4% 14.6% 1.8% 29.1% 5.5% | ▶ 国家公務員 ▶ 日本生命保険 ▶ 地方公務員 ▶ 野村証券 ▶ 三井住友銀行 ▶ NTTドコモ ▶ 三菱UFJ銀行 ▶ ソフトバンク ▶ 東京海上日動火災保険 ▶ 楽天グループ |
| 経済学部 | 男子 24.6% 10.2% 21.3% 15.8% 1.4% 13.6% 13.1% 女子 22.0% 9.1% 24.6% 12.7% 1.4% 16.1% 14.1% 1.4% | ▶ 三井住友信託銀行 ▶ 日本政策金融公庫 ▶ 明治安田生命保険 ▶ TIS ▶ みずほフィナンシャルグループ ▶ りそなグループ ▶ 三井住友銀行 ▶ NTTドコモ ▶ 大和ハウス工業 ▶ 船井総合研究所 |
| 商学部 | 男子 27.6% 11.7% 17.5% 14.1% 0.6% 17.5% 11.0% 女子 20.5% 11.2% 25.8% 11.0% 1.2% 17.0% 13.3% 1.2% | ▶ 京都銀行 ▶ オービック ▶ サイバーエージェント ▶ 住友生命保険 ▶ 三井住友銀行 ▶ 三井住友信託銀行 ▶ 日本電気 ▶ 野村証券 ▶ 楽天グループ ▶ エン・ジャパン |
| 政策学部 | 男子 26.4% 11.1% 14.1% 15.8% 0.6% 15.6% 16.4% 女子 21.7% 9.6% 21.0% 12.9% 0.9% 15.9% 18.0% 0.9% | ▶ 国家公務員(一般職) ▶ 日本政策金融公庫 ▶ 京都中央信用金庫 ▶ パナソニック ▶ 国税専門官 ▶ 西日本電信電話 ▶ 京都市 ▶ 明治安田生命保険 ▶ 日本生命保険 ▶ SMBC日興証券 |
| グローバル 地域文化学部 | 男子 22.9% 13.0% 12.2% 16.8% 1.5% 21.4% 12.2% 女子 23.3% 14.3% 11.1% 13.1% 3.3% 16.1% 18.8% 3.3% | ▶ 三菱電機 ▶ 京セラ ▶ パナソニック ▶ 住友化学 ▶ ローム ▶ 味の素 ▶ 村田製作所 ▶ サントリーホールディングス ▶ ダイキン工業 ▶ 三井物産 |
| 文化情報学部 | 男子 21.8% 8.1% 14.2% 27.0% 1.6% 16.0% 11.3% 女子 16.5% 9.7% 15.0% 25.9% 3.5% 20.3% 9.1% 3.5% | ▶ アクセンチュア ▶ ソフトバンク ▶ エヌ・ティ・ティ・データ ▶ 大和ハウス工業 ▶ 京セラ ▶ 中部電力 ▶ 京都銀行 ▶ 東京海上日動火災保険 ▶ Sky ▶ トヨタ自動車 |
| 理工学部 | 男子 41.9% 5.1% 4.9% 23.5% 1.9% 12.7% 10.0% 女子 46.5% 2.7% 3.8% 29.7% 1.6% 9.2% 6.5% 2.7% 3.8% | <small>情報系</small> ▶ NTTドコモ ▶ エヌ・ティ・ティ・データ ▶ 日立製作所 ▶ パナソニック ▶ サイバーエージェント ▶ アクセンチュア ▶ グーグル ▶ トヨタ自動車 <small>電気系</small> ▶ 関西電力 ▶ きんでん ▶ SUBARU ▶ オプテージ ▶ 西日本旅客鉄道 ▶ 九州電力 ▶ 東海旅客鉄道 ▶ シャープ |
| 生命医科学部 | 男子 45.2% 5.4% 2.4% 22.9% 2.4% 13.3% 8.4% 女子 49.2% 5.5% 3.1% 21.9% 0.8% 13.3% 6.2% 5.5% 3.1% | <small>医工学科</small> ▶ トヨタ自動車 ▶ ダイキン工業 ▶ パナソニック ▶ LIXIL ▶ 日立製作所 ▶ 関西電力 ▶ 川崎重工業 ▶ 清水建設 ▶ 京セラ ▶ 旭化成 |
| スポーツ 健康科学部 | 男子 35.9% 11.6% 12.7% 9.4% 1.7% 13.0% 15.7% 女子 34.2% 11.1% 14.2% 5.3% 5.3% 16.8% 13.1% 5.3% 5.3% | ▶ アシックスジャパン ▶ 大塚製薬 ▶ デサントジャパン ▶ ジョンソン・エンド・ジョンソン ▶ 美津濃 ▶ カゴメ ▶ ヨネックス ▶ キリンホールディングス ▶ ワコール ▶ サントリーホールディングス |
| 心理学部 | 男子 25.5% 13.3% 11.2% 13.3% 6.1% 16.3% 14.3% 女子 19.4% 12.5% 14.7% 10.8% 3.9% 17.2% 21.5% 3.9% | ▶ 国家公務員(総合職) ▶ 地方公務員 ▶ 法務省専門職員(矯正心理専門職) ▶ 明治安田生命保険 ▶ 日本アイ・ビー・エム ▶ 京阪ホールディングス ▶ 大和ハウス工業 ▶ 教員 ▶ 味の素 ▶ スターバックスコーヒージャパン |
| グローバル・ コミュニケーション 学部 | 男子 39.7% 9.5% 14.6% 18.1% 6.9% 11.2% 女子 28.2% 14.1% 14.5% 18.5% 4.1% 14.9% 5.7% 4.1% | ▶ トヨタ自動車 ▶ ダイキン工業 ▶ パナソニック ▶ サントリーホールディングス ▶ 任天堂 ▶ ニトリ ▶ 村田製作所 ▶ ユニクロ ▶ 京セラ ▶ ソフトバンク |

過去10年間に見る就職者数の上位30社 (文科系・理工系別)

| 企業・団体名 | 2022年4月採用 | 過去9年間 | 合計 |
|------------------|-----------|-------|-----|
| 1 国家公務員(一般職) | 58 | 393 | 451 |
| 2 三井住友銀行 | 24 | 418 | 442 |
| 3 日本生命保険 | 24 | 348 | 372 |
| 4 三菱UFJ銀行 | 13 | 348 | 361 |
| 5 京都銀行 | 36 | 315 | 351 |
| 6 みずほフィナンシャルグループ | 10 | 314 | 324 |
| 7 東京海上日動火災保険 | 28 | 235 | 263 |
| 8 りそなグループ | 12 | 242 | 254 |
| 9 京都市 | 21 | 185 | 206 |
| 10 京都中央信用金庫 | 18 | 183 | 201 |
| 10 野村証券 | 15 | 186 | 201 |
| 12 滋賀銀行 | 9 | 184 | 193 |
| 13 三井住友信託銀行 | 24 | 168 | 192 |
| 14 SMBC日興証券 | 7 | 174 | 181 |
| 15 住友生命保険 | 14 | 165 | 179 |
| 16 三井住友海上火災保険 | 8 | 170 | 178 |
| 17 明治安田生命保険 | 15 | 161 | 176 |
| 18 ニトリ | 11 | 163 | 174 |
| 19 富士通 | 11 | 161 | 172 |
| 20 国税専門官 | 22 | 147 | 169 |
| 21 楽天グループ | 28 | 139 | 167 |
| 22 関西みらい銀行 | 10 | 153 | 163 |
| 22 大和証券グループ本社 | 8 | 155 | 163 |
| 24 日本郵便 | 4 | 158 | 162 |
| 25 第一生命保険 | 12 | 145 | 157 |
| 26 損害保険ジャパン | 9 | 145 | 154 |
| 27 南都銀行 | 8 | 143 | 151 |
| 28 パナソニック | 14 | 135 | 149 |
| 29 京都府 | 23 | 122 | 145 |
| 30 みずほ証券 | 15 | 108 | 123 |
| 30 全日本空輸 | 0 | 123 | 123 |

| 企業・団体名 | 2022年4月採用 | 過去9年間 | 合計 |
|----------------|-----------|-------|-----|
| 1 パナソニック | 11 | 176 | 187 |
| 2 ダイキン工業 | 13 | 106 | 119 |
| 3 日立製作所 | 13 | 80 | 93 |
| 4 トヨタ自動車 | 9 | 81 | 90 |
| 5 三菱電機 | 8 | 80 | 88 |
| 6 村田製作所 | 11 | 76 | 87 |
| 7 エヌ・ティ・ティ・データ | 12 | 61 | 73 |
| 8 デンソー | 2 | 65 | 67 |
| 9 野村総合研究所 | 6 | 59 | 65 |
| 10 本田技研工業 | 6 | 58 | 64 |
| 10 富士通 | 3 | 61 | 64 |
| 12 豊田自動織機 | 8 | 55 | 63 |
| 13 川崎重工 | 4 | 58 | 62 |
| 13 日産自動車 | 4 | 58 | 62 |
| 15 関西電力 | 9 | 52 | 61 |
| 16 京セラ | 8 | 48 | 56 |
| 17 積水化学工業 | 5 | 43 | 48 |
| 17 TIS | 1 | 47 | 48 |
| 19 日本電気 | 7 | 39 | 46 |
| 20 ローム | 10 | 35 | 45 |
| 20 小松製作所 | 4 | 41 | 45 |
| 22 三菱自動車工業 | 1 | 42 | 43 |
| 23 ダイハツ工業 | 8 | 33 | 41 |
| 23 西日本電信電話 | 3 | 38 | 41 |
| 23 メイテック | 2 | 39 | 41 |
| 26 スズキ | 3 | 37 | 40 |
| 26 LIXIL | 3 | 37 | 40 |
| 28 NTTドコモ | 5 | 32 | 37 |
| 28 アイシン | 3 | 34 | 37 |
| 28 オリジナル | 3 | 34 | 37 |
| 28 西日本旅客鉄道 | 2 | 35 | 37 |

| 企業・団体名 | 2022年4月採用 | 過去9年間 | 合計 |
|-------------------------|-----------|-------|-----|
| 1 滋賀銀行 | 9 | 145 | 154 |
| 2 GSユアサ | 7 | 174 | 181 |
| 3 日本生命保険 | 14 | 165 | 179 |
| 4 パナソニック | 14 | 135 | 149 |
| 5 三菱UFJ銀行 | 12 | 145 | 157 |
| 6 全日本空輸 | 0 | 123 | 123 |
| 7 東京海上日動火災保険 | 28 | 139 | 167 |
| 8 東京電力ホールディングス | 9 | 184 | 193 |
| 9 日清食品ホールディングス | 7 | 174 | 181 |
| 10 ジョンソン・エンド・ジョンソン | 14 | 165 | 179 |
| 11 リクルート | 11 | 163 | 174 |
| 12 国家公務員(一般職) | 22 | 147 | 169 |
| 13 地方公務員 | 28 | 139 | 167 |
| 14 滋賀銀行 | 10 | 153 | 163 |
| 15 GSユアサ | 8 | 155 | 163 |
| 16 日本生命保険 | 4 | 158 | 162 |
| 17 パナソニック | 12 | 145 | 157 |
| 18 三井住友銀行 | 9 | 145 | 154 |
| 19 東京海上日動火災保険 | 8 | 143 | 151 |
| 20 サヒ飲料 | 14 | 135 | 149 |
| 21 アクセンチュア | 23 | 122 | 145 |
| 22 国家公務員(総合職) | 15 | 108 | 123 |
| 23 積水ハウス不動産関西 | 0 | 123 | 123 |
| 24 阪急電鉄 | 8 | 80 | 88 |
| 25 京都府 | 11 | 76 | 87 |
| 26 京都市 | 12 | 61 | 73 |
| 27 公文教育研究会 | 2 | 65 | 67 |
| 28 山崎製パン | 6 | 59 | 65 |
| 29 楽天グループ | 6 | 58 | 64 |
| 30 良品計画 | 3 | 61 | 64 |
| 31 地方公務員(東京都、大阪府、京都市、他) | 8 | 55 | 63 |
| 32 損害保険ジャパン | 4 | 58 | 62 |
| 33 山崎製パン | 4 | 58 | 62 |
| 34 トリそなグループ | 9 | 52 | 61 |
| 35 みずほフィナンシャルグループ | 8 | 48 | 56 |
| 36 ゆうちょ銀行 | 5 | 43 | 48 |
| 37 三井住友信託銀行 | 1 | 47 | 48 |
| 38 野村証券 | 7 | 39 | 46 |
| 39 野村総合研究所 | 10 | 35 | 45 |
| 40 パナソニック | 4 | 41 | 45 |
| 41 ポッカサッポロフード&ビバレッジ | 1 | 42 | 43 |
| 42 アサヒビール | 8 | 33 | 41 |
| 43 カルビー | 3 | 38 | 41 |
| 44 コーセー | 2 | 39 | 41 |
| 45 アステラス製薬 | 3 | 37 | 40 |
| 46 武田薬品工業 | 3 | 37 | 40 |
| 47 塩野義製薬 | 5 | 32 | 37 |
| 48 小林製薬 | 3 | 34 | 37 |
| 49 タカラバイオ | 3 | 34 | 37 |
| 50 森永乳業 | 2 | 35 | 37 |
| 51 滋賀県 | 2 | 35 | 37 |
| 52 パナソニック | 2 | 35 | 37 |

| 工学系 | 化学系 | 環境システム学科 | 生命システム学科 |
|-----------------|--------|----------|------------------|
| トヨタ自動車 | 帝人 | 中部電力 | 三菱UFJ銀行 |
| 日産自動車 | DIC | 東日本旅客鉄道 | トリそなグループ |
| 川崎重工 | 大正製薬 | 西日本電信電話 | みずほフィナンシャルグループ |
| エヌ・ティ・ティ・データ | 明治 | ソニー | ゆうちょ銀行 |
| ENEOS | カゴメ | ダイキン工業 | 三井住友信託銀行 |
| 京セラ | 京セラ | 三菱ケミカル | 野村証券 |
| クボタ | パナソニック | 五洋建設 | 野村総合研究所 |
| 三菱電機 | マツダ | 滋賀県 | パナソニック |
| エヌ・ティ・ティ・データ | 島津製作所 | 武田薬品工業 | ポッカサッポロフード&ビバレッジ |
| オリジナル | パナソニック | 塩野義製薬 | アサヒビール |
| 野村総合研究所 | ダイキン工業 | 小林製薬 | カルビー |
| トヨタ自動車 | ソニー | タカラバイオ | コーセー |
| キャンノンメディカルシステムズ | | 森永乳業 | アステラス製薬 |
| 日本アイ・ピー・エム | | | |

※半数以上の学生が本学大学院に進学しています。

※半数以上の学生が本学大学院に進学しています。

| 文科系 | 理工系 |
|--------------------|-----------------|
| 日立製作所 | 三井住友銀行 |
| NTTドコモ | 野村証券 |
| 博報堂 | 全日本空輸 |
| 住友商事 | 西日本旅客鉄道 |
| 三井住友銀行 | 保健体育科教諭 |
| 社会福祉法人 | 各都道府県 警察 |
| 西松屋チェーン | 旭化成ファーマ |
| ヤマザナビスコ | LITALICO |
| USEN-NEXT HOLDINGS | 協和キリン |
| ロート製薬 | 象印マホービン |
| 日本航空 | 日本放送協会 |
| 全日本空輸 | アクセンチュア |
| 星野リゾートグループ | ジョンソン・エンド・ジョンソン |
| 伊藤忠商事 | アマゾン・ジャパン |
| テレビ朝日 | 私立学校教員(英語科) |

※2020年4月採用～2022年4月採用のデータです。 ※統合があった会社については、統合前の各会社への就職者数も含めて算出しています。 ※企業・団体名は2023年4月1日時点の名称を記載しています。

※統合があった会社については、統合前の各会社への就職者数も含めて算出しています。 ※企業・団体名は2023年4月1日時点の名称を記載しています。

入学試験

本学の入学試験は、高等学校教育を尊重しつつ、大学教育を受けるにふさわしい能力と適性を備えた人物を公正かつ妥当に選抜することを目的としています。

また、多様な学生を求めため、一般選抜入学試験のほか、大学入学共通テストを利用する入学試験、推薦選抜入学試験・自己推薦入学試験(公募制)やアドミッションズオフィス方式による入学者選抜(AO入試)、海外修学経験者(帰国生)入学試験、社会人特別選抜入学試験、さらに転入学・編入学試験、外国人留学生を選抜する試験などもあります。

▶一般選抜入学試験

大学入学後の学部教育に対応しうる学力を判定するために、筆記試験を実施しています。入試問題は長期間にわたって慎重に審議・検討を重ね、高等学校での着実な学習努力が報われるように難問や奇問を避け、公平で偏りのない出題に留意しています。

▶大学入学共通テストを利用する入学試験

大学入学共通テストを利用する入学試験は、学部・学科・方式によって選抜方法が異なります。大学入学共通テストの出題教科・科目のうち、各学部の指定する教科・科目の成績および個別学力検査などにより総合的に選抜する方法と、個別学力検査などは課さず各学部の指定する教科・科目の成績のみで選抜する方法があります。

▶推薦選抜入学試験・自己推薦入学試験(公募制)

学力・人物ともに優秀で、本学で学ぶことを強く希望する者が、学校長などの推薦を受けて、あるいは推薦を受けなくても出願できる制度です。学部・学科・コースによって、出願資格が異なります。

▶アドミッションズオフィス方式による入学者選抜(AO入試)

本学で学びたいという意志を持ち、かつ学力試験では評価できない多様な能力、大きな可能性を秘めている学生を積極的に迎え入れようとする能動的な選抜方式で、いわゆる「一芸一能入試」とは大きく異なります。書類(第一次審査)と面接等(第二次審査)で入学者を選抜します。自己紹介書、志望理由書、エッセイなど時間をかけて審査し、さらに直接会って、学習意欲や将来の可能性までを含めて総合的に評価し、入学者を決定します。出願資格を満たしていれば、自分の意志で出願することができる入試です。

▶海外修学経験者(帰国生)入学試験

スポーツ健康科学部では、本学の教育理念の一つである「国際主義」のさらなる発展のため、帰国生を含む海外修学経験者を対象とした入学試験を実施しています。

▶社会人特別選抜入学試験

生涯学習への関心など、時代のニーズに応え、勉学意欲旺盛な社会人を対象とした制度です。

▶外国人留学生入学試験

各学部・大学院では、本学での教育・研究を希望する外国人を対象とした入学試験を実施しています。来日することなく入学許可が得られる渡日前入学許可制度も実施しており、毎年多数の外国人留学生が入学しています。受け入れ身分には正規学生(学部・大学院を卒業・修了する目的で入学する者)および特別学生(大学院で特定の科目を履修・研究指導を受ける者)があります。

▶国際教育インスティテュート入学試験

国際教育インスティテュートが行う入試は、海外での学習経験や国際バカロレア資格を有する方および国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)の認定を受けたインターナショナル・スクールで12年の課程を修了される方も対象にしています。授業は英語で行われるため、出願にはTOEFL iBT[®]テスト、IELTS[™]、Duolingo Englishテストの一定以上のスコア取得が必要です。書類審査と面接により可否を決定します。経歴に応じて、入学時期は4月または9月の選択が可能です。第3年次転入学・編入学試験は、定員に欠員がある場合に実施します。実施の有無は、国際教育インスティテュート事務室に事前にお問い合わせください。



▶転入学・編入学試験

第2年次転入学・編入学試験は、日本国内や外国の4年制大学の第1年次修了(見込)者、および学部によっては大学第2年次修了(見込)者、短期大学卒業(見込)者、高等専門学校卒業(見込)者など、入学試験要項に記載の出願資格を有する入学志願者について、転入学・編入学試験を行い、選考の上、学部第2年次からの転入学・編入学を許可する制度です。

第3年次転入学・編入学試験は、日本国内や外国の4年制大学第2年次修了(見込)者、短期大学卒業(見込)者、高等専門学校卒業(見込)者、および学部によっては専修学校専門課程修了(見込)者など、入学試験要項に記載の出願資格を有する入学志願者について、転入学・編入学試験を行い、選考の上、学部第3年次からの転入学・編入学を許可する制度です。

※2024年度入試で募集する入試区分、学部・学科・コースなどについては、必ず各入学試験要項で確認してください。

▶ 入学試験要項などの入手方法

| 種類 | 要項発表 | 料金 | 入手方法 | お問い合わせ先 |
|---|-----------|----------------------|---|---|
| 一般選抜入学試験・ 大学入学共通テストを 利用する入学試験 | 11月1日(予定) | 無料 | ▶ 本学ウェブサイトから申し込み ▶ 本学門衛所(受付)で入手 ▶ 同志社大学東京サテライト・キャンパス、大阪サテライト・キャンパスで入手 | 入学センター入学課 TEL: 075-251-3210 FAX: 075-251-3082 E-mail: ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp |
| 推薦選抜入学試験・ 自己推薦入学試験(公募制) アドミッションズオフィス方式による 入学選抜(AO入試) | 6月1日(予定) | 1,000円(送料含む) (予定) | ▶ 本学ウェブサイトから申し込み* ▶ 本学門衛所(受付)で入手 ▶ 同志社大学東京サテライト・キャンパス、大阪サテライト・キャンパスで入手 | 詳しくはこちら  |
| 海外修学経験者(帰国生)入学試験 | 5月上旬(予定) | | | |
| 社会人特別選抜入学試験 第2年次転入学・編入学試験 第3年次転入学・編入学試験 | 6月1日(予定) | | | |
| 国際教育インスティテュート 入学試験 | 5月下旬(予定) | 無料 | ▶ webサイト「国際教育インスティテュート」からダウンロード ▶ 国際教育インスティテュート事務室で入手 | 国際教育インスティテュート事務室 TEL: 075-251-3302 FAX: 075-251-3304 E-mail: ji-ila@mail.doshisha.ac.jp URL: https://ila.doshisha.ac.jp/ |
| 外国人留学生入学試験 | 学部 | 5月中旬(予定) | ▶ webサイト「同志社大学への留学を希望される方」からダウンロード ▶ webサイト「同志社大学への留学を希望される方」から申し込み ▶ 国際センター留学生課で入手 | 国際センター留学生課 TEL: 075-251-3257 FAX: 075-251-3123 E-mail: ji-intad@mail.doshisha.ac.jp URL: https://intad.doshisha.ac.jp/ |
| | 大学院 | 6月下旬(予定) | | |

*料金は要項到着後に同封の払込取扱票で郵便局から振り込んでください。

◎入学試験の種類によっては、インターネットによる出願をご利用いただけるものもあります(詳細は各入学試験要項をご覧ください)。

▶ 都道府県別志願者・合格者数

(2023年度一般選抜入学試験)

合格者数/志願者数

北陸・甲信越

新潟 46/146
富山 109/270
石川 160/396
福井 113/269
山梨 28/96
長野 70/219

東北

青森 6/16
岩手 5/12
宮城 13/59
秋田 3/12
山形 2/17
福島 5/21

北海道

93/350

東海

岐阜 288/779
静岡 332/821
愛知 1,837/4,511
三重 228/708

関東

茨城 28/147
栃木 25/63
群馬 21/55
埼玉 42/204
千葉 50/172
東京 211/770
神奈川 70/311

四国

徳島 65/156
香川 149/478
愛媛 114/308
高知 32/145

中国

鳥取 37/135
島根 37/94
岡山 251/630
広島 406/1,078
山口 69/248

九州・沖縄

福岡 387/1,170
佐賀 24/101
長崎 16/53
熊本 35/157
大分 24/71
宮崎 29/89
鹿児島 52/186
沖縄 42/192

近畿

滋賀 631/1,860
京都 1,179/3,517
大阪 3,572/10,478
兵庫 2,020/5,358
奈良 807/2,531
和歌山 190/440

検定・その他
73/258

▶ 学部入試情報サイト

最新の入試情報、オープンキャンパスや入試説明会といったイベントに関するお知らせなど、受験生に役立つ情報をお届けしています。大学・学部紹介や入試説明、在学生による座談会等さまざまな動画の視聴や各種資料・要項の請求も可能です。

同志社大学入学センター 入学課 TEL:075-251-3210



詳しくはこちら

▶ キャンパスツアー

今出川 同志社の歴史と伝統に触れる

同志社大学の学生ガイドが、今出川キャンパスを案内します。重要文化財である明治建築の建物から、意外なエピソードを秘めた隠れた名所まで、多くの見どころが同志社大学の歴史と伝統を物語っています。

同志社大学広報部広報課 TEL:075-251-3120



キャンパスツアー

京田辺 恵まれた自然と最先端のキャンパスを見学

京田辺キャンパスは、790,000㎡の広大な敷地に最先端の研究・実験設備や体育施設を備えています。ツアーでは、設備の整った校舎やグラウンドをはじめ、キャンパス内に点在する遺跡群や貴重な出土物を展示する歴史資料館などを学生ガイドがご案内します。

同志社大学京田辺校地総務課 TEL:0774-65-7007



詳しくはこちら

▶ 大学入学準備講座

大学で必要とされる学習の質と量を示し、学部選択の参考としてもらうことを目的として、高校生を対象とした「大学入学準備講座」を開講しています。本学の教員が、それぞれの専門分野で扱う内容からテーマを選び、実際の大学の講義を体験していただきます(受講は無料です)。

対象:高校生(主に1・2年生)

日程:9月下旬~12月上旬の土曜日(予定) 申込受付:9月初旬(予定)

同志社大学学習支援・教育開発センター TEL:075-251-3277



詳しくはこちら

▶ ガールズサイエンスキャンプ

中学1年生~高校3年生の主に女子生徒を対象に、同志社大学の施設などにてサイエンスキャンプを実施します。実験講義や工場見学、外国人女子留学生による「科学と英語」講座など、「理系の楽しさ」を実感できる体験型学習を提供しています。

対象:文理選択に迷う女子中高生(男子中高生も応募可)

日程:8月上旬(予定)

場所:同志社大学 申込受付:6月中旬~7月中旬(予定)

サイエンスキャンプ事務局(同志社大学理工学部・理工学研究所事務室内)
TEL:0774-65-6212



詳しくはこちら

クラブ・サークル

仲間と出会い、人間力を磨く

クラブ・サークルは、自主的な活動を通じてコミュニケーション力、チームワーク、対人力、忍耐力、決断力など、社会で必要とされる人間力を総合的に磨くとともに、同志社人としてのアイデンティティを高めるフィールドでもあり、自主自立をうたう同志社教育の一翼を担っています。

▶ 課外活動団体リスト(公認団体)

体育会

体育会本部/スポーツアトム編集部

アーチェリー部/合気道部/アイスホッケー部/アメリカンフットボール部/バドミントン部/馬術部/バレーボール部/バスケットボール部/ボードセーリング部/ボクシング部/ボート部/ボウリング部/フェンシング部/フィギュアスケート部/ゴルフ部/ハンドボール部/居合道部/自動車部/自転車競技部/準硬式野球部/柔道部/カヌー部/空手道部/剣道部/航空部/硬式野球部/弓道部/軟式野球部/日本拳法部/ラグビー部/ラクロス部/レスリング部/陸上ホッケー部/陸上競技部/サッカー部/山岳部/射撃部/少林寺拳法部/ソフトボール部/ソフトテニス部/水泳部/スキー部/相撲部/スピードスケート部/体操競技部/卓球部/テニス部/ワンダーフォーゲル部/ヨット部/トライアスロン部/フットサル部

スポーツ系団体

剣練会/卓球同好会/バスケットボールクラブINTENSITY/テコンドー部/バスケットボールクラブWILD CATS/拳友会/同志社プロレス同盟/Du&Do バドミントンハウス/硬式テニス同好会/軟式テニス同好会/ラグビー同好会H&T/サッカー同好会三ツ葉キッカーズ/ゴルフ同好会/アルティメットサークル同志社Magic/ハイキング同好会/山岳同好会/ルナティックス・スキークラブ/山岳スキー部/同志社サイクリングクラブ/ヨットクルージングクラブ/釣研究会(DAS)/FCブルーローバーズ/熱気球チーム

文化系団体

人文科学研究ブロック

文学研究会/地学研究会/考古学研究会/京都研究会/歴史美術研究会/史跡同好会

自然科学研究ブロック

電気情報研究会/星の会/機械研究会/ロボット研究会/天文同好会

社会科学研究ブロック

同法会/法学研究会/会計学研究会/政治学研究会

国際研究ブロック

E.S.A./E.S.S./グッドサマリタンクラブ/国際経済商学学生協会(アイセック)/国際交流サークルDESA/国際居住研究会/KOREA文化研究会/模擬国連(MUN)/学生団体CHAD

伝統文化ブロック

茶道部/志清会/書道部/同志社競技かるた同好会

写真ブロック

フォトクラブ/カメラクラブ/写真同好会/卒業アルバム委員会

芸術ブロック

ART-SOZO/クラマ画会/neuf/陶芸サークル「土夢」/漫画研究会

映像ブロック

映画研究会/F.B.I.

文化系1ブロック

同志社ミステリ研究会/模型研究会/将棋研究会/アニメーション・ヴォイス研究会/SF研究会/同志社VOCALOID研究会Arpeggio

文化系2ブロック

鉄道同好会/ワーキングコーラス/ユース・ホステル・クラブ/同志社ヒーローショー同好会/Shinmachi Activate Project/ASUVID京田辺

軽音ブロック

フォーク・アライブ・クラブ(F・A・C)/Folk Song Society(F.S.S.)/軽音楽部/軽音楽研究会(I.P.C.)/LOVE & FREE/ライラックレインボーズ/サザン・マウンテン・ミュージック研究会(S.M.M.A.)/とんがりぼうし

音楽ブロック

ギタークラブ/交響楽団/マンドリンクラブ/ピアノ研究会/ハンドベル・クワイア/同志社室内楽団

合唱ブロック

学生混声合唱団C.C.D./グリークラブ/混声合唱団こまくさ/コールフレューゲル/リーダー・クランツ/One Voices/同志社学生聖歌隊

演劇ブロック

第三劇場/演劇集団Q/同志社小劇場/喜劇研究会/京田辺・演劇ないん会

伝統芸能ブロック

雅楽会/邦楽部/能楽部金剛会/能楽部観生会/能楽部宝生会/能楽部狂言会

応援団

指導部/吹奏楽部/チアリーダー部

メディアブロック

学生放送局/学生新聞局/学生テレビ局/広告研究会add's

表現ブロック

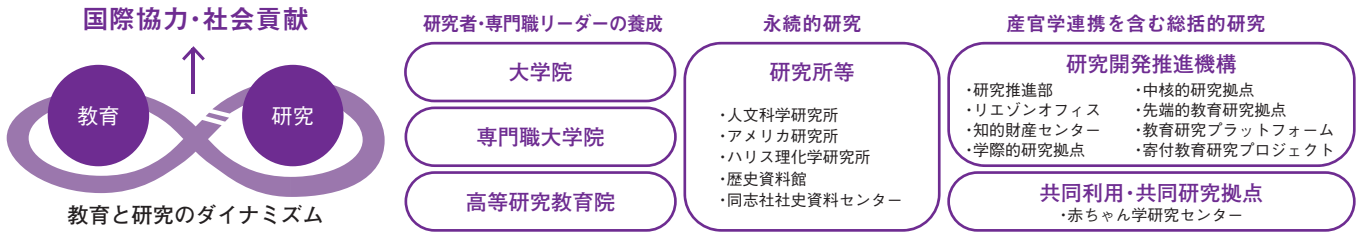
マジック&ジャグリングサークルHocus-Pocus/よさこいサークルよさ朗/Meahula Nohealani/タップダンスサークルShimSham/Soul2Soul



研究

同志社大学の研究体制 [教育とのダイナミズムを形成する]

本学では多彩な教育と最先端の研究のダイナミズムの中で、新たな世界観、生き方、多様性を創出し、社会に貢献することができる総合的な人間力を育てています。今出川、京田辺の両校地では濃密に集結する各分野の最先端研究に触れることができます。



▶ 大学院

近年、高度専門職養成の場としての社会的役割が増してきている大学院。標準修業年限2年の博士課程(前期課程)および修士課程と、標準修業年限3年の博士課程(後期課程)、標準修業年限5年の一貫制博士課程があります。

大学院の学びをサポートする制度

- **奨学金制度**
同志社大学大学院奨学金など利用しやすい奨学金制度が用意されています。
- **外国協定大学派遣留学生制度**
外国協定校の大学・大学院に留学できる制度です。留学先大学の授業料は原則として免除されます。
- **関西四大学大学院単位互換制度**
関西大学、関西学院大学、立命館大学での大学院授業科目が履修できる制度です。
- **研修生制度**
修士学位を得た後、さらに高度に能力を高めたいと希望し、許可されれば、研修生として修学を許可する制度を設けています。
- **研究生制度**
博士課程後期課程に6年間、または一貫制博士課程に8年間在学した者が、希望し、許可されれば、研究生として研究指導を受けることができる制度を設けています。
- **長期履修学生制度**
事情により、定められた年限で履修・修了が難しい学生に限り、標準修業年限を超えて履修することを認める制度です(詳しくは各研究科事務室にお問い合わせください)。

▶ 専門職大学院

専門職大学院は、専門分野の高度な知識や技能を持つ専門職として、社会で実務的に活躍するための学びを目的としています。本学では司法とビジネスに関する専門職課程を設けています。

司法研究科 (法科大学院)

同志社の法学教育・良心教育の歴史を受け継ぎ、社会のニーズに対応する力を備えた法曹を養成します。司法試験に備える基本七法を、習熟度別クラス編成によりきめ細かく指導しています。高度の専門能力を涵養する展開・先端科目も手厚く指導し、特に、段階的に学び、実地研修を加えた外国法教育、渉外法務分野のカリキュラム・留学支援体制は高く評価されています。法学部との連携により早期卒業を活用した法曹養成についても先駆者の実績を誇り、京都大学法科大学院との連携事業も年々拡充しています。

ビジネス研究科 (ビジネススクール)

ビジネス研究科のミッションは、「同志社建学の精神である良心教育と京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する」というものです。このミッションに基づき、「責任ある経営」[革新(イノベーション)]「リーダーシップ」を学習目的とした教育を行っています。

ビジネス研究科は、社会人を対象としたビジネス専攻(専門職学位課程)と、英語で学位を取得できるグローバル経営研究専攻(修士課程)があります。ビジネス専攻では、幅広い専門分野をカバーし、大阪での受講も可能です。グローバル経営研究専攻では、世界各国からの留学生とともに学び合いながら、国際ビジネスリーダーを育てます。

| | 博士課程(前期課程) または修士課程 | 博士課程(後期課程) |
|---------------------|--|--|
| ■ 神学研究科 | 神学専攻 | 神学専攻 |
| ■ 文学研究科 | 哲学専攻 英文学・英語学専攻 文化史学専攻 国文学専攻 美学芸術学専攻 | 哲学専攻 英文学・英語学専攻 文化史学専攻 国文学専攻 美学芸術学専攻 |
| ■ 社会学研究科 | 社会福祉学専攻 メディア学専攻 教育文化学専攻 社会学専攻 産業関係学専攻 | 社会福祉学専攻 メディア学専攻 教育文化学専攻 社会学専攻 産業関係学専攻 |
| ■ 法学研究科 | 政治学専攻 私法学専攻 公法学専攻 | 政治学専攻 私法学専攻 公法学専攻 |
| ■ 経済学研究科 | 理論経済学専攻 応用経済学専攻 | 経済政策専攻 |
| ■ 商学研究科 | 商学専攻 | 商学専攻 |
| ■ 総合政策科学研究科 | 総合政策科学専攻 | 総合政策科学専攻 |
| ■ 文化情報科学研究科 | 文化情報学専攻 | 文化情報学専攻 |
| ■ 理工学研究科 | 情報工学専攻 電気電子工学専攻 機械工学専攻 応用化学専攻 数理環境科学専攻 | 情報工学専攻 電気電子工学専攻 機械工学専攻 応用化学専攻 数理環境科学専攻 |
| ■ 生命医学研究科 | 医工学・医情報学専攻 医生命システム専攻 | 医工学・医情報学専攻 医生命システム専攻 |
| ■ スポーツ健康科学研究科 | スポーツ健康科学専攻 | スポーツ健康科学専攻 |
| ■ 心理学研究科 | 心理学専攻 | 心理学専攻 |
| ■ グローバル・スタディーズ研究科 | グローバル・スタディーズ専攻 | グローバル・スタディーズ専攻 |
| ■ 脳科学研究科 | [一貫制博士課程] 発達加齢脳専攻 | |
| ■ 司法研究科(法科大学院) | [専門職学位課程] 法務専攻 | |
| ■ ビジネス研究科(ビジネススクール) | [専門職学位課程] ビジネス専攻 [修士課程] グローバル経営研究専攻 | |

▶ 研究所

同志社大学は各学部内での独立した研究だけでなく、大学内共同研究の環境を整備し、本学の独自性を持った研究を展開しています。

人文科学研究所

人文科学研究所は、1944年「同志社大学研究所」として発足し1957年に今日の名称となりました。広く人文・社会科学の諸分野にわたって専門の学術の理論・応用に関する総合的研究を行い、学内外において文化の創造と発展に寄与することを目的としています。第1の活動は、学際的な共同研究の推進です。3年を1サイクルとする部門研究会を複数設置し、学内外の研究者による活発な研究活動が展開されています。その成果は『キリスト教社会問題研究』（年1回刊）、「社会科学」（年4回刊）の機関誌や研究叢書などの刊行物、公開講演会・公開講座の場で発表しています。第2の活動は、日本の近現代史関係の資料の収集・管理・公開です。特にキリスト教と日本の社会問題との関係資料や、京都を始めとする近現代日本の地域資料を多く所蔵しており、学内外に公開することで当該分野の研究に貢献しています。

アメリカ研究所

アメリカ研究所は、アメリカ研究の振興と日米相互理解の促進を目的として、1958年に設立されました。以来、日本のアメリカ研究をリードする拠点となり、学内外の研究者による学際的な研究が行われてきました。2023年には設立65周年を迎え、さらに日本と世界のアメリカ研究に寄与する決意を新たに、現在に至っています。本研究所は、約10万冊を超える蔵書、マイクロフィルムなどの一級の研究資料を備え、学内外に広く公開しています。本研究所の特色を活かした共同研究が7部門にわたり行われており、それらの成果は、定期刊行誌『同志社アメリカ研究』、単行本、学術雑誌などで発表されています。また研究所では、国内や海外の優れた研究者による公開講演会やコロキウムも適宜開催しています。

ハリス理化学研究所

創立者新島襄の科学への熱意に共鳴したJ.N.ハリスの寄付により、1890年に設立された「ハリス理化学学校」を前身としています。独自の先進的な研究の一方、全学の自然科学教育も担い、国内外との共同研究も実施。その一つ「部門研究」では、5つ

のテーマで研究を展開しています。さらに数々の業績をあげた故・加藤与五郎博士（ハリス理化学学校出身）の遺志を継承し、学生の教育・研究の活性化にも注力。創造科学教育夏期研修の開催や、研究奨励金の給付を行っています。

▶ 研究開発推進機構

先端的・学際的な研究拠点を形成し、また総括的に研究活動を支援するために、教育研究拠点群と支援組織を構成し、研究成果の教育への還元や社会貢献に取り組んでいます。

研究推進部

研究推進部は、学外資金の獲得をはじめとする研究力強化のために、本学の学術研究活動の推進、研究戦略の検討・提言、若手研究者の養成を担います。研究推進部はリサーチ・アドミニストレーション機能を有し、本学や大学を取り巻く研究開発推進に関する現状の調査・分析・評価、研究戦略の検討・提言、および学術研究活動の推進・支援に必要な新たな制度、事業を提案し、本学の研究活動の充実と発展に寄与することを目的としています。

教育研究プラットフォーム

教育研究プラットフォームは産官学連携を基軸とし、教育、研究、特に研究成果の社会実装や事業化を推進し、人類共通の課題解決への提案や貢献を目的として設置しています。

カーボンサイクル教育研究プラットフォーム

持続可能な社会構築のための「カーボンサイクル」をテーマとした産官学の連携を基軸にして、教育、研究および研究成果の社会実装を推進することを目的としており、カーボンニュートラルを実現するだけでなく、CO₂リサイクル社会として、これまで解決が困難とされていた諸問題を一気に解決する可能性を秘めた、まさに次世代を支える革新的な技術基盤の形成を目指しています。

リエゾンオフィス・知的財産センター

リエゾンオフィスは、大学と産業界、国・自治体、地域社会とを結ぶ「窓口」となり、研究成果を基に広く社会と連携することを目的としています。全学的な組織として、学際的な産官学共同事業にも対応しながら、新しい産業やビジネスの創出を目指します。一方で、総合大学としての本学の機能をトータルコーディネートし、技術や研究に関するアドバイスや相談などのサービスを提供できる体制を整えています。

知的財産センターでは、教育・研究成果などの知的財産を創出する支援を行います。知的財産を保護し、増強するだけでなく、社会への還元と活用を通して社会に貢献することを目的としています。学生や教職員の知的財産創出の支援、知的財産の権利化や維持・管理、知的財産のライセンス活動といった事業を通して、本学の知的財産を活用して社会に新しい活力をつくり出す重要な拠点として、今後も多彩な活動を展開します。

先端的教育研究拠点

卓越した教育研究拠点またはこれに相当する先端的教育研究拠点形成事業の中核となる研究センターなどで構成されます。

宇宙生体医工学研究プロジェクト

宇宙生体医工学による「人間の健康」をテーマに、地球上の歩行困難者への新規運動療法やリハビリテーション、肥満症の予防などに貢献する研究を進めます。

同志社ダイキン「次の環境」研究センター

ダイキン工業株式会社との連携協力により、環境課題をテーマにした実践的研究開発を推進し、「協創イノベーション人材」の育成にも取り組みます。

エネルギー変換研究センター

人類が存続可能な地球環境の維持のため、環境調和型エネルギー変換に関わる基礎学問分野と応用技術の融合を目指し、先駆的かつ体系的な研究を行います。

▶ 歴史資料館

国内外での学術的な調査研究活動によって収集された100万点を超える考古・民族・民俗資料、古文書(重要文化財を含む)・浮世絵などの歴史資料を収集・展示しています。今出川校地とその周辺は、室町幕府の「花の御所」や江戸時代の薩摩藩邸や公家屋敷があった地域です。キャンパス内での発掘調査で出土した、古代から近世に至る膨大な資料の整理・研究も継続しています。京田辺校地には田辺天神山遺跡・下司古墳群・大御堂裏山古墳(いずれも京都府指定史跡)など随所に遺跡が保存されています。

▶ 同志社社史資料センター

同志社社史資料センターは1963年に設置された同志社社史史料編集所を前身とし、2004年5月に発足しました。センターの目的は、創立者新島襄や同志社諸学校に関係する史資料を収集、整理、保存、活用して、創立以来の歴史と伝統を後世に継承し、同志社の教育活動の充実と発展に寄与することです。この目的に従い、研究紀要(『同志社談叢』『新島研究』)の発行や研究会の開催、ハリス理化学館同志社ギャラリーでの展示活動(常設展示と企画展示)や公開講演会を通じて、同志社の歴史や建学の精神に関する有形無形の啓蒙活動を実施しています。また、『同志社百五十年史』の編纂事業も行っています。

※2023年4月1日現在

学際的研究拠点・中核的研究拠点

同志社大学では、文理融合や領域横断による創造的研究活動を推進し、学術研究の進展および新しい研究分野の開拓に資することなどを目的として、研究センターを設置しています。各研究センターは、機能別に「学際的研究拠点」「中核的研究拠点」のいずれか

の拠点として活動し、研究活動の戦略的活性化をさらに推進しています。また、本学の多くの専任教員が研究員として加わるだけでなく、外部資金の積極的な導入を図り、特定任用研究員、特別研究員などを迎え、より高度な研究拠点の構築を目指しています。

学際的研究拠点

国内外の研究機関や企業・自治体等との持続的な連携活動や共同研究に取り組む研究拠点の形成を目指す研究センターで構成されます。

技術・企業・国際競争力研究センター／ライフリスク研究センター／高等教育・学生研究センター／先端複合材料研究センター／〈奄美・沖縄・琉球〉研究センター／超音波医学研究センター／高機能微粒子研究センター／京都と茶文化研究センター／先端バイオマテリアル研究センター／良心学研究センター／フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター／南シナ海研究センター／Well-being研究センター／バイオマイクロフルイディクサイエンス研究センター／次世代科学技術社会コミュニケーション研究センター／国際インフラシステム研究センター／中小企業マネジメント研究センター／スポーツ傷害予防研究センター／人工知能工学研究センター／スポーツマネジメント研究センター／ヒューマン・ディグニティ研究センター／メカノバイオロジー研究センター／古典教材開発研究センター／文化財保護研究センター／宮廷文化研究センター／AI×ヒューマニティ研究センター／ジャーナリズム・メディア・アーカイブス研究センター／社会価値研究センター／ダイバーシティ研究センター／細胞保護再生システム研究センター／病態解析研究センター／スポーツセンシング研究センター

中核的研究拠点

国際連携、社会連携、産学連携などの連携事業拠点として研究活動の多様性を担う研究拠点の形成を推進する研究センターで構成されます。

一神学際研究センター／コリア研究センター／モビリティ研究センター／ナノ・バイオサイエンス研究センター／創造経済研究センター／実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター／先端パワートレイン研究センター／国際取引・国際法務研究センター／宇宙医学研究センター／文化遺産情報科学調査研究センター／超音波応用科学センター／スポーツ医学研究センター／ラテンアメリカ研究センター／神経変性疾患研究センター／言語生態科学研究センター／働き方と科学技術研究センター／STEM人材研究センター／自己組織化科学研究センター／行動神経科学研究センター／デジタル法制研究センター／インクルーシブ防災(i-BOSAI)研究センター／法と社会政策研究センター／ソーシャルマーケティング研究センター／若者と社会研究センター／地域紛争研究センター／都市共生研究センター／音響ナビゲーション研究センター／「間・帝国史」研究センター／社会調査研究センター／火災ガス中毒治療薬開発研究センター／サイエンスコミュニケーション研究センター

※2023年4月1日現在

寄付教育研究プロジェクト

寄付教育研究プロジェクトは、個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。研究センターとともに独創的な研究拠点の形成を目指しています。また、個性豊かな授業科目や公開講座などの寄付講座も開設しています。

アンチエイジングリサーチセンター

加齢に伴う生体の退行性変化を科学的な手法(プロテオミクス、ゲノミクス解析)で捉え、その原因の一つとして注目される抗糖化に関わる研究の体系化を行います。

糖化ストレス研究センター

糖化ストレスは還元糖やアルデヒド負荷による生体への負の影響で老化や疾患を進行させる因子の一つです。そのメカニズムの解明や制御は抗加齢医学の観点から重要です。本プロジェクトでは糖化ストレス測定方法の構築、抗糖化作用を有する食品や化粧品素材の探索、終末糖化産物(AGEs)の蓄積抑制に関する研究を行います。

産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト

ビジネス研究科を開設部署とし先端技術産業分野でグローバルな事業展開を行っている株式会社SCREENホールディングスの協力を得て実施しているプロジェクトです。2020年度の開始以来、同社の実践的な事業経験を踏まえた授業を展開するとともに、2021年度には企業活動の社会価値評価などの共同研究に着手、2022年度から正規科目としてインターンシップ科目を開設しています。

▶ 共同利用・共同研究拠点

赤ちゃん学研究センター

赤ちゃん学研究センターは発達科学や発達神経科学あるいは情報科学などをはじめとした多様な学問領域の融合による「赤ちゃん学」に基づいて、認知行動や社会性などの発達のメカニズムやプロセスを明らかにするという基礎研究と、その研究成果を育児や保育あるいは教育に携わる人に還元することを目的としています。また、2016年度からは文部科学省による「共同利用・共同研究拠点」事業において赤ちゃん学研究拠点として認定され、大学その他の研究機関などの研究者との共同利用・共同研究を推進しています。

▶ 高等研究教育院

学問分野・領域に共通する基礎能力の涵養を目的とした大学院教育プログラムの開発・実施に取り組んでおり、研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0-AIデータサイエンス副専攻プログラム」の他、2021年度に開設した「アドバンス・リベラルアーツ科目群(ALA科目群)」の下、ダイキン工業株式会社との連携に基づく「次の環境」協創コースや博士課程教育リーディングプログラムを継承するグローバル・リソース・マネジメント(GMR)コースを実施しています。



その他にも、学部・研究科が開発・実施する特色ある教育プログラム「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」の強化・支援および全学波及に向けた取り組みや、学部生を対象とし、総合知を備えた次世代を担う人物を養成するリーダー養成教育プログラム「新島塾」を実施しています。



詳しくはこちら

学生納付金

2024年度入学生の諸会費については金額を変更する場合があります。確定した学生納付金は、本学webサイトで公表します。



(単位：円)

▶ 学生納付金 (2024年度入学生)

| | 第1年次合計 (入学手続時納入必要額) | 学費(年額) | | | 諸会費 | |
|-------------------|------------------------|---------|-----------|---------|--------|-------|
| | | 入学金 | 授業料 | 教育充実費 | 学会費 | 父母会費 |
| 神学部 | 1,128,000(664,000) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 2,000 | — |
| 英文学科 | 1,135,000(667,500) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 5,000 | 4,000 |
| 文学部 | | | | | | |
| 哲・美学芸術・文化史学科 | 1,134,000(667,000) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 4,000 | 4,000 |
| 国文学科 | 1,136,000(668,000) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 6,000* | 4,000 |
| 社会学部 | 1,135,000(667,500) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 5,000 | 4,000 |
| 法学部 | 1,134,000(667,000) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 8,000 | — |
| 経済学部 | 1,135,500(667,750) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 4,500 | 5,000 |
| 商学部 | 1,136,000(668,000) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 5,000 | 5,000 |
| 政策学部 | 1,133,000(666,500) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 7,000 | — |
| 文化情報学部 | 1,251,000(725,500) | 200,000 | 873,000 | 176,000 | 2,000 | — |
| 理工学部 | | | | | | |
| 数理システム学科を除く | 1,712,000(956,000) | 200,000 | 1,264,000 | 246,000 | 2,000 | — |
| 数理システム学科 | 1,635,000(917,500) | 200,000 | 1,187,000 | 246,000 | 2,000 | — |
| 生命医科学部 | 1,719,000(959,500) | 200,000 | 1,264,000 | 246,000 | 2,000 | 7,000 |
| スポーツ健康科学部 | 1,290,000(745,000) | 200,000 | 906,000 | 176,000 | 3,000 | 5,000 |
| 心理学部 | 1,316,000(758,000) | 200,000 | 923,000 | 184,000 | 3,000 | 6,000 |
| グローバル・コミュニケーション学部 | 1,262,000(731,000) | 200,000 | 873,000 | 184,000 | 5,000 | — |
| グローバル地域文化学部 | 1,131,000(665,500) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | 5,000 | — |
| 国際教育インスティテュート | 1,126,000(663,000) | 200,000 | 763,000 | 163,000 | — | — |

(単位：円)

| | 授業料 | 教育充実費 |
|--|-----------------------|---------|
| 神・文・社会・法・経済・商・政策・グローバル地域文化学部/国際教育インスティテュート | 第2・3・4年次 963,000 | 163,000 |
| 文化情報学部 | 第2・3・4年次 1,073,000 | 176,000 |
| 理工・生命医科学部(理工学部 数理システム学科を除く) | 第2・3・4年次 1,464,000 | 246,000 |
| 理工学部 数理システム学科 | 第2・3・4年次 1,387,000 | 246,000 |
| スポーツ健康科学部 | 第2・3・4年次 1,106,000 | 176,000 |
| 心理学部 | 第2・3・4年次 1,123,000 | 184,000 |
| グローバル・コミュニケーション学部 | 第2・3・4年次 1,073,000 | 184,000 |

1) 入学金は初年度のみ徴収します。
文化情報学部、理工学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部及び心理学部では、2022年度以前の入学生の学費は、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料の合計額となっていたが、2023年度以降の入学生の学費は、実験実習料を授業料に一体化し、授業料の中に従前の実験実習料に相当する額が含まれています。

2) 授業料・教育充実費については、各々2分の1が春学期学費および秋学期学費です。

3) 入学手続時納入必要額とは、入学金全額と、春学期学費および諸会費の2分の1です。
* 文学部国文学科の学会費は、文化学会費(4,000円)と、国文学会費(2,000円)を徴収します。
* 学会について 各学会は、機関誌の発行等を通じ、本学の教育研究活動に寄与することを目的に設置されています。
* 父母会について 各父母会は、本学の教育の充実と発展を目的に設置されています。

4) 第2年次から第4年次の学費は、毎年度上表のとおり徴収します。
注) 諸会費として、学会費(第1年次と同額)を毎年徴収します。
文学部・社会学部・経済学部・商学部・生命医科学部・スポーツ健康科学部・心理学部については、父母会・教員父母連絡会費(第1年次と同額)を毎年徴収します。
また、第4年次には全学部生から校友会費を、法学部・経済学部・商学部・理工学部・心理学部生から当該学部の卒業生団体費を徴収します。グローバル・コミュニケーション学部では、上記の他、Study Abroad(留学)の費用が必要です。

校友ネットワーク

世界に広がる同志社ネットワーク [卒業生がつなげる交流の輪]

同志社校友会は同志社の発展に寄与するという目的を掲げ、支部の基盤を強化し、大学事業支援、学生支援、卒業後の社会人活動支援に軸を置いて活動を行っています。近年は海外支部との連携も深まり、大学のグローバルな展開の支援も行っています。

▶ 同志社校友会

同志社校友会 Doshisha Alumni Association は、同志社設立10年後の1885年に「アルムニ会」として卒業生による同窓会を発足したのが、同志社校友会の始まりです。その目的は、卒業生の親睦と大学との連携を通じて学生や大学を支援することです。現在、約36万人の会員となり、国内はもとより、世界各地に支部があります。

活動の概要

①卒業生と繋がる同志社校友会

2022年12月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在し、本部と連携しながら活動を行っています。「地元へ転職をしたい」、「転職になって慣れない土地で生活するのが不安」、「海外での勤務は家族も心配している」など、社会に出てから課題を抱える卒業生に対して、現地の校友がサポートをしています。ホームページに各支部の連絡先を掲載しています。
<https://www.doshisha-alumni.gr.jp/shibu/shibu01.html>



②大学と繋がる同志社校友会

同志社大学と連携した学生へのサポート活動を行っています。
・同志社大学が掲げる「VISION2025」の推進を目的とした「リーダー育成事業支援」、「グローバル人材育成」への支援やその財源となる「同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金」の活動支援等
・同志社ルーム記念館プロジェクト等の「京田辺キャンパス活性化支援」、同志社フェアなどのイベントを通じた大学のプレゼンス向上のための「同志社ゆかりの地連携支援」

③学生を支える同志社校友会

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて教育と学生生活の充実がはかれるサポートを行っています。また、学生緊急支援制度を設けており、コロナ禍においては経済困窮学生の食生活を支援しました。

同志社校友会事務局

〒602-0867 京都府京都市上京区寺町通丸太町上る松蔭町140-4
TEL 075-251-4393 E-mail info00@doshisha-alumni.org



同志社大学 校友課

同志社大学では卒業生(校友)との密接なネットワークづくりを推進するため、広報誌「One Purpose」の送付、校友向けメールマガジンの配信など、大学のさまざまな情報を提供しています。また、11月には約2,000人の卒業生が母校に帰るホームカミングデーとリユニオンを開催しています。



ホームカミングデー

同志社大学 校友課

〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL:075-251-3009
FAX:075-251-3097
E-mail : ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp



卒業生ページ



専任教員スタッフ・研究分野一覧

神学部

●神学科

| | | |
|------------------|-----|----------------------|
| Ada Taggar-COHEN | 教授 | ユダヤ学・聖書学・古代近東の宗教と歴史 |
| 越後屋 朗 | 教授 | 旧約聖書研究、聖書考古学 |
| 勝又 悦子 | 教授 | ラビ文献研究、ユダヤ教の歴史と思想 |
| 木谷 佳楠 | 准教授 | アメリカ文化とキリスト教、環境神学 |
| 小原 克博 | 教授 | キリスト教思想、宗教倫理、一神教研究 |
| 三宅 威仁 | 教授 | 宗教社会学、近現代の西洋における宗教哲学 |
| 三輪 地塩 | 助教 | 日本キリスト教史、キリシタン史 |
| 森山 央朗 | 教授 | イスラム史、ムスリム社会の形成と展開 |
| 村上 みか | 教授 | 近世キリスト教史、宗教改革 |
| 村山 盛葎 | 教授 | 新約聖書学・初期キリスト教 |
| 中野 泰治 | 准教授 | 17-18世紀英米の神学・クエーカー研究 |
| 関谷 直人 | 教授 | コミュニケーションと教会 |

文学部

●英文学科

| | | |
|------------------------|-----|---|
| 赤松 信彦 | 教授 | 英語教育学及び心理言語学(外国語学習) |
| David J. CHANDLER | 教授 | 1780～1850年の英文学研究 |
| 圓月 勝博 | 教授 | 近代英語詩、キリスト教文学 |
| 円浄 ゆり | 助教 | 16・17世紀のイギリス文学と教育 |
| 石塚 則子 | 教授 | 19-20世紀アメリカ文学 |
| 金津 和美 | 教授 | イギリス・ロマン主義時代の文学・文化 |
| 金谷 益道 | 教授 | 19世紀・20世紀イギリス小説 |
| 勝山 貴之 | 教授 | 英米演劇・映画研究 |
| 川島 健 | 教授 | 20世紀英米演劇からみる国家とジェンダー |
| 鬼田 崇作 | 准教授 | 英語教育学 |
| 菊田 千春 | 教授 | 日英語の文法構造、認知言語学 |
| 桐山 恵子 | 教授 | 19世紀イギリス文学・文化 |
| Mark RICHARDSON | 教授 | American literature, poetry |
| Michael Paul, MCGUIRE | 准教授 | データ駆動型学習、コーパス分析ツール |
| 能登原 祥之 | 教授 | 英語教育学・コーパス言語学 |
| 大沼 由布 | 教授 | 10～15世紀の英文学における西洋古典の受容 |
| 斎藤 彩世 | 准教授 | 19世紀から20世紀のアメリカ文学 |
| 下楠 昌哉 | 教授 | アイルランド文学、幻想文学 |
| 白川 恵子 | 教授 | 人種的見地から考察するアメリカ文学・文化 |
| Stefanie Alexa STADLER | 教授 | Intercultural Communication, Pragmatics, Discourse Analysis |
| 菅原 真理子 | 教授 | 英語と日本語の音韻・音声の研究 |
| 杉浦 秀行 | 准教授 | 会話分析、ことばとジェスチャー |
| 瀧田 健介 | 教授 | 生成文法・日英語を中心とした比較統語論 |
| 田中 貴子 | 准教授 | 英語教育学・学習者要因(学習動機) |
| 白井 雅美 | 教授 | 19世紀～21世紀の英語圏文学の多様性 |
| 山辺 省太 | 教授 | 20世紀のアメリカ文学と文化 |

●哲学科

| | | |
|-------|-----|---------------------|
| 新 茂之 | 教授 | 経験主義の諸相 |
| 服部 敬弘 | 准教授 | 19-20世紀フランス哲学 |
| 林 克樹 | 教授 | カント哲学、形而上学の問題 |
| 石田 隆太 | 助教 | 中世ヨーロッパの哲学・思想 |
| 鬼頭 葉子 | 准教授 | 現代英米圏の哲学・倫理学・キリスト教 |
| 中川 明才 | 教授 | ドイツ古典哲学 |
| 中村 拓也 | 教授 | ドイツ哲学(現象学) |
| 小川 雄 | 助教 | 論理実証主義における認識論とケアの哲学 |

●美学芸術学科

| | | |
|--------|----|--------------------|
| 伊達 立晶 | 教授 | 詩と造形芸術との間の相互影響関係 |
| 越前 俊也 | 教授 | 20世紀以降の美術とその受容 |
| 清瀬 みさを | 教授 | 西洋美術における表現の形と意味の分析 |
| 河野 道房 | 教授 | 中国山水画における奥行表現の研究 |
| 前田 朋美 | 助教 | 19世紀末ウィーンの芸術と文化 |

| | | |
|-------|----|--------------------|
| 森田 園 | 教授 | 20世紀初頭のドイツ美学 |
| 大愛 崇晴 | 教授 | ルネサンス・バロック期の西洋音楽 |
| 佐藤 守弘 | 教授 | 近現代日本における視覚文化とメディア |

●文化史学科

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 阿部 俊大 | 教授 | 西洋中世史、地中海における異文化交流 |
| 土肥 歩 | 助教 | 近現代中国における異文化交流史 |
| 服部 伸 | 教授 | ドイツ近代史、医療社会史 |
| 堀井 優 | 教授 | 中世・近世イスラム史、中東・西欧関係史 |
| 井上 一稔 | 教授 | 日本美術史。主に仏像彫刻・宗教美術を研究 |
| 城地 孝 | 准教授 | 近世中国の政治文化史 |
| 岸本 廣大 | 准教授 | 古代ギリシア史 |
| 北 康宏 | 教授 | 日本古代史、文化史 |
| 小林 丈広 | 教授 | 日本近代社会史、地域史、公共歴史学 |
| 水ノ江 和同 | 教授 | 日本考古学と文化財保護 |
| 西岡 直樹 | 教授 | 日本近世民衆生活史 |
| 小野 直子 | 教授 | アメリカ社会史 |
| 佐野 静代 | 教授 | 日本の水辺に関する歴史地理 |
| 山田 徹 | 准教授 | 日本中世の政治史・社会史・文化史 |

●国文学科

| | | |
|--------|-----|---------------------|
| 藤井 俊博 | 教授 | 日本語の歴史(語彙・文体・表記)の研究 |
| 岩坪 健 | 教授 | 源氏物語など平安文学の研究 |
| 垣見 修司 | 教授 | 万葉集や古事記など日本上代文学の研究 |
| 加藤 大生 | 助教 | 日本近現代文学、作品研究 |
| 源 健一郎 | 教授 | 平家物語を中心とする中世軍記物語の研究 |
| 三宅 宏幸 | 准教授 | 江戸時代の伝奇小説の研究 |
| 西川 貴子 | 教授 | 日本近代文学、幻想文学、作品研究 |
| 大山 和哉 | 助教 | 江戸時代の和歌文学 |
| 笹尾 佳代 | 准教授 | 日本近現代文学、文化研究 |
| 瀬崎 圭二 | 教授 | 日本近現代文学、文化研究 |
| 植木 朝子 | 教授 | 日本中世における歌謡および芸能の研究 |
| 山本 佐和子 | 准教授 | 中世日本語の語彙史・文法史、資料論 |
| 柳川 響 | 助教 | 平安・鎌倉時代の漢文学の研究 |

社会学部

●社会学科

| | | |
|-------------------|-----|---------------------------|
| 藤本 昌代 | 教授 | 働く事を通して個人・集団・組織・社会の関係を考える |
| 板垣 竜太 | 教授 | 文化人類学、朝鮮近現代社会史 |
| 小林 久高 | 教授 | 現代人の社会意識についての研究 |
| 髙田 竜成 | 准教授 | 地域とグローバリゼーションの社会学的研究 |
| 森 千香子 | 教授 | 国際社会学、都市社会学 |
| 尾嶋 史章 | 教授 | 教育と社会的不平等 |
| 立木 茂雄 | 教授 | 社会現象としての災害の研究 |
| 鶴飼 孝造 | 教授 | 社会学理論、社会ネットワーク、歴史社会学 |
| Mattias VAN OMMEN | 助教 | 文化人類学、デジタル文化と社会 |

●社会福祉学科

| | | |
|-------------------|-----|---------------------|
| 郭 芳 | 助教 | 高齢者福祉、介護サービス評価 |
| 廣野 俊輔 | 准教授 | 障がい者についての歴史的研究 |
| 姜 民護 | 助教 | 子ども家庭福祉、ソーシャルワーク実践 |
| 木原 活信 | 教授 | 福祉哲学、福祉思想史、精神保健福祉論 |
| 小山 隆 | 教授 | ソーシャルワーク |
| 空閑 浩人 | 教授 | 社会福祉実践(ソーシャルワーク)論研究 |
| Martha MENSENDIEK | 准教授 | 多文化社会福祉・国際社会福祉 |
| 永田 祐 | 教授 | 地域福祉・コミュニティケア |
| 野村 裕美 | 教授 | 社会福祉教育におけるケーススタディ法 |
| 小野セレスト 摩耶 | 准教授 | 子ども家庭福祉・福祉計画評価 |
| 鈴木 良 | 教授 | 障害者福祉、障害学 |

●メディア学科

| | | |
|-------|-----|------------------------|
| 阿部 康人 | 准教授 | コミュニケーション、市民メディア、科学と技術 |
|-------|-----|------------------------|

| | | |
|-------|-----|----------------------|
| 池田 謙一 | 教授 | コミュニケーションの社会心理学 |
| 伊藤 高史 | 教授 | 表現の自由とジャーナリズム(社会学) |
| 勝野 宏史 | 准教授 | 人工知能の社会実装に関する人類学的研究 |
| 河崎 吉紀 | 教授 | メディア史 |
| 水出 幸輝 | 助教 | 災害のメディア研究 |
| 小黑 純 | 教授 | ジャーナリズム、テレビ・ドキュメンタリー |
| 佐伯 順子 | 教授 | ジェンダーとメディアに関する学際的研究 |
| 竹内 幸絵 | 教授 | 広告史、メディア・デザイン表象と近代社会 |

●産業関係学科

| | | |
|-------|-----|----------------------|
| 阿形 健司 | 教授 | 職業の社会学 |
| 樋口 純平 | 准教授 | 人事・雇用システムの国際比較 |
| 松山 一紀 | 教授 | 組織のなかの人間行動とその管理 |
| 三山 雅子 | 教授 | 現代日本の非正社員労働問題 |
| 三吉 勉 | 助教 | 職場の労使関係と企業別労働組合の役割 |
| 寺井 基博 | 准教授 | 長時間労働、非正規雇用、D&Iの法と政策 |
| 富田 安信 | 教授 | 仕事と生活の調和、多様な働き方 |
| 上田 眞士 | 教授 | 日系多国籍企業における雇用管理 |
| 浦坂 純子 | 教授 | 労働経済学、教育経済学 |

●教育文化学科

| | | |
|------------------------------|-----|--------------------|
| 崔 紗華 | 助教 | 国際関係史、人の移動 |
| 兒島 明 | 教授 | 人の移動と教育 |
| 越水 雄二 | 准教授 | ヨーロッパにおける教育と文化の歴史 |
| 中川 吉晴 | 教授 | ホリスティック教育・アジアの教育思想 |
| 奥井 遼 | 准教授 | わざの伝承・創造、身体による学び |
| William Robert STEVENSON III | 准教授 | グローバル化とエデュケーション |
| 山田 礼子 | 教授 | 比較高等教育、ジェンダーと教育 |
| 吉田 亮 | 教授 | 日米教育文化交流史 |

法学部

●法律学科

| | | |
|--------|----|----------------------|
| 新井 京 | 教授 | 武力紛争法(国際人道法) |
| 浅田 正彦 | 教授 | 国際法 |
| 船津 浩司 | 教授 | 会社法 |
| 後藤 倫子 | 助教 | 条約の解釈 |
| 濱 真一郎 | 教授 | 法哲学・法思想史 |
| 林 貴美 | 教授 | 国際私法、国際家族法 |
| 檜垣 伸次 | 教授 | 表現の自由に関する現代的諸問題 |
| 比嘉 義秀 | 助教 | 西洋法史、インド法 |
| 廣田 浩 | 教授 | 日本のグローバル企業の法務実務 |
| 池田 直人 | 助教 | 不作為による犯罪 |
| 井関 涼子 | 教授 | 知的財産法(特許法・著作権法・商標法等) |
| 伊藤 靖史 | 教授 | 会社法・商法 |
| 成能 通弘 | 教授 | 近代英米の法思想 |
| 梶 悠輝 | 助教 | 刑事訴訟法 |
| 梶山 玉香 | 教授 | 民法・民事執行法 |
| 釜田 薫子 | 教授 | 会社法 |
| 神谷 遊 | 教授 | 現代家族法 |
| 勝山 教子 | 教授 | 議会制度研究 |
| 川口 恭弘 | 教授 | 会社法、金融法、金融商品取引法 |
| 川崎 友巳 | 教授 | 刑法 |
| 川嶋 四郎 | 教授 | 民事訴訟法、民事救済法、倒産法、裁判法 |
| 川和 功子 | 教授 | 契約法、不法行為法、消費者法、情報法 |
| 金 春 | 教授 | 倒産法、中国法、アジア法 |
| 木下 麻奈子 | 教授 | 法社会学、法心理学 |
| 倉見 智亮 | 教授 | 税法 |
| 黒坂 則子 | 教授 | 環境法、行政法 |
| 西村 安博 | 教授 | 日本法制史における証拠法の研究 |
| 村瀬 健太 | 助教 | 刑事裁判における自白の研究 |

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 野々村 和喜 | 准教授 | 不法行為に基づく損害賠償の理論 |
| 沼本 祐太 | 助教 | 行政組織法 |
| 荻野 奈緒 | 教授 | 契約不履行と民事責任 |
| 岡田 幸宏 | 教授 | 民事判決の効力 |
| 佐伯 彰洋 | 教授 | 情報公開と個人情報保護 |
| 坂井 岳夫 | 教授 | 所得や医療の保障に関わる法律問題 |
| 佐藤 由梨 | 准教授 | 刑事訴訟法、刑事政策 |
| 瀬領 真悟 | 教授 | 市場経済下での企業・国家への法的規律研究 |
| 高杉 直 | 教授 | 国際取引や国際結婚などに関する法律問題 |
| 田中 謙太 | 助教 | 信教の自由 |
| 土田 道夫 | 教授 | 労働法全般、特に労働契約の解釈論の研究 |
| 上田 誠一郎 | 教授 | 契約の基礎理論の比較法的研究 |
| 上田 達子 | 教授 | 労働法、社会保障法 |
| 渡邊 義広 | 教授 | 労働法と紛争解決制度 |
| 山田 慧 | 准教授 | 未遂犯の本質と成立要件 |
| 山根 崇邦 | 教授 | 知的財産法 |

●政治学科

| | | |
|--------|--------|--------------------------|
| 阿部 亮子 | 助教 | 戦略学、アメリカの安全保障 |
| 浅野 亮 | 教授 | 現代中国政治、国際関係論 |
| 長谷川 一年 | 教授 | 西洋政治思想史 |
| 市川 喜崇 | 教授 | 政策過程、行政、地方自治、中央—地方関係 |
| 飯田 健 | 教授 | 政治行動論、政治学方法論 |
| 兼原 信克 | 特別客員教授 | 日本の安全保障政策と外交史 |
| 望月 詩史 | 准教授 | 日本政治思想史 |
| 森 裕城 | 教授 | 政治過程論 |
| 森 靖夫 | 教授 | 近現代日本政治史 |
| 村田 晃嗣 | 教授 | 戦後アメリカ外交、アメリカ政治と映画文化 |
| 西澤 由隆 | 教授 | 選挙と世論の統計分析 |
| 大崎 祐馬 | 助教 | 国際政治経済学:アジア経済外交 |
| 大矢根 聡 | 教授 | 国際関係論、国際秩序をめぐる外交とその理論的分析 |
| 力久 昌幸 | 教授 | 現代イギリス政治、EU離脱問題 |
| 鈴木 絢女 | 教授 | 東南アジア政治・政治経済 |
| 寺田 貴 | 教授 | 国際政治経済:覇権を巡る協力と競争 |
| 鷲江 義勝 | 教授 | 地域研究(欧州)、特に欧州統合の分析 |

経済学部

●経済学科

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 荒渡 良 | 准教授 | 財政政策と社会保障政策に関する研究 |
| 東 良彰 | 教授 | 生産、分配、貯蓄及び資本蓄積に関する研究 |
| 福岡 正章 | 教授 | 東アジアの工業化 |
| 船橋 恒裕 | 教授 | 福祉経済学 |
| 原田 禎夫 | 准教授 | 市民参加と地域の環境保全 |
| 本領 崇一 | 准教授 | 情報伝達の理論、ゲーム理論 |
| 堀田 悠生 | 助教 | 好景気と不景気が繰り返されるメカニズム |
| 石田 葉月 | 教授 | エコロジー経済学、資源・エネルギー経済学 |
| 岩澤 政宗 | 准教授 | データの分析手法の提案と評価 |
| 笠井 高人 | 准教授 | 経済学の歴史と発展 |
| 河島 伸子 | 教授 | 芸術文化・コンテンツ産業に関わる公共政策 |
| 岸 基史 | 准教授 | エコロジー経済学、環境経済学、理論経済学 |
| 北川 雅章 | 教授 | 日本経済とマクロ経済学 |
| 北坂 真一 | 教授 | 日本経済論、計量経済学、マクロ経済学 |
| 小橋 晶 | 准教授 | 企業の目的、組織、行動に関する研究 |
| 小林 千春 | 教授 | 日本経済とネットワーク産業 |
| 小藤 弘樹 | 教授 | 地域・都市経済研究 |
| 古賀 康士 | 准教授 | 日本経済史(貨幣の歴史、捕鯨業の歴史) |
| 小暮 憲吾 | 助教 | 政治経済学、労働と技術・AI、ジェンダー |
| 久保 徳次郎 | 教授 | 国際金融 |
| 三俣 学 | 教授 | 森川海の持続的利用・管理に関する研究 |

専任教員スタッフ・研究分野一覧

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 宮本 大 | 教授 | 労働経済、人材育成に関する研究 |
| 宮崎 耕 | 教授 | 情報システムの研究 |
| 宮澤 和俊 | 教授 | 人口経済学、公共経済学 |
| 茂見 岳志 | 教授 | 一般均衡理論 |
| 長澤 勢理香 | 准教授 | 近世・近代イギリス貿易史 |
| 新聞 三希代 | 教授 | 企業行動と金融市場の実証分析 |
| 西岡 幹雄 | 教授 | 企業家活動と近現代都市における経済思想 |
| 法雲 俊栄 | 准教授 | 社会科学における情報システムの研究 |
| 落合 仁司 | 教授 | 快楽と遠近法 |
| 奥田 以在 | 准教授 | 近代京都の都市史：都市コミュニティの歴史 |
| 大野 隆 | 教授 | 政治経済学（景気循環・不平等・搾取） |
| 小野塚 佳光 | 教授 | 国際移民と国際通貨制度をめぐる論争 |
| 太下 義之 | 教授 | 文化政策、創造経済 |
| 迫田 さやか | 准教授 | 所得や制度（医療・結婚）の不平等 |
| 鹿野 嘉昭 | 教授 | 日本経済と金融 |
| 菅 一城 | 教授 | 近現代イギリス社会経済史・都市史 |
| 高井 才明 | 教授 | ビジネス情報システム |
| 竹廣 良司 | 教授 | 企業の組織と行動に関する分析 |
| 田中 靖人 | 教授 | 純粋および応用ミクロ経済学 |
| 谷村 智輝 | 教授 | 現代資本主義の循環と構造変化 |
| 角井 正幸 | 教授 | アメリカ経済史 |
| 和田 喜彦 | 教授 | エコロジー経済学、鉱山・核開発の環境影響 |
| 和田 美憲 | 准教授 | 経済政策、企業戦略に関する理論・実証研究 |
| 八木 匡 | 教授 | 公共経済学（創造経済論、教育経済学） |
| 山森 亮 | 教授 | 連帯経済、ケアエコノミー、社会政策 |
| 横井 和彦 | 教授 | 経済のグローバル化と中国経済 |
| 四谷 晃一 | 教授 | 経済成長理論、教育の経済分析 |

商学部

●商学科

| | | |
|---------|-----|----------------------|
| 麻生 潤 | 准教授 | 産業研究、造船業・海運業 |
| 陳 燕双 | 助教 | 経営管理論 |
| 崔 容熏 | 教授 | マーケティング |
| 遠藤 敏幸 | 准教授 | グローバルゼーションとアジア経済 |
| 福本 俊樹 | 助教 | 経営組織論・組織行動論 |
| 服部 茂幸 | 教授 | 世界金融危機と金融政策 |
| 久松 太郎 | 教授 | 国際貿易の古典理論 |
| 今西 宏次 | 教授 | コーポレート・ガバナンス、企業と社会 |
| 稲見 亨 | 教授 | 会計基準の国際的調和化に関する研究 |
| 五百旗頭 真吾 | 教授 | 国際金融論 |
| 石田 大典 | 准教授 | マーケティング・マネジメント |
| 亀井 大樹 | 助教 | 経営史、経済史、商業史 |
| 河合 隆治 | 教授 | 会計情報を利用した経営 |
| 川満 直樹 | 教授 | 商品史研究 |
| 北村 友宏 | 助教 | 公益事業の効率性・生産性に関する実証研究 |
| 小島 秀信 | 准教授 | 市場の社会経済学的研究 |
| 國枝 陽輔 | 助教 | 顧客企業との関係管理 |
| 久納 誠矢 | 准教授 | 株式の自動取引と市場の安定性 |
| 牧 大樹 | 教授 | 計量経済学、時系列分析 |
| 丸茂 俊彦 | 教授 | 銀行論・金融論 |
| 溝淵 英之 | 准教授 | 経済指標・社会指標に関する研究 |
| 長沼 健 | 教授 | eコマースの普及 |
| 内藤 徹 | 教授 | 地理情報システムを援用した都市集積の研究 |
| 中川 優 | 教授 | グローバル化と管理会計 |
| 中道 一心 | 教授 | 事業システムと競争優位 |
| 西川 純平 | 准教授 | 東アジアの経済発展 |
| 西村 幸子 | 教授 | 観光に関わる消費者行動の分析 |
| 大原 悟務 | 准教授 | コミュニティによる製品革新 |

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 太田原 準 | 教授 | 技術経営 |
| 櫻井 貴憲 | 准教授 | 財務会計情報に基づく企業価値評価 |
| 佐々木 一郎 | 教授 | 個人の年金加入行動に関する研究 |
| 佐藤 郁哉 | 教授 | 組織の社会学的分析・社会調査の方法論 |
| 佐藤 研一 | 准教授 | グローバルビジネスコミュニケーション研究 |
| 佐藤 誠二 | 教授 | 財務報告制度の国際比較-会計と文化- |
| 猿田 冬樹 | 助教 | 理論産業組織論、プラットフォームの研究 |
| 澤田 雄介 | 助教 | 会計情報を用いたインセンティブ設計 |
| 関 智宏 | 教授 | 中小企業とアントレプレナーシップ |
| 志賀 理 | 教授 | 現代の会計 |
| 田淵 太一 | 教授 | 貿易・貨幣・権力から読み解く世界経済 |
| 田口 聡志 | 教授 | 心理と行動の会計学：フューチャーデザイン |
| 高橋 広行 | 教授 | 消費者行動にもとづくマーケティング |
| 谷本 啓 | 准教授 | サービス産業における人材活用の制度と構造 |
| 富田 健司 | 教授 | 経営戦略 |
| 辻村 元男 | 教授 | 不確実性下における意思決定 |
| 植田 宏文 | 教授 | 金融的要因と経済活動 |
| 上田 雅弘 | 教授 | 産業組織の実証分析 |
| 瓜生原 葉子 | 教授 | 行動変容、ソーシャルマーケティング |
| 肖 森 | 助教 | 中国の会計制度 |
| 山本 達司 | 教授 | 会計制度と社会的厚生 |
| 山下 麻衣 | 教授 | 近現代日本における看護労働の歴史 |
| 山内 雄気 | 准教授 | 経営史 |
| 吉川 英一郎 | 教授 | 国際商取引法規範及び国際ビジネス紛争解決 |

政策学部

●政策学科

| | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| 足立 光生 | 教授 | 持続可能な社会に向けた投資、市場、企業 |
| Ofer FELDMAN | 教授 | 政治心理学 |
| 藤本 哲史 | 教授 | ワーク・ファミリー・バランス |
| 畑本 裕介 | 教授 | 社会福祉行政・生活構造 |
| 伊川 萌黄 | 助教 | 環境／エネルギー／貧困問題に関する実証研究 |
| 井口 貢 | 教授 | 文化・観光政策の要諦としての人文知の所在 |
| 入江 容子 | 教授 | 地方自治体の組織的問題・構造・管理・政策- |
| 柿本 昭人 | 教授 | 近代社会システムを歴史的に探究する |
| 川口 章 | 教授 | ワーク・ライフ・バランスとジェンダー平等 |
| 川井 圭司 | 教授 | スポーツの法と政策 |
| 川上 敏和 | 教授 | ゲーム理論の応用 |
| 川浦 昭彦 | 教授 | 公共選択 |
| 風間 規男 | 教授 | ガバナンス・ネットワークの構造と機能に関する研究 |
| 小阪 真也 | 助教 | 移行期の正義、平和構築、国際人権・人道法 |
| 小谷 真理 | 准教授 | 環境基準の正統性、行政裁量の統制 |
| 久保 真人 | 教授 | 働きやすい組織と個人のウェルビーイング |
| 増淵 あさ子 | 助教 | 沖縄占領史・医療史 |
| 真山 達志 | 教授 | 行政学、政策形成論、政策実践論 |
| 三上 真嗣 | 助教 | 行政責任論、政策評価論（ODA 評価） |
| 三好 博昭 | 教授 | 技術を社会に活かす公共政策の研究 |
| 武蔵 勝宏 | 教授 | 議会の立法過程・制度、直接民主制の実証分析 |
| 中島 恵理 | 教授 | 地域におけるSDGs実現と新しい手法での社会変革 |
| 中尾 祐人 | 准教授 | 法学、行政法、行政調査 |
| 中田 喜文 | 教授 | 技術者の働き方と創造性に関する研究 |
| 根岸 祥子 | 准教授 | 先進国・開発途上国における国際資本の役割 |
| 新見 陽子 | 教授 | 国際開発・貧困・格差・ジェンダー |
| 野田 遊 | 教授 | 地方自治研究 |
| 野間 敏克 | 教授 | 地域経済にとって望ましい地域金融の研究 |
| 岡本 由美子 | 教授 | フェアトレードの社会的インパクトと今後 |
| 大島 佳代子 | 教授 | 教育を受ける権利・生徒の人権 |
| 太田 肇 | 教授 | 個人を生かす組織の研究 |

| | | |
|--------|-----|---------------------|
| 大和田 順子 | 教授 | ソーシャルインベーションと地域デザイン |
| 多田 実 | 教授 | 感情科学に基づくマーケティングリサーチ |
| 滝本 香菜子 | 助手 | アジア諸国における幸福の研究 |
| 田中 秀樹 | 准教授 | 現代社会における人材・組織マネジメント |
| 田中 宏樹 | 教授 | 少子高齢社会の地域経営 |
| 富樫 耕介 | 准教授 | 国際政治学(紛争研究)、旧ソ連地域研究 |
| 月村 太郎 | 教授 | バルカン地域研究、地域紛争比較研究 |
| 山谷 清志 | 教授 | 政策評価と政府のアカウントビリティ |
| 吉田 徹 | 教授 | 政治学(比較政治学、ヨーロッパ政治) |

グローバル地域文化学部

●グローバル地域文化学科

| | | |
|--------------------|-----|--------------------------|
| 阿部 範之 | 教授 | 中華圏の映画 |
| 亀山 洋子 | 准教授 | スイス近現代史 |
| 浅羽 祐樹 | 教授 | 韓国政治外交、比較政治学、日韓関係 |
| 遠藤 徹 | 教授 | アメリカの大衆文化論/身体論 |
| 二村 太郎 | 准教授 | 農と食の地理学、北アメリカ地域研究 |
| James HEATHER | 准教授 | 第二言語習得論、応用言語学、文化人類学 |
| 肥後本 芳男 | 教授 | アメリカ史、アメリカ研究 |
| 稲垣 俊史 | 教授 | 第二言語習得論、英語教育学、言語学 |
| 石井 香江 | 教授 | 社会史(近現代ドイツ)/ジェンダーと「市民社会」 |
| 石野 未架 | 准教授 | 英語教育学、教室相互行為研究、会話分析 |
| 伊藤 玄吾 | 准教授 | フランス・ルネサンス期の文学と思想 |
| 和泉 真澄 | 教授 | 北米文化の多様性と日系・アジア系アメリカ |
| 亀谷 百合佳 | 助教 | 現代フランス社会・文化の研究 |
| 神崎 舞 | 准教授 | カナダの舞台芸術 |
| コ ヨンジ | 教授 | 朝鮮語の文法および南北朝鮮の言語政策 |
| 久野 聖子 | 准教授 | マイノリティ研究、スペイン地域研究 |
| 倉科 一希 | 教授 | アメリカ対外関係史、国際政治 |
| Matthew LARKING | 准教授 | 日本美術史、近代美術史・理論 |
| 見原 礼子 | 准教授 | 比較教育社会学、マイノリティ研究 |
| 宮嵩 克裕 | 助教 | フランス地域文化論・表象文化論・視覚論 |
| 水谷 智 | 教授 | イギリス帝国史/植民地研究 |
| 物部 ひろみ | 准教授 | ハワイの歴史と文化、日系アメリカ人史 |
| 向 正樹 | 准教授 | グローバル・ヒストリー、海城イスラーム史 |
| 中野 幸男 | 助教 | 亡命ロシア文学、トランスリンガル文学 |
| 中嶋 洋平 | 助教 | ヨーロッパ統合思想、西洋政治思想 |
| NECHAEVA Angelina | 助教 | 在外ロシア文化、亡命ロシア人社会 |
| 落合 明子 | 教授 | アメリカ黒人の歴史と文化 |
| 小川原 宏幸 | 教授 | 近代における日朝関係の歴史的考察 |
| 大木 清香 | 助教 | 文芸学、文学理論、比較文化論 |
| 小野 文生 | 教授 | ドイツ哲学、ユダヤ思想、教育思想史 |
| 尾崎 茂 | 教授 | 言語テスト学、国際理解教育、言語教育政策 |
| 朴 鍾厚 | 准教授 | 現代韓国語文法、韓国語教育学 |
| Susanna PAVLOSKA | 准教授 | 20世紀文学、文学と言語教育 |
| Andres PEREZ RIOBO | 助教 | グローバルヒストリー、スペイン語教育 |
| 銭 鷗 | 教授 | 中国思想史、日中思想・文化交渉論 |
| 坂本 南美 | 准教授 | 外国語教育、ナラティブ研究、言語教師教育 |
| 崎田 智子 | 教授 | 伝達言語の認知語用論的研究、ジェンダー論 |
| 柴田 修子 | 准教授 | ラテンアメリカ地域研究、社会運動論 |
| 清水 穰 | 教授 | 現代美術と現代音楽の歴史と批評 |
| 副島 一郎 | 教授 | 中国古典学・江戸漢学 |
| 高木 繁光 | 教授 | 近代から現代にいたる映像文化史 |
| 竹内 理輝 | 准教授 | 中国近現代史、中国女性史 |
| David TARANCO | 助教 | 翻訳、紀行文、日西関係 |
| 立林 良一 | 准教授 | 現代ラテンアメリカ文学 |
| 立石 洋子 | 准教授 | ロシア・旧ソ連諸国の歴史と政治 |
| 宇佐見 耕一 | 教授 | ラテンアメリカの社会政策・福祉政治 |

| | | |
|------------|-----|----------------------|
| Aysun UYAR | 准教授 | 国際関係論、国際政治経済、地域主義 |
| 若生 正和 | 准教授 | 日本語と韓国語の対照研究、第二言語習得論 |
| 王 柳蘭 | 准教授 | 越境する華人の社会変動、宗教と多角的共生 |
| 渡辺 文 | 助教 | オセアニアの芸術と文化、人類学 |
| 尹 慧瑛 | 教授 | イギリス・アイルランド研究 |

文化情報学部

●文化情報学科

| | | |
|--------------|-----|-----------------------|
| 阿部 真人 | 助教 | 脳、行動、社会、生態系等の複雑システム |
| 深川 大路 | 助教 | 離散最適化問題に対するアルゴリズム |
| 福田 智子 | 教授 | 平安文学、和歌文学 |
| Gaetan RAPPO | 准教授 | 日本中世史、宗教史学、デジタル・ヒストリー |
| 波多野 賢治 | 教授 | ビッグデータの利活用に関する研究 |
| 星 英仁 | 准教授 | 言語理論(統語論) |
| 飯尾 尊優 | 准教授 | 人間とロボットの社会的相互作用 |
| 伊藤 紀子 | 准教授 | 機能言語学と自然言語処理 |
| 蒲原 智也 | 助教 | 画像に対するハッシュタグ推薦手法の研究 |
| 河瀬 彰宏 | 准教授 | デジタル・ヒューマニティーズ、文化解析 |
| 金 明哲 | 教授 | 文化とデータサイエンス |
| 中西 義典 | 准教授 | 統計科学および統計物理学 |
| 中安 真理 | 准教授 | 東アジアの芸術文化史 |
| 斎藤 元幸 | 助教 | 思考についての認知科学 |
| 阪田 真己子 | 教授 | 身体を媒体として伝達される情報 |
| 眞田 英毅 | 助教 | 学校外教育、学校でのいじめ |
| 佐野 明子 | 准教授 | 映像文化論 |
| 沈 力 | 教授 | 言語類型論の研究 |
| 下嶋 篤 | 教授 | グラフィック表現を用いた説明や説得の効果 |
| 杉尾 武志 | 教授 | 視覚認知 |
| 田口 哲也 | 教授 | 日本と世界の文化を学び比較する |
| 田中 雄 | 助教 | 言語学(音声学・音韻論) |
| 津村 宏臣 | 准教授 | 地域社会と民族の資源共有と持続性の研究 |
| 宿久 洋 | 教授 | 多変量データ解析、計算機統計学 |
| 山縣 芽生 | 助教 | 排斥と調和の社会心理学 |
| 山内 信幸 | 教授 | コーパスを用いたことばの記述的分析 |
| 鄭 躍軍 | 教授 | 社会現象の計量研究 |

理工学部

●インテリジェント情報工学科

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 芳賀 博英 | 教授 | コンピュータを用いた絵画解析 |
| 橋本 雅文 | 教授 | モビリティロボットの自律・協調センシング |
| 程 俊 | 教授 | 通信理論と通信技術 |
| 加藤 恒夫 | 教授 | 音声情報処理と行動信号処理 |
| 桂井 麻里衣 | 准教授 | マルチメディア検索・データマイニング |
| 木村 共孝 | 准教授 | 情報通信ネットワークの設計と分析 |
| 奥田 正浩 | 教授 | 知能情報処理、機械学習 |
| 小野 景子 | 准教授 | 進化的機械学習 |
| 土屋 誠司 | 教授 | 常識を持ったコンピュータ・ロボットの研究 |
| 渡部 広一 | 教授 | 自然言語理解と知能ロボット |

●情報システムデザイン学科

| | | |
|--------|-----|----------------------------|
| 井本 桂右 | 准教授 | あらゆる音の理解と生成を可能とする知能情報処理の研究 |
| 木村 達明 | 准教授 | 情報通信システムと数理モデリング |
| 小坂 隆浩 | 教授 | 人間とクラウドによる分散システムの開発 |
| 大崎 美徳 | 教授 | 機械学習と知識発見 |
| 大久保 雅史 | 教授 | ヒューマンインタフェース |
| 佐藤 健哉 | 教授 | モノのインターネットにおける分散処理技術 |
| 白浜 公章 | 准教授 | 人工知能のマルチメディア解析への応用 |
| 高橋 和彦 | 教授 | 知能制御システム |
| 田村 晃裕 | 准教授 | 自然言語処理 |

専任教員スタッフ・研究分野一覧

| | | |
|--------------------|-----|-----------------------|
| Ivan TANEV | 教授 | 進化的方法論 |
| 土屋 隆生 | 教授 | 音空間レンダリングシステムの開発と応用 |
| ●電気工学科 | | |
| 馬場 吉弘 | 教授 | 環境電磁工学 |
| 藤原 耕二 | 教授 | 磁性材料の機能性評価 |
| 井上 馨 | 教授 | モータシステムの高効率駆動と振動抑制 |
| 加藤 利次 | 教授 | 電気電子回路システムの動作解析および制御 |
| 近藤 弘一 | 教授 | 応用数学 |
| 小山 大介 | 教授 | 超音波を利用したデバイスと計測技術 |
| 松川 真美 | 教授 | 超音波エレクトロニクス、波動応用計測 |
| 長岡 直人 | 教授 | 電力・インフラシステムの数値解析と設計 |
| 高橋 康人 | 教授 | パワーマグネティクス・電磁エネルギー変換 |
| 和田 元 | 教授 | 放電プラズマの物理と工学 |
| ●電子工学科 | | |
| 出口 博之 | 教授 | アンテナ工学、電磁界解析 |
| 衣斐 信介 | 教授 | 通信システムのための統計的信号処理 |
| 岩井 誠人 | 教授 | 無線通信システムにおける電波伝搬 |
| 粕谷 俊郎 | 教授 | プラズマ物理学 |
| 大谷 直毅 | 教授 | 半導体光デバイス、光物性、新蛍光物質の合成 |
| 堺 健司 | 准教授 | 磁気を用いた先端計測法と物性評価法の開発 |
| 佐藤 祐喜 | 教授 | 機能性電子材料の開発と評価、工学的応用 |
| 鈴木 将之 | 教授 | 光工学 |
| 田中 智之 | 助教 | 偏微分方程式論 |
| 戸田 裕之 | 教授 | マイクロ波フォトニクス、非線形ファイバ光学 |
| 辻 幹男 | 教授 | 超高周波帯での電磁界解析及び回路素子開発 |
| ●機械システム工学科 | | |
| 廣垣 俊樹 | 教授 | 制御システムとモノづくりの自動化・自律化 |
| 稲垣 和寛 | 助教 | 流体物理学・乱流のモデリング |
| 稲岡 恭二 | 教授 | 熱と流れの動的制御、熱交換器の高性能化 |
| 松村 恵理子 | 教授 | 高効率・低公害化に関する噴霧燃焼制御 |
| 松岡 敬 | 教授 | 機械設計、複合材料 |
| 宮本 博之 | 教授 | 金属材料の加工と組織制御に関する研究 |
| 野口 尚史 | 准教授 | 熱・物質の輸送や混合にかかわる流体力学 |
| 小武内 清貴 | 准教授 | 先進複合材料の信頼性改善に関する研究 |
| 笹田 昌弘 | 教授 | 材料の変形メカニズムの解明と加工の高度化 |
| 多久和 英樹 | 教授 | 偏微分方程式論と数学的逆問題 |
| 辻内 伸好 | 教授 | 運動と振動の制御及び人間工学に関する研究 |
| ●機械理工学科 | | |
| 青山 栄一 | 教授 | 先進加工技術の開発と評価 |
| 原 峻平 | 准教授 | 微小の攪乱・物質添加による伝熱流動の改変 |
| 平田 勝哉 | 教授 | 機械工学上の流れ学、空気力学の諸問題 |
| 伊藤 彰人 | 教授 | ロボットシステムの高度化に関する研究 |
| 中村 守正 | 教授 | 機械要素を高機能化する表面改質技術 |
| 大窪 和也 | 教授 | 環境に優しい天然繊維強化複合材料の開発 |
| 千田 二郎 | 教授 | 高効率・低公害燃焼法の解析的研究 |
| 高岡 正憲 | 教授 | 巨視的乱雑系の統計法則と自己組織構造 |
| 田中 達也 | 教授 | 金属、高分子や複合材料の加工に関する研究 |
| 湯浅 元仁 | 准教授 | 組織制御による高機能金属材料の開発 |
| ●機能分子・生命化学科 | | |
| 土井 貴之 | 教授 | 新しい電池反応系の開発 |
| 遠藤 太佳嗣 | 准教授 | イオン液体の構造、運動性、及び物性 |
| 人見 穰 | 教授 | 活性酸素種と酸化反応の化学 |
| 稲葉 稔 | 教授 | 蓄電池および燃料電池材料の開発 |
| 加藤 将樹 | 教授 | 超伝導および関連物質の合成と物性評価 |
| 木村 佳文 | 教授 | 機能性流体の光反応化学と新規物質創製 |
| 北岸 宏亮 | 教授 | 人工ヘモグロビンの開発と医学分野への応用 |
| 小寺 政人 | 教授 | 生命現象解明のための高性能機能分子の開発 |
| 古賀 智之 | 教授 | 高分子化学、先端バイオマテリアル |

| | | |
|---------------------|------|----------------------|
| 水谷 義 | 教授 | 有機機械・電子材料の研究 |
| 西村 慎之介 | 助教 | 高分子バイオマテリアル、環境調和材料 |
| 太田 寛人 | 准教授 | 新しい磁性材料の探索と高機能化 |
| ●化学システム創成工学科 | | |
| 橋本 雅彦 | 教授 | バイオセンシングテクノロジー |
| 石田 尚之 | 教授 | コロイドおよび界面の化学と工学 |
| 松本 道明 | 教授 | 環境適応型の生物分離プロセスの構築 |
| 塩井 章久 | 教授 | 非平衡化学システム |
| 白川 善幸 | 教授 | 機能性微粒子の設計工学 |
| 田原 義明 | 准教授 | ドラッグデリバリーシステム |
| 竹中 壮 | 教授 | 触媒化学 |
| 土屋 活美 | 教授 | 環境対策と混相分散流の移動現象論 |
| 塚越 一彦 | 教授 | 微小空間で見られる流体流れの不思議な世界 |
| 山本 大吾 | 准教授 | 非平衡現象と化学工学 |
| 吉田 幹生 | 教授 | 粒子の流動性と付着性の制御 |
| ●環境システム学科 | | |
| 赤尾 聡史 | 教授 | 環境衛生工学 |
| 福岡 浩司 | 准教授 | 磁気から採る気候変動 |
| 後藤 琢也 | 教授 | エネルギー創製・貯蔵・輸送・利用の研究 |
| 長谷川 元洋 | 教授 | 土壌の生物学 |
| 林田 明 | 教授 | 地球システム科学 |
| 加堂 大輔 | 准教授 | 物質と時空のミクロな構造の物理学 |
| 盛満 正嗣 | 教授 | 次世代二次電池・水電解技術の開発 |
| 大園 享司 | 教授 | 生態学・生物多様性科学・菌類 |
| 堤 浩之 | 教授 | 地震と活断層に関する研究 |
| 山根 省三 | 准教授 | 気象・気候現象の力学 |
| 横尾 頼子 | 助教 | 地球表層環境での元素の動態・循環 |
| ●数理システム学科 | | |
| 浅岡 正幸 | 教授 | 幾何学、力学系理論 |
| 今井 仁司 | 教授 | コンピュータを用いた数理解析 |
| 川口 周 | 教授 | 代数幾何学 |
| 三木 啓司 | 准教授 | 応用数学、数理物理学 |
| 齋藤 誠慈 | 教授 | 常微分・差分方程式の定性理論 |
| 竹井 義次 | 教授 | 解析学、微分方程式 |
| 津田 博史 | 教授 | 金融工学、データサイエンス、観光科学 |
| ●実験実習センター | | |
| 大西 慶一郎 | 実験講師 | 天然物有機化学、微生物代謝産物と生理活性 |

生命医科学部

| | | |
|---------------|-----|----------------------|
| ●医工学科 | | |
| 伊藤 利明 | 教授 | 非線形連続・離散数理モデルとその応用 |
| 川口 正隆 | 教授 | 機械・構造物の振動解析および低振動化 |
| 剣持 貴弘 | 教授 | 生命現象の物理科学 |
| 小泉 範子 | 教授 | 角膜再生医療と新規治療薬の開発 |
| 森田 有亮 | 教授 | 再生組織の足場材料・力学機能評価法の開発 |
| 奥村 直毅 | 教授 | 視覚障害に対する新規治療法の開発 |
| 田中 和人 | 教授 | 機械材料、複合材料、生体・医療材料、成形 |
| 積際 徹 | 教授 | ロボット工学、制御工学 |
| 渡辺 公貴 | 教授 | 月面ローバー、バイオミミクリー、技術経営 |
| 山本 浩司 | 教授 | 生体組織の力学機能と分子発現解析 |
| 横川 隆一 | 教授 | バイオメカニクス、バイオリボティクス |
| ●医情報学科 | | |
| 秋山 いわき | 教授 | 超音波イメージングと超音波の生体作用 |
| 廣安 知之 | 教授 | ヒト情報のAIとICTによる知的処理 |
| 飛龍 志津子 | 教授 | コウモリの超音波センシングの仕組みを解明 |
| 日和 悟 | 准教授 | 認知神経科学と脳情報学 |
| 小林 耕太 | 教授 | 神経行動学：聴覚と発声の生理メカニズム |
| 大江 洋平 | 教授 | 有機化学：合成、錯体、触媒、分析 |

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 太田 哲男 | 教授 | 生理活性化合物の効率的合成と機能の解明 |
| 貞包 浩一郎 | 准教授 | 生命現象の物理学、やわらかな物質の物理学 |
| 高柳 真司 | 助教 | 超音波材料の作製・評価と超音波応用計測 |
| 谷岡 健資 | 助教 | 多変量データ解析法の開発 |

● 医生命システム学科

| | | |
|--------|--------|----------------------|
| 舟本 聡 | 准教授 | アルツハイマー病の発症と予防の基礎研究 |
| 市川 寛 | 教授 | 酸化ストレスと機能性食品医学 |
| 池川 雅哉 | 教授 | 細胞や組織を構成する生体分子の機能の解析 |
| 祝迫 恵子 | 教授 | 消化器疾患の基礎的・臨床的研究 |
| 角田 伸人 | 助教 | アルツハイマー病の脳内変化 |
| 小林 聡 | 教授 | ガン発症と治療に対する基礎医学研究 |
| 三田 雄一郎 | 助教 | 糖尿病発症メカニズムの解析 |
| 西川 恵三 | 教授 | 骨代謝と免疫の基礎医学研究 |
| 西川 喜代孝 | 教授 | 細胞生物学に基づく創薬研究 |
| 野口 範子 | 教授 | 酸化ストレスによる病気と生体防御の機構 |
| 齋藤 直人 | 准教授 | 神経機能生物学 |
| 高橋 美帆 | 助教 | 細胞内小胞輸送に関する研究 |
| 浦野 泰臣 | 准教授 | 脂質代謝と神経変性疾患に関する研究 |
| 和久 剛 | 准教授 | がん微小環境に関する分子生物学的な研究 |
| 渡辺 政隆 | 特別客員教授 | 科学コミュニケーションの教育と実践 |
| 米井 嘉一 | 教授 | 老化と危険因子の評価、糖化ストレス |

スポーツ健康科学部

● スポーツ健康科学科

| | | |
|--------|-----|----------------------------|
| 新井 彩 | 准教授 | トレーニング科学/バイオメカニクス |
| 海老根 直之 | 教授 | 人間栄養学、エネルギー代謝、身体活動量 |
| 遠藤 華英 | 助教 | スポーツを通じた国際協力、開発と平和のためのスポーツ |
| 藤澤 義彦 | 教授 | スポーツ選手の資質に関する研究 |
| 福岡 義之 | 教授 | 低温低酸素での呼吸・循環・体温の環境適応 |
| 北條 達也 | 教授 | スポーツ外傷・障害の疫学および予防 |
| 石井 好二郎 | 教授 | 運動処方法の開発および展開 |
| 石倉 忠夫 | 教授 | 運動技能学習、スポーツ心理学 |
| 岩田 昌太郎 | 准教授 | 良い保健体育授業の創造と教師の専門性開発 |
| 井澤 鉄也 | 教授 | スポーツ生化学 |
| 上林 清孝 | 准教授 | 運動神経生理学、運動制御・学習 |
| 河西 正博 | 助教 | 障害者スポーツ論 |
| 松倉 啓太 | 准教授 | スポーツにおけるコーチング |
| 中村 康雄 | 教授 | スポーツ・バイオメカニクス |
| 二宮 浩彰 | 教授 | スポーツ・マーケティング |
| 庄子 博人 | 准教授 | スポーツビジネス |
| 高橋 克毅 | 助手 | 骨格筋デザイン |
| 高倉 久志 | 准教授 | 骨格筋の有酸素性代謝能力に関する研究 |
| 竹田 正樹 | 教授 | スポーツ競技力とトレーニングの運動生理学 |
| 田附 俊一 | 教授 | 「コツ」や「カン」習得の理論と実践：スポーツ運動学 |
| 土屋 吉史 | 助教 | 骨格筋幹細胞の分化制御 |
| 若原 卓 | 准教授 | 骨格筋のメカニクス |
| 柳田 昌彦 | 教授 | 介護・生活習慣病予防のための運動疫学研究 |
| 築瀬 康 | 助教 | リハビリテーション |
| 横山 勝彦 | 教授 | スポーツ政策論・スポーツ組織文化論 |

心理学部

● 心理学科

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 青山 謙二郎 | 教授 | 学習心理学、行動分析学、食行動の心理学 |
| 藤村 友美 | 准教授 | 精神生理学、感情のコミュニケーション |
| 畑 敏道 | 教授 | 生理心理学(行動と脳の関係について) |
| 石川 信一 | 教授 | 臨床児童心理学 |
| 神原 広平 | 助教 | 臨床心理学、認知行動療法 |
| 神山 貴弥 | 教授 | 開発的生徒指導と子どもの心理・社会的発達 |

| | | |
|--------|-----|---------------------|
| 毛利 真弓 | 准教授 | 犯罪心理学 |
| 武藤 崇 | 教授 | 行動分析学(臨床心理学) |
| 中谷内 一也 | 教授 | リスク認知と災害準備 |
| 及川 昌典 | 教授 | 社会心理学 |
| 興津 真理子 | 教授 | 臨床心理学、家族心理学 |
| 大屋 藍子 | 准教授 | 臨床心理学、行動分析学 |
| 杉若 弘子 | 教授 | 臨床心理学、パーソナリティ心理学 |
| 竹原 卓真 | 教授 | 認知心理学、顔魅力 |
| 田中 あゆみ | 教授 | ヒューマン・モチベーション |
| 津田 裕之 | 助教 | 知覚心理学、認知心理学 |
| 津田 業摘 | 助教 | 臨床心理学・臨床行動分析 |
| 内山 伊知郎 | 教授 | 乳幼児の認知・感情発達の研究 |
| 余語 真夫 | 教授 | トラウマを含むストレス反応の予防・ケア |

グローバル・コミュニケーション学部

● グローバル・コミュニケーション学科

| | | |
|---------------------|-----|---------------------------|
| Regine DIETH | 准教授 | 日本現代社会とジェンダー |
| Bettina GILDENHARD | 准教授 | 移民研究、多文化共生 |
| FUKUSHIMA Marcelo | 准教授 | 国際経済、国際ビジネス |
| 長谷部 陽一郎 | 教授 | 認知言語学、コーパス言語学 |
| 伊勢 晃 | 教授 | 20世紀フランス文学 |
| 郭 雲輝 | 教授 | 現代中国語学 |
| 河原 大輔 | 准教授 | アメリカ文化研究、映画学 |
| 窪田 光男 | 教授 | 社会言語学 |
| Dana John LINGLEY | 助教 | 応用言語学部、第二言語モチベーション |
| 松木 啓子 | 教授 | 言語人類学から考えるコミュニケーション |
| 南井 正廣 | 教授 | 18世紀イギリス文学・文化 |
| Ghislain MOUTON | 助教 | 応用言語学、フランス語教育法 |
| 中村 艶子 | 教授 | アメリカ研究(女性労働の日米比較) |
| 中西 裕樹 | 教授 | 東南中国に分布する諸言語・方言の歴史研究 |
| 中田 賀之 | 教授 | 英語教育学、応用言語学 |
| Peter NEFF | 教授 | 英語教育、応用言語学 |
| 孫 樹奇 | 准教授 | 現代中国語学、中日対照言語研究 |
| 須藤 潤 | 准教授 | 音声コミュニケーション、日本語教育 |
| 鈴木 美紀子 | 助教 | 第二言語習得法 英語教授法 |
| 鈴木 伸子 | 教授 | 日本語教育、留学生のためのキャリア教育 |
| 諏訪 暁 | 助教 | 19世紀および現代のイギリス文学 |
| Roehl SYBING | 助教 | 異文化理解、多言語対話、定性調査の方法論 |
| 玉井 史絵 | 教授 | 19世紀イギリスの文化と文学 |
| 寺西 隆弘 | 教授 | メタファー拡張による概念形成 |
| 唐 顯芸 | 准教授 | 台湾・中国の近現代文学 |
| 内田 尚孝 | 教授 | 中国近現代史、近現代日中関係史、中国外交 |
| UCHINO Crystal Kimi | 助教 | カルチュラルスタディーズ、社会史、マイノリティ研究 |
| 脇田 里子 | 教授 | 日本語教育、ライティング教育 |
| 吉田 優子 | 教授 | 言語の変種、方言の音韻分析 |

専任教員スタッフ・研究分野一覧

総合政策科学研究科

| | | |
|--------------|-----|--------------------------|
| 足立 光生 | 教授 | 持続可能な社会に向けた投資、市場、企業 |
| Ofer FELDMAN | 教授 | 政治心理学 |
| 藤本 哲史 | 教授 | ワーク・ファミリー・バランス |
| 原田 隆史 | 教授 | 図書館情報学 |
| 加本 裕介 | 教授 | 社会福祉行政・生活構造 |
| 井口 貢 | 教授 | 文化・観光政策の要諦としての人文知の所在 |
| 入江 容子 | 教授 | 地方自治体の組織的問題・構造・管理・政策 |
| 柿本 昭人 | 教授 | 近代社会システムを歴史的に探究する |
| 川口 章 | 教授 | ワーク・ライフ・バランスとジェンダー平等 |
| 川井 圭司 | 教授 | スポーツの法と政策 |
| 川上 敏和 | 教授 | ゲーム理論の応用 |
| 川浦 昭彦 | 教授 | 公共選択 |
| 風間 規男 | 教授 | ガバナンス・ネットワークの構造と機能に関する研究 |
| 小谷 真理 | 准教授 | 環境基準の正統性、行政裁量の統制 |
| 久保 真人 | 教授 | 働きやすい組織と個人のウェルビーイング |
| 真山 達志 | 教授 | 行政学、政策形成論、政策実践論 |
| 三好 博昭 | 教授 | 技術を社会に活かす公共政策の研究 |
| 武蔵 勝宏 | 教授 | 議会の立法過程・制度、直接民主制の実証分析 |
| 中島 恵理 | 教授 | 地域におけるSDGs実現と新しい手法での社会変革 |
| 中田 喜文 | 教授 | 技術者の働き方と創造性に関する研究 |
| 根岸 祥子 | 准教授 | 先進国・開発途上国における国際資本の役割 |
| 新見 陽子 | 教授 | 国際開発・貧困・格差・ジェンダー |
| 野田 遊 | 教授 | 地方自治研究 |
| 野間 敏克 | 教授 | 地域経済にとって望ましい地域金融の研究 |
| 岡本 由美子 | 教授 | フェアトレードの社会的インパクトと今後 |
| 大島 佳代子 | 教授 | 教育を受ける権利・生徒の人権 |
| 太田 肇 | 教授 | 個人を生かす組織の研究 |
| 大和田 順子 | 教授 | ソーシャルイノベーションと地域デザイン |
| 多田 実 | 教授 | 感情科学に基づくマーケティングリサーチ |
| 田中 秀樹 | 准教授 | 現代社会における人材・組織マネジメント |
| 田中 宏樹 | 教授 | 少子高齢社会の地域経営 |
| 富樫 耕介 | 准教授 | 国際政治学(紛争研究)、旧ソ連地域研究 |
| 月村 太郎 | 教授 | バルカン地域研究、地域紛争比較研究 |
| 王 嬌 | 助手 | 人的資源管理 |
| 山谷 清志 | 教授 | 政策評価と政府のアカウントビリティ |
| 吉田 徹 | 教授 | 政治学(比較政治学、ヨーロッパ政治) |

グローバル・スタディーズ研究科

| | | |
|----------------------|-----|-------------------------|
| 秋林 こずえ | 教授 | ジェンダー研究、平和教育研究 |
| Gavin James CAMPBELL | 教授 | アメリカ史、アメリカ宗教研究 |
| Anne GONON | 教授 | 社会的暴力とケア研究 |
| 菅野 優香 | 教授 | クィア・スタディーズ、映画・視覚文化研究 |
| 菊池 恵介 | 教授 | グローバルゼーション論、レイシズム研究 |
| 三牧 聖子 | 准教授 | アメリカ政治外交史、国際関係論 |
| 南川 文里 | 教授 | 社会学、人種エスニシティ研究、移民研究 |
| 峯 陽一 | 教授 | 開発研究、人間の安全保障 |
| 村田 雄二郎 | 教授 | 中国思想史、中国近現代史、日中関係史 |
| 内藤 正典 | 教授 | 国際移動論、現代イスラーム地域研究 |
| 中西 久枝 | 教授 | 中東ユーラシアの紛争防止、国際協力論 |
| 西川 由紀子 | 教授 | 国際関係論、平和研究、東・東南アジア地域 |
| 岡野 八代 | 教授 | 西洋政治思想史、フェミニズム理論 |
| 太田 修 | 教授 | 朝鮮半島研究、朝鮮近現代史、近現代日朝関係史 |
| 小山田 英治 | 教授 | 開発途上国と新興国のガバナンス問題研究 |
| 銭 鷗 | 教授 | 中国の思想と歴史、日中文化・学術交流史 |
| 富山 一郎 | 教授 | 日本研究、沖縄近現代史研究 |
| 巖 善平 | 教授 | 現代中国の社会と経済、労働移動、農業と食糧問題 |
| 周 俊 | 助教 | 中国政治史、中国共産党史 |

脳科学研究科

| | | |
|--------|----|---------------------|
| 金子 奈穂子 | 教授 | 成熟脳内における神経細胞産生と再生 |
| 正水 芳人 | 教授 | 神経回路を創出するための技術開発と応用 |
| 松井 鉄平 | 教授 | 神経計算分野 |
| 御園生 裕明 | 教授 | アルツハイマー病の分子メカニズム研究 |
| 元山 純 | 教授 | 脳発生発達過程の制御機構の解明 |
| 坂場 武史 | 教授 | シナプス伝達・可塑性メカニズム |
| 高橋 晋 | 教授 | 認知行動機能を実現する脳神経機構の解明 |
| 高森 茂雄 | 教授 | 神経伝達物質放出の分子メカニズム |

司法研究科

| | | |
|-----------------|--------|----------------------------|
| 浅野 有紀 | 教授 | 法哲学、私法の基礎理論、法多元主義 |
| 深谷 格 | 教授 | 民法(特に債権法) |
| 濱田 毅 | 教授 | 刑事訴訟法 |
| 林 昭一 | 教授 | 民事訴訟における証拠法に関する研究 |
| Colin P.A.JONES | 教授 | 英米法・日本を中心とする比較法、ロボットと法;身分法 |
| 笠原 宏 | 特別客員教授 | 日EUの独占禁止法の法制度及び運用実務 |
| 木下 孝治 | 教授 | 保険契約法、保険監督法 |
| 松原 久利 | 教授 | 違法性の錯誤と刑事責任 |
| 松本 哲治 | 教授 | 憲法上の経済的自由権、自己決定権 |
| 御幸 聖樹 | 教授 | 憲法、権力分立論 |
| 村中 孝史 | 特別客員教授 | 労働法 |
| 中西 正 | 教授 | 倒産法(破産法、民事再生法、会社更生法) |
| 大中 有信 | 教授 | 契約の基礎理論と意思表示法の比較法的検討 |
| 佐伯 祐二 | 教授 | 行政の活動と組織、行政と裁判をめぐる法 |
| 坂巻 綾望 | 教授 | 租税法、国際課税、所得税法、法人税法 |
| 佐久間 毅 | 教授 | 民法、信託法 |
| 佐々木 典子 | 教授 | 民法、ドイツ民法 |
| 洲見 光男 | 教授 | 日・米・独の刑事手続の比較研究 |
| 十河 太朗 | 教授 | 刑法、共犯論 |
| 園田 賢治 | 教授 | 民事訴訟法 |
| 洲崎 博史 | 教授 | 保険法 |
| 高橋 宏司 | 教授 | 国際取引法、国際私法、国際民事手続法 |
| 横田 光平 | 教授 | 子ども法 |

ビジネス研究科

●ビジネス専攻

| | | |
|-------------------|----|----------------------|
| 有井 健 | 教授 | 自然保護・環境保全 |
| Philippe BYOSIERE | 教授 | 革新的リーダーシップ組織におけるナレッジ |
| 崔 裕真 | 教授 | 京都と京都企業のデジタル戦略経営 |
| 藤原 浩一 | 教授 | データサイエンスと経営戦略 |
| 井上 福子 | 教授 | 人的資源管理と組織開発 |
| 加登 豊 | 教授 | 管理会計、コストマネジメント |
| 河南 順一 | 教授 | マーケティング、コミュニケーション、戦略 |
| 児玉 俊洋 | 教授 | 中小企業、地域産業政策 |
| 森 良弘 | 教授 | イノベーションマネジメント |
| 文 世一 | 教授 | 都市経済学、交通経済学 |
| 野瀬 義明 | 教授 | コーポレートファイナンスに関する実証分析 |
| 山下 貴子 | 教授 | 企業のマーケティング戦略と消費者行動 |

●グローバル経営研究専攻

| | | |
|--------------------|-----|-------------------------------------|
| Robert W. ASPINALL | 教授 | 日本と英国における政治と教育 |
| Isabell HANDLER | 准教授 | 観光管理 |
| 飯塚 まり | 教授 | 経営戦略(SDGs等)、ウェルビーイング、経営倫理、経営戦略と組織開発 |
| 和泉 真澄 | 教授 | 国際人口移動、北米人種関係史、法と自由 |
| 奥平 寛子 | 准教授 | 労働市場政策や人事に関するデータ分析 |
| 須貝 フィリップ | 教授 | 持続可能なマーケティング、価値共創 |
| 股 勇 | 教授 | ものづくり経営学 |
| 吉田 悦章 | 教授 | 新興国ビジネス、イスラーム金融、フィンテック |

●寄付教育研究プロジェクト

| | | |
|-------|----|----------------------|
| 沖 勝登志 | 教授 | 経営計画におけるイノベーション戦略の活用 |
|-------|----|----------------------|

キリスト教文化センター

| | | |
|-------|-----|----------------------|
| 越川 弘英 | 教授 | キリスト教の実践神学(礼拝、宣教、牧会) |
| 森田 喜基 | 准教授 | 日本におけるキリスト教教育、歴史と実践 |

人文科学研究所

| | | |
|-------|-----|--------------------|
| 林田 秀樹 | 教授 | 開発経済学、インドネシア経済論 |
| 本岡 拓哉 | 助教 | 近現代日本の地域研究、都市の社会問題 |
| 関口 寛 | 准教授 | 近現代日本の社会史・思想史・文化史 |

ハリス理化学研究所

| | | |
|-------------------|----|--------------------|
| 榭 太一 | 助教 | マスメディアの科学コミュニケーション |
| Philip TROMOVITCH | 教授 | 人間の性に関する研究 |
| 鈴木 祐太 | 助教 | その場資源利用のための物理化学 |

アメリカ研究所

| | | |
|-------|----|----------------------|
| 石黒 安里 | 助教 | アメリカ・ユダヤ人女性史、シオニズム思想 |
| 川鍋 健 | 助教 | アメリカ憲法、憲法、日米裁判官任免手続 |

歴史資料館

| | | |
|-------|-----|----------------|
| 浜中 邦弘 | 准教授 | 日本考古学一瓦・寺院・都市一 |
| 若林 邦彦 | 教授 | 考古学(弥生～古墳時代) |

学習支援・教育開発センター

| | | |
|-------|-----|--------------------|
| 宮田 尚子 | 准教授 | パーソナルネットワーク、職業意識 |
| 澤 宏司 | 准教授 | 数理学、数理論理学 |
| 趙 智英 | 助教 | 中世日本文学、日韓の説話文学 |
| 木村 千夏 | 准教授 | 情報や情報技術の適切かつ効果的な活用 |

免許資格課程センター

| | | |
|-------|-----|--------------------|
| 原田 隆史 | 教授 | 図書館システム・情報システムの高度化 |
| 本多 千明 | 准教授 | 市民性教育、教育政策、教材開発 |
| 井上 浩史 | 教授 | 1人1人を徹底的に大切にする生徒指導 |
| 森口 洋一 | 准教授 | 社会科教育 |
| 中瀬 浩一 | 教授 | 特別支援教育、聴覚障がい教育 |
| 奥野 浩之 | 准教授 | 社会科のカリキュラム開発 |
| 佐藤 翔 | 准教授 | 図書館・情報サービスの利用分析 |
| 田中 希穂 | 教授 | 動機づけと適応、異文化間教育 |
| 山口 洋介 | 助教 | 認知心理学、創造的思考教育 |
| 柳澤 彰紀 | 教授 | 学校教育実践学 |

グローバル教育センター

| | | |
|--------------------|-----|---------------------|
| Anya C. BENSON | 准教授 | 現在日本のメディアと子供のメディア文化 |
| 有井 健 | 教授 | 自然保護・環境保全 |
| Robert W. ASPINALL | 教授 | 日本と英国における政治と教育 |

日本語・日本文化教育センター

| | | |
|--------|-----|---------------------|
| 大工原 勇人 | 准教授 | 現代日本語の談話分析 |
| 原田 朋子 | 助教 | 日本語学・日本語教育 |
| 平 弥悠紀 | 教授 | 日本語学/日本語教育 |
| 李 長波 | 教授 | 言語学、日本語学、比較文化史 |
| 松本 秀輔 | 准教授 | 日本語学・日本語教育 |
| 徐 潤純 | 教授 | 日本語学・社会言語学・日韓言語比較研究 |

国際教育インスティテュート

| | | |
|------------------|-----|-----------------|
| Colin DAVIS | 教授 | 国際経済学、経済成長 |
| Gregory POOLE | 教授 | 教育・言語人類学 |
| Gill STEEL | 教授 | 比較政治、世論、投票行動 |
| Jennifer MCGUIRE | 准教授 | 教育人類学、ろう者学、障がい学 |
| David UVA | 助教 | 歴史教育、日本史、植民地の歴史 |

研究開発推進機構

| | | |
|-------|-----|------------------------|
| 藤永 綾乃 | 助手 | 超越論哲学としてのショーペンハウアー研究 |
| 藤岡 慧明 | 准教授 | コウモリの音響行動生態の工学的理解 |
| 廣光 佑哉 | 助手 | 運動学習・制御、観察学習、スポーツ心理学 |
| 板倉 昭二 | 教授 | 乳幼児における社会性の発達 |
| 加藤 正晴 | 准教授 | 人のコミュニケーションの発達 |
| 川見 文紀 | 助教 | 災害後のすまい・住宅再建の格差についての研究 |
| 木谷 彰宏 | 助手 | 歴史学(特に沖縄近現代史) |

| | | |
|-------|-------|----------------------|
| 小島 秀和 | 教授 | 環境科学と自然科学の融合 |
| 松原 耕平 | 助教 | 臨床児童心理学 |
| 西川 和樹 | 助手 | 近代日本の食文化史 |
| 奥田 耕平 | 助手 | 生体鉱物の模倣による高韧性複合材料の開発 |
| 嶋田 容子 | 助教 | 乳幼児と保育の音環境 |
| 城田 愛 | 学術研究員 | ヒトの睡眠に関する科学的研究 |
| 平 光佑 | 助手 | フランス政治思想 |
| 田中 聖也 | 助教 | 高温物質化学 |
| 藤 睿 | 教授 | 協調型モノのインターネット |
| 高橋 侑里 | 助手 | 都市人類学(アジア系アメリカ人) |
| 都竹 絢子 | 助手 | 英語教育学・外国語学習 |
| 八木 智生 | 助手 | 近世の寺院と芸能・説話 |
| 和田 昌也 | 助手 | アーレント研究・現代フランス政治哲学 |
| 鈴木 越生 | 学術研究員 | 多民族の対立と共存にかんする社会学的研究 |

●大学院高度化推進支援センター

| | | |
|--------|-----|----------------------|
| 畦地 裕統 | 助教 | 認知・行動を制御する脳神経機構の研究 |
| 埜 京子 | 准教授 | 脳神経伝達分子メカニズムの解明 |
| 橋本谷 祐輝 | 准教授 | シナプス可塑性の分子メカニズム |
| 林 健二 | 准教授 | マウス大脳皮質一次視覚野の機能発達 |
| 井出 薫 | 助教 | 認知行動機能を実現する脳神経機構の解明 |
| 伊藤 優樹 | 助教 | 感覚情報を統合する神経メカニズム |
| 河野 洋幸 | 助教 | 中枢神経系におけるシナプス伝達機構の研究 |
| 城所 比奈子 | 助教 | 発生過程における脳形成の原理 |
| 三木 崇史 | 准教授 | 中枢神経における神経伝達秩序の統合的理解 |
| 西村 周泰 | 准教授 | ヒトiPS細胞を用いた神経機能の再生研究 |
| 尾崎 弘展 | 准教授 | 痛みを生み出す脳神経回路の研究 |
| 蘇武 佑里子 | 助教 | 成体脳内新生ニューロンの移動機構の解析 |
| 鳥居 知宏 | 准教授 | 神経グリア細胞間相互作用を司る基盤解析 |
| 米村 洋而 | 助教 | タンパク質輸送の制御機構 |

高等研究教育院

| | | |
|--------|--------|----------------------|
| 石川 正道 | 特別客員教授 | 今の自分を未来に置くフューチャーデザイン |
| 加治木 神哉 | 准教授 | 巨大科学の歴史、省エネルギーの歴史 |
| 上浦 基 | 准教授 | 数理情報学、情報哲学 |

※2023年4月1日時点の在籍者および所属となります。

同志社人の 横顔

30ページからの「学び」を知って
ご協力いただいた
学生の方たちの同志社での
学びを紹介します。

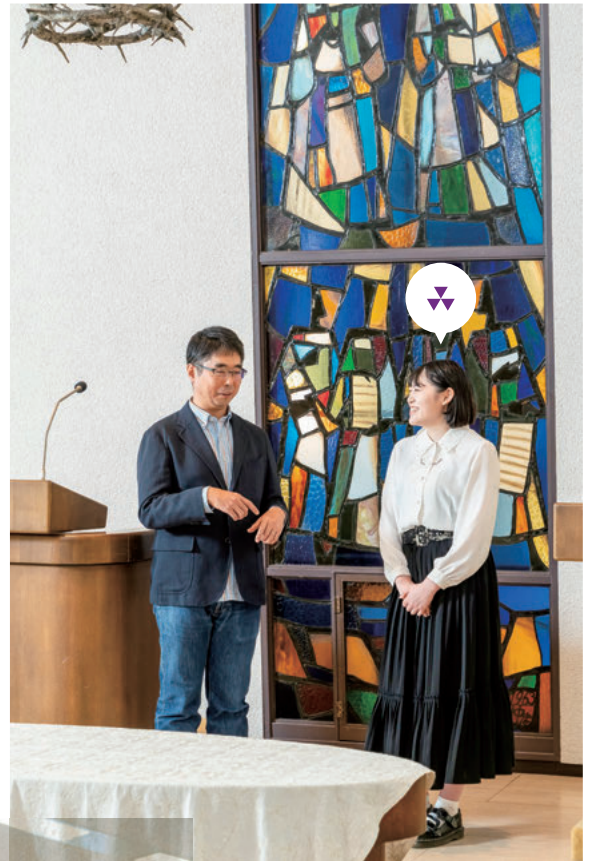
※学年は取材当時

神学部神学科3年次生

西山桜由

Nishiyama Sayu

日本では宗教、特に一神教に触れる機会が少ないと思います。グローバル化が進むなか、様々な社会の人々の根本にあるものが宗教なので、深く知りたいたいと思い神学部に入りました。神学部では、世界で起こっている事象を一般的に日本で報道されるのとは違う側面、視点からアプローチします。今後はモロッコへ留学予定です。現地でホームステイして、座学では学べないことを体験し、これまで学んできたことの答え合わせをしてきます。将来的には日本を飛び出し、海外で仕事をしたいと考えています。



経済学部経済学科4年次生

丸山凜太郎

Maruyama Rintaro

大学で何を学ぼうか考えていたときに、この学部の案内冊子で「経済学は社会を見るモノサシである」という言葉を見つけ、客観的に物事をとらえる視点を身につけたいと思い入学を決めました。学んでみて感じたのは、経済学は自由な学問だということ。社会のあらゆる出来事が経済と結びついているため、学びは多岐にわたります。IT系のベンチャー企業へ就職予定ですが、ここで学んだ「論理的思考力」を生かしていきたいと考えています。



グローバル地域文化学部
グローバル地域文化学科4年次生

西澤日南子

Nishizawa Hinako

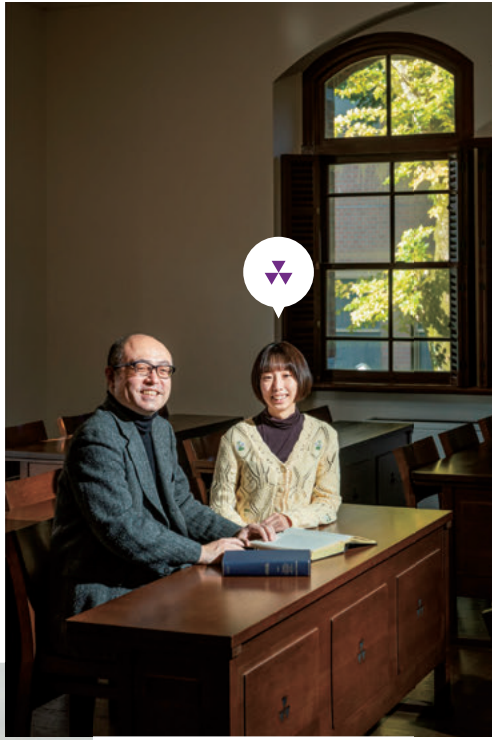
この学部を選んだのは、グローバルな経験を積むことのできる多彩なプログラムが用意されていたから。学部では、アメリカ史を学びましたが、歴史の出来事ひとつをとってもマジョリティ、マイノリティそれぞれの視点から考えることの大切さを教わりました。留学先のノースカロライナ大学では、アメリカ南部史や女性史などを学び、ウィメンズマーチにも参加しました。多角的な視点と柔軟な発想力を身につけるにはぴったりな学部だと思います。

文学部哲学科3年次生

山川更紗

Yamakawa Sarasa

オープンキャンパスに参加したとき、「大学4年間を爽りあるものにするのは、君たちの自主性だ。そのためにこちらは何でも用意する」という当時の学長の言葉に感銘を受け、入学を決めました。オンラインを経て、ドイツのテュービンゲン大学へ留学したときに感じたのは「自分はまだまだできないことが多い」ということ。同時にできないことにチャレンジするガッツも身に付きました。直近の目標はドイツ語で哲学を学べるくらいまで語学力を磨くこと。まだまだ学ぶことはたくさんあると思っています。



文化情報学部文化情報学科4年次生

立花杏奈

Tachibana Anna

高校2年生までは物理が好きだったのですが、成績が伴わず文転しました。それでも理系を捨てきれず、文理両方を学べる文化情報学部を志望しました。6歳から三味線を習っているのですが、日本の伝統文化は口頭で伝えるものが多いんですね。これをデータサイエンスの手法で見える化すれば、誰でも弾けるようになるのではと思ったのも動機の一つです。ただ映画鑑賞も好きだったので、いまは映像文化論研究室でハリウッド映画の女性像の変容を研究しています。将来は映画製作に携わりたいと思っています。



グローバル・コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション学科
3年次生

片岡満里子

Kataoka Mariko

オープンキャンパスでキラキラと輝く先輩に憧れて入学を決めました。入学後、Welcome GC!という学部内団体に入り、私も後輩に学部の魅力を伝えたいと思ったのですが、すぐコロナ禍に。活動に制限があったものの、だからこそ留学に多様な選択肢があることや、異文化理解を深められる十分な環境がこの学部にあることを発見できました。将来の夢は英語の先生。私自身、海外からの留学生や先生たちに支えられて苦手意識のあった英語をレベルアップできました。英語を使えることの楽しさを子どもたちに伝えたいです。

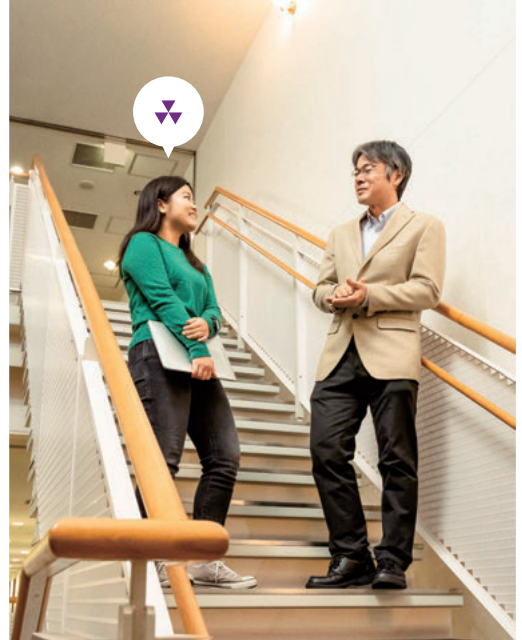


社会学部社会福祉学科4年次生

安野伊万里

Yasuno Imari

言語を学ぶことが好きだった関係で手話に興味を持ち、また、アジアやアフリカにおける障害児の支援に関わる仕事がしたいと思い、社会福祉を学ぶことに決めました。同志社大学は社会福祉教育で長い歴史を持っていることに加え、新島襄の生き方や建学の理念が社会福祉の考え方と共通していることもあり、入学を決めました。今後、同志社大学大学院に籍を置きつつ、「同志社新島スカラシップ」奨学生として新島の母校・アーモスト大学で学ぶ予定です。



心理学部心理学科3年次生

藤堂有絢

Todo Aria

小学生のころ学校に行けない時期があり、そのとき相談に乗ってくれたのがカウンセラーでした。それがきっかけで私もカウンセラーになりたいと思い、1、2年次生から実践的学習ができる同志社を選びました。心理学は実験や統計分析など理系の要素もたくさんあって、文系の私には大変ですが、もともと興味があることなので難しくても楽しいです。大学院に進んで公認心理師の資格を取り、受刑者の更生に携わる法務技官が、日本で暮らす外国人のためのカウンセラーになりたいと思っています。

キャンパスマップ

今出川校地



詳しくはこちら



今出川キャンパス

- ①アームストロング (登録有形文化財)
- ②ゲストハウス
- ③光塩館 / 法学部・法学研究科事務室
- ④啓明館 (登録有形文化財)
- ⑤新島遺品庫
- ⑥待辰館
- ⑦神学館 / 神学部・神学研究科事務室
- ⑧致遠館
- ⑨有終館 (重要文化財)
- ⑩弘風館 / 情報教室、国際教養教育事務室、入学センター

- ⑪明德館 / 食堂、コンビニ、学生ラウンジ
- ⑫徳照館 / 文学部・文学研究科事務室
- ⑬図書館
- ⑭クラーク記念館 (重要文化財) / キリスト教文化センター
- ⑮至誠館 / 商学部・商学研究科事務室
- ⑯扶桑館 / 国際センター、国際交流ラウンジ
- ⑰ハリス理化学館 (重要文化財) / 同志社ギャラリー
- ⑱同志社礼拝堂 (チャペル) (重要文化財)
- ⑲彰栄館 (重要文化財)
- ⑳真義館
- ㉑寧静館 (改築工事中) ※2023年秋季期運用開始
- ㉒博達館
- ㉓良心館 / 情報教室、今出川キャンパス教務センター、経済学部・経済学研究科事務室、学生ラウンジ、食堂、コンビニ、書籍・購買店舗、旅行カウンター、カフェ、ラーニング・コモンズ、ITサポートオフィス

烏丸キャンパス

- ㉔志高館 / 情報教室、グローバル地域文化学部事務室、グローバル・スタディーズ研究科事務室、総合政策科学研究科事務室、国際教育インスティテュート事務室、学生ラウンジ、コンビニ

室町キャンパス

- ㉕養梅館 / 学生支援センター、カウンセリングセンター、保健センター、キャリアセンター、司法研究科事務室、ビジネス研究科事務室、ハーディーホール、クロバーホール

新町キャンパス

- ㉖新創館 (建設中) ※2023年秋季期運用開始

バス停留所 地下鉄出入口

- ㉗尊真館 / 学生ラウンジ
- ㉘臨光館 / 情報教室、社会学部・社会学研究科事務室、政策学部事務室、新可力カテリア
- ㉙漢水館
- ㉚学生会館 (本館) / クラブ・サークル部室、練習場、会議室、シャワー室、新町ショップ、学生ラウンジ
- ㉛新町別館 / クラブ・サークル部室、練習場
- ㉜他
- ㉝継志寮 / 多目的ルーム、体育施設

京田辺校地

詳しくはこちら



京田辺キャンパス

- ①真誠館 / 体育関係の練習場
- ②京田辺体育ハウス1
- ③京田辺体育ハウス2
- ④体育系ボックス棟
- ⑤養上館 / スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務室
- ⑥デイヴィス記念館 / 体育館兼講堂、食堂、購買
- ⑦恵音館
- ⑧光喜館
- ⑨訪賓館 / 脳科学研究科事務室
- ⑩紫苑館 / 食堂
- ⑪成心館 / 京田辺キャンパス教務センター、学生支援センター

- ⑫多目的ホール
- ⑬日輝館 / 食堂、おしんが橋丁、書籍・購買店舗、旅行カウンター、コンビニ、学生ラウンジ
- ⑭知真館3号館
- ⑮京田辺別館 / 文化系クラブ・サークルBOX、音楽・演劇総合練習場 (音楽・コース・演劇各種習場、アトリエ、会議室など)、学生ラウンジ
- ⑯知真館2号館 / 歴史資料館
- ⑰保健センター
- ⑱知真館1号館 / カウンセリングセンター
- ⑲前業館 / 国際センター、キャリアセンター
- ⑳文楽館 / 講師控室、教員ラウンジ、共同研究室
- ㉑新島記念講堂

- ㉒同志社ローム記念館 / リエゾンオフィス、プロジェクトルーム、カフェ
- ㉓情報メディア館 / 情報教室、ITサポートオフィス
- ㉔夢告館 / 文化情報学部・文化情報学研究科事務室
- ㉕知証館北館 (機械系実験習場、機械実習工場、機械実習工場別棟)
- ㉖知証館南館 (自然系等実験実習棟、電気系実験実習棟)
- ㉗言語 / 礼拝堂
- ㉘光館 / キリスト教文化センター
- ㉙香柏館 / 心理学部、心理学研究科事務室、グローバル・コミュニケーション学部事務室
- ㉚ラーネット記念図書館 / ラーニング・コモンズ
- ㉛頌真館 / 情報教室
- ㉜恵遠館
- ㉝創考館 / 共同実験棟
- ㉞理化学館 / 理工学部・理工学研究科事務室

- ㉟報辰館
- ㊱香知館
- ㊲有徳館西館
- ㊳有徳館東館
- ㊴至心館
- ㊵澄明館
- ㊶慶心館 / 生命医科学部・生命医科学研究科事務室
- ㊷業成館 (0-egg)
- ㊸業成館
- 学研都市キャンパス
- ㊹伏風館

大学公式webサイト・公式SNS



公式webサイト

同志社大学



※2023年夏、リニューアル予定



大学案内
webサイト



公式アプリ



公式Twitter



公式YouTube



公式Facebook



アクセスマップ

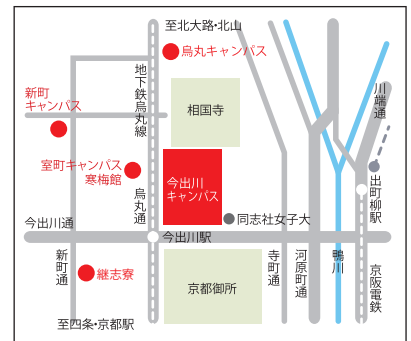
※今出川キャンパスから京田辺キャンパスまで約60分



各キャンパスの詳細、
アクセスなど
詳しくはこちら

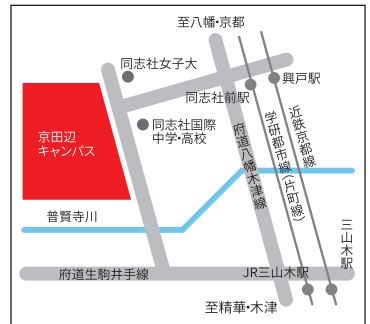


●今出川校地



・地下鉄「今出川」駅から徒歩1分・京阪「出町柳」駅から徒歩15分

●京田辺キャンパス



・近鉄「興戸」駅から徒歩15分
・近鉄「三山木」駅から徒歩7分
・近鉄「新田辺」駅から徒歩10分
・JR「同志社前」駅から徒歩10分

●学研都市キャンパス



・近鉄「木津川台」駅から徒歩15分



同志社大学

〔発行〕同志社大学 〔編集〕同志社大学 広報部広報課
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL:075-251-3120
<https://www.doshisha.ac.jp>